



カトリック調布教会の旅路の記録

(聖年・サレジオ100周年・巡礼教会への歩み)



2025年1月24日
カトリック調布教会



目次

1. 概要
2. 聖霊と共に歩んだ旅路の記録一覧表
3. 主なイベントの詳細記録
4. 巡礼時の参加者に配布されるパンフレット
5. 巡礼前に参加者をお願いするノヴェナの祈り（チマッティ神父様）
6. チマッティ神父様の生涯・言葉





【補足】聖年のキャラクター(Luce)について サレジオ学院中学高等学校Facebookより

▶ 「ルーチェと仲間たち」ー教会の「聖年」の巡礼キャラクター

▶ イタリアのバチカンの丘にあるキリスト教の本部のローマ教皇庁は2025年に開催される「聖年」(聖なる一年)のためのイメージ・キャラクターを発表しました。「ルーチェと仲間たち」という設定です。

▶ 「ルーチェ」と「鳩」と「天使」と「犬」が登場します。ルーチェとは光という意味で、巡礼の旅に参加する女の子のキャラクターです。鳩は平和のシンボルで、神の働きを巡礼者に実感させます。天使は旅の安全を保障する、神から派遣された警備担当の役目を果たします。犬は、神の計画に沿って相手を導く案内役です。

▶ ルーチェの両目の中にはホタテ貝の殻の絵が描かれています。ホタテ貝は、いのちの豊かさのイメージを思い出させるシンボルであり、スペインのサンチャゴ・デ・コンポステラの巡礼地を旅する人びとが首から下げる「おまもり」の形です。日本国際博覧会(大阪・関西万博)のバチカン・パビリオンでルーチェと仲間たちに会えます。

▶ ところで「聖年」(「ヨベルの年」、「解放の年」; ラテン語: Iobeleus、英語: Holy Year, Jubilee Year)とは「ローマを巡礼する者に特別に罪のゆるしを約束するとともに償いの免除を与える」という意図で、14世紀以降の歴代の教皇によって定められた「恩赦の年」のことです。





【補足】聖年のキャラクター(Luce)について サレジオ学院中学高等学校Facebookより

- ▶ 当初は旧約時代の「ヨベルの年」(雄羊の角で作った笛 [ヨベル] を吹き鳴らして神の慈愛が及ぶことを告げ知らせる一年) にならって50年ごとに行いましたが、「聖年」を迎えることができずに人生を終える人が多かったので、キリストの生涯の歩みの長さに合わせて33年ごとに行うようになり、さらには現在は25年ごとになりました。
- ▶ 「ヨベルの年」とは、あらゆる借金が免除されて、人間らしく生きられるチャンスが与えられる一年という意味で、金持ちは貧しい人にお金を捧げて協力します。そして、貧しい人は金持ちの温情を受けながら人間らしい生活を取り戻せます。
- ▶ こうしておたがいに助け合う愛情に満ちた生き方を実現する社会の仕組みがイスラエルにはありました(実は単なる理想論で、実際に実行に移されたかどうかは確認できません)。その理想の伝統をキリスト教が受け継いだのです。
- ▶ 古代イスラエルの民はエルサレム神殿に巡礼しました。キリスト者もこの習慣を受け継ぎました。巡礼を志す者は自分のからだ全体を用いて祈り、自分の生涯が神に至るまでの長い旅路であることを五感全体で経験します。つまり巡礼の歩みは各自に人生の旅路の意味を再確認させる絶好のチャンスなのです。

Luce
Friends

The ANGEL represents the union between earthly experience and the presence of God in life, offering courage in moments of solitary suffering. It symbolizes God's presence, accompanying each person's journey. A guardian angel as a companion throughout life.

LIGHT (LUCE) in the EYES represents the vision of the Light of God and the journey toward it. Light is a symbol of hope.

LIGHT in the EYES
The shape of the design resembles a shell, a symbol of perseverance in faith.

The DOVE (symbol of the Holy Spirit) as a companion on the journey. The dove is also a symbol of purity, the search for God, freedom, and a messenger of peace.

The DOG was for San Rocco (the Saint Pilgrim) a sign of Divine Providence that assisted him in times of extreme need. It symbolizes his fidelity to God's calling. The dog is also a symbol of friendship.

tokidoki
©TOKIDOKI, LLC. Designed by Simone Legno



1. 概要

- ▶ 本記録は、2024年4月から始まり、翌年の2025年の聖年、サレジオ会来日100周年を通して、カトリック調布教会共同体が巡礼教会として、主イエス・キリストから受けた恵みと旅路を聖霊と共に歩んだ記録として纏めたものである。





2. 聖霊と共に歩んだ旅路の記録一覧表

年月	概要	詳細項	参加者数	備考
2024.04.01(月)	調布教会に主任司祭として山野内神父様着任	3.1		
2024.04.07(日)	山野内主任司祭歓迎会	—	約150名	
2024.05.18(土)	富士聖母巡礼	3.2	41名	
2024.07.14(日)	調布教会の近隣の方々を招待して、夏祭りを実施	3.3	約450名	
2024.07.26(金)	東京教区から聖年に調布教会が巡礼教会になることの正式示達有り	—		
2024.08.15(木)	山野内主任司祭の調布教会での初洗礼式	3.4	約200名	3歳の小川菜那さん(聖マリアーナ)
2024.08.31(土)	巡礼教会での奉仕スタッフのための祈りと霊性の研修会実施	3.5	48名	
2024.09.15(日)	敬老のお祝い	3.6	約80名	
2024.09.21(土)	十字架上のイエス様の霊性を体験するミニ巡礼を開催	3.7	114名	日本語version
2024.09.28(土)	十字架上のイエス様の霊性を体験するミニ巡礼を開催	3.8	173名	スペイン・ポルトガル語version
2024.10.27(日)	調布教会の近隣の方々を招待して、チャリティバザーを実施	3.9	約500名	「みんなのミサ」の参加者約370人
2024.11.10(日)	調布教会の子供達のための七五三のお祝い	3.10	約100名	



2. 聖霊と共に歩んだ旅路の記録一覧表

年月	概要	詳細項	参加者数	備考
2024.12.01(日)	信徒総会（宣教司牧）	3.11	約100名	
2024.12.24(火)	馬小屋(プレゼビオ)作り	3.12	約10名	ベトナムの青年有志
2024.12.15(日)	チャリティ クリスマスミニコンサート	3.13	約100名	
2024.12.21(土)	待降節 黙想会	3.14	約130名	
2024.12.22(日)	子どもクリスマス会（調布教会の近隣の子供達を招待して、クリスマス会を実施）	3.15	約100名	
2024.12.24(火)	主の降誕(クリスマス) 聖年開始（平和と全免償の恵みの1年の始まり）	3.16	約400名	バチカンの聖ペトロ大聖堂の “聖なる扉”が開放される
2024.12.31(火)	聖年に合わせて、調布教会が巡礼教会としてスタート	3.17	約80名	
2025.01.11(土)	サレジオ神学院静修のためのミニ巡礼	3.18	23名	13:15-14:15
2025.01.12(日)	成人の祝福	3.19	約50名	11:00時ミサ・ミサ後
2025.01.18(土)	第1回 調布教会共同体を主な対象者とするミニ巡礼	3.20	約50名	9:30受付開始 10:00-16:00
2025.01.26(日)	聖ヨハネ・ボスコのお祝い	3.21	約150名	11:00時ミサ・ミサ後
2025.**.**				
2025.**.**				



2. 聖霊と共に歩んだ旅路の記録一覧表

年月	概要	詳細項	参加者数	備考
2025.02.07(金)	堤神学生終生誓願前のご親戚のためのミニ巡礼	3.22	約30名	9:30受付開始 10:00-16:00
2025.02.15(土)	第2回 調布教会共同体を主な対象者とするミニ巡礼	3.23	約50名	9:30受付開始 10:00-16:00
2025.02.27(木)	ブラジル司教団の来訪	3.24		
2025.03.15(土)	第3回 調布教会共同体を主な対象者とするミニ巡礼	3.25	約50名	9:30受付開始 10:00-16:00
2024.03.16(日)	信徒総会（新年度）	3.26	約100名	
2025.03.22(土)	大人のための四旬節黙想会/ 浦和教会巡礼団来訪	3.27	約100名	9:30受付開始 10:00-16:00
2025.03.29(土)	青年のための聖週間黙想会	3.28	約50名	中高生・青年、聖週間の準備
2025.04.05(土)	第4回 調布教会共同体を主な対象者とするミニ巡礼	3.29	約50名	9:30受付開始 10:00-16:00
2025.04.20(日)	復活の主日	3.30	約400名	
2025.04.29(火)	新生会館巡礼団来訪(アンドレア司教)	3.31	約50名	日帰り
2025.**.**				
2025.**.**				
2025.**.**				



2. 聖霊と共に歩んだ旅路の記録一覧表

年月	概要	詳細項	参加者数	備考
2025.05.03(土)	医療従事者のための巡礼・分かち合い?	3.32	約50名	日帰り
2025.05.10(土)	ミニ巡礼 (多摩教会他巡礼団来訪)	3.33	約50名	日帰り
2025.05.24(土)	ADMAための巡礼	3.34	約50名	
2025.06.21(土)	ミニ巡礼 (他教会からの巡礼団来訪)	3.35	約50名	9:30受付開始 10:00-16:00
2025.07.19(土)	ミニ巡礼 (他教会からの巡礼団来訪)	3.36	約50名	9:30受付開始 10:00-16:00
2025.08.22(金)	晃華学園教職員来訪	3.37	約50名	9:30受付開始 10:00-16:00
2025.08.30(土)	ブラジル人の青少年のための巡礼	3.38	約100名	宿泊要
2025.09.20(土)	ミニ巡礼(中高生?)	3.39		
2025.09.21(日)	中高生のための巡礼	3.40	約**名	
2025.**.**				
2025.**.**				



2. 聖霊と共に歩んだ旅路の記録一覧表

年月	概要	詳細項	参加者数	備考
2025.10.04(土)	ラテン系共同体の来訪によるミラグロス祭 (奇跡のキリスト)	3.41	約800名	紫色の祭典
2025.10.18(土)	ブラジル系共同体の来訪によるアパレシーダ祭(褐色の聖母)	3.42	約400名	
2025.10.26(日)	青年達(日本、ベトナムなど)のための巡礼	3.43	約400名	
2025.11.03(月)	子供達(小学生)のための巡礼	3.44	約**名	
2025.**.**	夫婦のためのミニ巡礼(結婚記念25周年, 50周年等)			
2025.11.15(土)	ミニ巡礼 (他教会からの巡礼団来訪)	3.45	約50名	9:30受付開始 10:00-16:00
2025.12.13(土)	ミニ巡礼 (他教会からの巡礼団来訪)	3.46	約50名	9:30受付開始 10:00-16:00
2025.**.**				
2025.**.**				
2025.**.**				
2025.**.**				
2025.**.**				



3. 主なイベントの詳細記録





3.1 山野内主任司祭調布教会着任挨拶(2024.4.1)

- ▶ 「あなたがたに平和 (shalom) があるように」 (ルカ24:36)
- ▶ 復活されたイエスは何度も弟子たちに「あなたがたに平和があるように」と現れました。
- ▶ イエスご自身が賜物であることによって悲しんでいた弟子たちは喜びに満たされ、閉じこもり、恐れ、不安から解放され、自信を持って復活の命に生かされていることを言葉と行いを通して証しました。すると、共同体は元気に明るくなり、多くの人々が引きつけられ、弟子たちの数が増えました。
- ▶ 同じイエスが私たちにも雨のようにこの賜物を注いでくださっています。このことを皆さんは実感していますか。地面のように私たち一人ひとりがこの恵みに潤されると、集っているこの教会共同体には、それぞれの特徴、性格、年齢やカリスマが生かされた素敵な花畑になるのではないのでしょうか。ここを訪れる一人ひとりが「平和、shalom」、すなわちそれぞれがその都度必要としている恵み（憩い、癒し、解放、喜び…）が与えられる居場所であるということです。
- ▶ 東京教区民としてこの花畑は「宣教する共同体」「交わりの共同体」「すべての命を大切に作る共同体」と言います。この実現を教会の母である聖マリアに委ねましょう。





3.2 富士聖母巡礼(2024.5.18) (1/2)

- ▶ 5月18日(土)、山野内神父様が着任されて初めての富士聖母巡礼が開催され、大人36人、子供5人、合計41名が参加。観光バスを借りての巡礼の旅で、朝7時50分に調布教会を出発し、山野内神父様と共に、参加者全員で巡礼に向けての神様の祝福を聖母に取り次いで頂けるように祈り、9時過ぎの談合坂のサービスエリアでの休憩を挟んで、聖歌隊の方々のリードで、皆さんで“野ばらのおう”を合唱後、山野内神父様に黙想のヒント(ロザリオの各玄義と巡礼での繋がり)を頂きながら、皆さんでロザリオを唱え、各人が巡礼への思いを祈りの中に込めました。
- ▶ 富士山2合目の富士聖母子像のある駐車場に到着したのは10時30分頃。参加者全員で、聖母子像までの道を支え合って登ったり、ミサの為の椅子や道具を運んだりして、ミサの準備をしました。子供達5人が全員、重い椅子を大人と協力して運んでいたのが印象的でした。駐車場から聖母子像までの山道は、この1年間でベトナムのボランティアの方々によって、**コンクリートで階段状に舗装**(右の写真参照)され、歩き易くなっていました。日本で苦勞の絶えない生活を強いられている中で、ベトナムの方々の方々の心の豊かさに感謝した次第です。
- ▶ **ミサ**では、第1朗読に使徒言行録28・16-20,30-31、福音朗読はヨハネ21・20-25が捧げられました。山野内神父様がお説教の中で、福音朗読でヨハネがイエスの胸もとによりそうシーンを捉えて、「ヨハネは、イエス様の何を聴いていたのだろうか？」と問いかけがありました。・・・「ヨハネは、おそらく、イエス様の心臓の鼓動で聴いていたであろう」と、心臓の鼓動 = 生きている証 = 命。原生林の森の中のミサ、差し込む初夏の光、そよ風の音、鳥の鳴き声、参加者の方々一人一人に、イエス様の鼓動が聴こえたことでしょう。





3.2 富士聖母巡礼(2024.5.18) (2/2)

- ▶ また、神父様から「**マリア様は、カルワリオの山(ゴルゴタの丘)に、十字架の苦しみをイエス様と共に負いながら登り、そして、十字架の下に立っていた**」、この聖母子像のように。その霊性と精神性の高さを感じて見ましょと神父様は促されていました。これらの聖母子像に思いを馳せながら、ミサ後、皆さんで記念撮影。皆さんの笑顔が印象的です。



- ▶ 11時40分に富士聖母子像を後にして、富士山5合目を目指し、12時に到着。30分程の休憩・散策の後、バスは、富士スバルラインを山中湖に向けて走り、雪の聖母修道院に到着したのは、13時35分。修道院のダイニングルームでお祈りの後、皆さんで昼食を取り、その後、修道院の庭にあるルルドの前で、この1年間で亡くなられた方の祈念カードを聖歌“われらの母なる”を唄いながら、祈りと共に、燃やしました。



- ▶ 14時50分、修道院のシスターの方々に見送られながら、帰路につき、教会到着前に、車中で、山野内神父様と共に、マリア様に祈りを捧げ、巡礼を感謝の内に終え、18時に調布教会に到着。調布教会では、家族を迎えに来てくれた方で温かい出迎えの雰囲気包まれていました。
- ▶ 最後に、富士聖母巡礼が聖霊に満たされ、無事に行われる為に準備に関わって下さった方々、お祈りして頂いた皆さんに感謝致します。 聖霊と共に！



3.3 調布教会こども夏祭り（2024.7.14） by 堤神学生

- ▶ 7月14日（日）17時から調布教会の子ども夏まつりが行われました。今回の夏まつりではコロナ禍以前のように外部の方々にもお声がけさせていただき、アトラス調布（お隣のマンション）のお子さんのいるご家庭、星美幼稚園に通っていらっしゃるご家庭、晃華学園小学校シャミナード会（キリスト教に興味がある生徒の集まり）の方々を招待することができました。来場者の数は教会の奉仕スタッフを含め450人となり、昨年の倍以上の大規模な開催になりました。



- ▶ 夏まつりは体育館での山野内神父様による挨拶と祈りによって始まり、ゲームコーナーでは青年スタッフを中心に射的やスーパーボールすくい、的あてなど5種類のゲームが行われ、親子揃って楽しむ姿が見られました。また、設置されていたテーブルサッカーでは来場された子どもたちと一緒に山野内神父様やマルシリオ神父様が熱狂する姿を見ることができ、大いに盛り上がっていました。食事コーナーでは総務・行事委員、奉仕スタッフ、ベトナムの青年たちが協力して焼きそば、いなり寿司、フランクフルトなどを準備し、大人数の来場者のお腹を満たすことができました。食事の提供や綿菓子作りには中高生会の子たちも大活躍してくれました。





3.3 調布教会こども夏祭り (2024.7.14) by 堤神学生

- ▶ 夏まつりのフィナーレはやはり打ち上げ花火で、昨年からさらにグレードアップした見事な花火を見ながら子どもたちは大きな歓声を上げて楽しんでくれました。花火が終わり、山野内神父様の挨拶をもって今年の夏まつりは締めくくりとなりましたが、帰って行かれる方々の表情から、教会での短いひと時を存分に楽しんでくださったことが伝わってきました。
- ▶ 数日前から天候が心配されていましたが、本番の時間帯はほとんど雨も降ることなく神様に見守られていたことを実感しました。また、昨年に比べて急激に来場者数が増えましたが、たくさんの方々の協力によって大きな事故やトラブルもなく終わることができ、大盛り上がりの子ども夏まつりになりました。





3.4 山野内主任司祭の調布教会での初洗礼式(2024.8.15)

- ▶ 聖母の被昇天の祭日に小川菜那さん(3歳) が、山野内神父様の司式で洗礼を受けられ(洗礼名は、聖母被昇天にちなんで“聖マリアーナ”)、教会共同体の一員になった。洗礼の秘跡は、教会共同体の土台であり、共に歩む共同体の喜びでもある。
- ▶ 山野内神父様にとっても調布教会聖堂で初めての洗礼式となった。これまで使用されていなかったマリア像横のスタンドガラスの洗礼盤の上部に聖水を受け止めるガラス皿(信徒からの寄贈品)を乗せ、初めての洗礼式が行われ、教会聖堂の中で、ここを「洗礼の秘跡」の場所と定めた。これは、今後、誰でも、キリストの息吹を受けて、教会共同体の一員となった日を振り返ることができるようになるためである。
- ▶ 菜那さんも成長する過程で、調布教会の洗礼盤を見るたびに、洗礼の秘跡によっていただいた恵みと祝福を聖母と共にを思いめぐらし、信仰を深めていくことができるようになることは教会共同体の希望である。





3.5 巡礼教会での奉仕スタッフのための祈りと霊性の研修会実施（2024.8.31）

- ▶ 2025年の聖年の年に始まる巡礼教会の奉仕者のための初めての研修会が行われた。詳細の事前情報があまり無いまま集まった奉仕者は48名(調布教会45名+多摩教会1名+所沢教会1名+小金井教会1名)。今から何が始まるのだろうかという不安と期待が入り交じった雰囲気会場(チマッティホール)に漂う中、13時30分から、山野内神父様の説明が始まり、全体会が終わったのは16時頃(下図の全体写真は終了時。安堵感と喜びの雰囲気に包まれている)。その後、分科会が自主的に行われ、全てが終わったのは18時頃であった。
- ▶ 説明資料は、山野内神父様と実行委員の方々によって、約3ヶ月前からコツコツと作り始められ、8/28の委員会でガイドブック(日本語、スペイン語、ポルトガル語、英語)として、奉仕者用にクリアファイルに編集されたものと巡礼日当日に参加者に渡されるパンフレットで、それらに基づいて、山野内神父様から、ミニ巡礼の趣旨と内容が奉仕者に話された。その後、参加者全員で巡礼コースを神父様と共に廻り、趣旨を体験し、その体験を通じて、各人が奉仕内容を自主的に申し出た(次頁参照)
- ▶ **趣旨:** マリア様の生涯の旅路(ベツレヘム→ゴルゴタの丘)に倣って、調布教会のミニ巡礼を通してイエス様の霊性に触れ、各人が心を霊の働きに合わせて旅をして、各人が各場所で“わたし”に響いたもの(霊的会話)を、“あなた”と分かち合い、“わたし”と“あなた”との違う響きを味わい、その響きを共有することで、“わたしたち”の響きに変えていき、一つの“うねり”としての共同体になっていくこと。(シノダスの実践)
- ▶ **内容:** 神学院聖堂→チマッティ神父様のお墓→チマッティ資料館→聖骸布(神学院112教室)→昼食→分かち合い→門をくぐる準備(全免償の準備(感謝、願い、約束))→御ミサ(全免償のための回心を奉獻し、共同体の一致を願う)→全免償の恵みを受け、新生





3.5 巡礼教会での奉仕スタッフのための祈りと霊性の研修会実施（2024.8.31）

- ▶ 下表は、8/31のミニ巡礼コース体験後、参加者自らの希望で奉仕内容を決めた奉仕スタッフの役割分担表です。
- ▶ この後、さらに、調布教会以外の教会も含めて、大勢の方々の奉仕スタッフのお申し出を頂きました。

十字架上のイエス様の霊性を体験するミニ巡礼 奉仕スタッフ役割分担表

役割・担当	氏名	人数	備考
実行委員取り纏め	藤永悦子	1	
実行委員	藤永悦子、吉川真美、石倉由美子、井原さく子、今村知子、高島晶子、中村寛子、山城京子、上村祐子	9	井原さんは教会受付
受付(ミニ巡礼)	木下久美子、木村恵美子、池尾久美、泰山涼子、矢崎正、矢崎せい子	6	チマッティホール
神学院聖堂	藤代真知子、後藤さゆり、藤原康子、小林恵美子、加藤幸子	5	
チマッティ神父様のお墓	高島晶子、朝日双葉、寺戸まこ、西一恵、滝口一雄	5	
チマッティ資料館	千葉比呂志、林智、林厚子、木村哲、市井匠、藤代純一、玉林美男	7	
聖骸布	木下敏孝、片瓜和夫、釜田喜一郎、下田尊子、平林靖子、山城京子、井上学	7	神学院112教室
分かち合い(ファシリテータ)	高島晶子、高橋章子、下田尊子	3	チマッティホール(2グループ)、教理室、高校生会室、青年会室、マリア会室
門をくぐる準備	坂口泰子、片瓜かなえ、今村知子、猿川禮子	4	
食事	橋本知子、橋本信、坂本薫	3	チマッティホール
聖歌隊	石倉由美子、池尾久美、木下久美子、木村恵美子、木村哲、坂本薫、泰山涼子、吉川真美、林薫、上村祐子	10	御ミサ
記録・広報	井上学	1	
駐車場誘導			
救護室			ヨゼフ会室





3.6 敬老のお祝い (2024.9.15) (1/4)

- ▶ 9月14日(土)と9月15日(日)の各時間のミサと14時の特別ミサの中で敬老のお祝いと塗油の秘跡が行われました。今年は、塗油の秘跡の準備として、説明会とゆるしの秘跡が事前に行われ、皆さまの祈りの中で、これまで長きにわたり調布教会を支えてくださっている先輩方のご健康と豊かな恵みを教会共同体として分かちあったのではないかと思います。



各ミサの参加者は、全部合わせて138名でした。左図は、敬老の方にお祝いとして、ミサ後に配られた山野内神父様の手作りのカードと手芸の会のメンバーが丹精込めて作ったロザリオとロザリオ入れの袋と祈りのシートです。

ミサの中で、山野内神父様から敬老の方々へ『十字架からの3滴の油は、信仰・希望・愛を表しています。わたしたちの器(ランプ)に、愛の油が落とされているので、わたしたちは信仰の恵みを受けて生きています。家族の一人が神様と繋がっていれば、その家族はイエス様と繋がっています。たとえ、教会に来ることができなくても、毎日祈っているなら、同じことです。調布教会共同体のために、皆さんの毎日の喜び、つらいこと、生きていることを、1滴にして神様の手に委ねて下さい。これから、毎日、このランプ(教会共同体)に、皆さんの1滴1滴を落としてくれると、その油で教会共同体は明るくなります。今日、お渡しする一連のロザリオ(1コの主の祈り+10コのアヴェマリア)を毎日1回、教会共同体にいつも光があるように捧げてください。そして、来年迎える聖年の年に巡礼教会となる調布教会に訪れる巡礼者のひとりひとりに癒しがあるように祈ってください』との言葉がありました。





3.6 敬老のお祝い（2024.9.15）（2/4）

- ▶ ミサ後に教会聖堂内で、チマッティオーケストラと聖歌隊から敬老の方々への演奏と歌のプレゼントがありました。曲目は、①花はさく、②チマッティ神父様のアヴェマリア、③ごらんよ空の鳥の3曲で、②③は、敬老の方々も含めて、全員で合唱し、一体感のある集いとなり、前半を終了しました。





3.6 敬老のお祝い (2024.9.15) (3/4)

- ▶ 後半は、場所をチマッティホールに移しての茶話会が行われました。約50名の敬老の方々のご家族、付添い、聖歌隊の方々を合わせて約80名の参加があり、また、喫茶店風に注文する形式を取り入れ、皆さんに楽しんで頂けたようです。
- ▶ 参加者の一人である朝日さんから、『昨日は素敵な敬老会有り難うございました♪母がたいへん喜んでいました。自分で注文する楽しさや和やかな雰囲気でお花も明るさを増し、良い思い出になりました♪柔らかく食べやすいものの配慮も流石です。介護タクシーが来ていたのでお片付けもできず失礼致しました。次回からまた奉仕頑張ります♪御礼まで』という素敵なメッセージを頂きました。





3.6 敬老のお祝い（2024.9.15）（4/4）

- ▶ また、奉仕者の一人である土田さんからは、『皆さま、今日はお疲れさまでした。とてもよい敬老のお茶会でしたね。メニューもテーブルのセッティングとても心がこもって素敵でした。少しでもお手伝いできてうれしく思います』という感想も頂きました。
- ▶ 食事も一段落ついた頃、聖歌隊の方々が、準備して下さった里の秋、故郷、夏の思い出、浜辺の歌、赤とんぼの歌詞カードを皆さんに配り、全員で唱和して、大変盛り上がりました。声と同時に心も合っていく、そんな感じを皆さんは味わったのではないのでしょうか？
- ▶ 最後に、山野内神父様から、調布教会の一員であることを心から喜んで、ここにいる皆さんが、来年はさらに増えて、教会共同体のために祈って頂けることを願っていますとの言葉があり、祝福の内に敬老のお祝いを終わることができました。





3.7 十字架上のイエス様の靈性を体験するミニ巡礼(日本語) (2024.9.21)

- ▶ 来年(2025年)の聖年に向けての準備会の位置付けで実施されたが、奉仕者と巡礼者の合計114名(調布教会66名、小金井教会1名、所沢教会1名、多摩教会1名、浦和教会2名、本庄教会3名、太田教会1名、深谷教会3名、北浦和教会1名、麴町教会4名、富士見教会1名、都筑教会11名、春日部教会3名、浜松教会7名、麻布教会1名、成田教会1名、荻窪教会1名、瀬田教会1名、所属教会不明者5名)が参加した。東京教区、埼玉教区、横浜教区の3教区、18教会の方々が集まった。

十字架上のイエス様の靈性を体験するミニ巡礼 聖霊との旅路(9.21最終版) 2024.9.21
カトリック調布教会

時間	場所	内容	指導司祭	奉仕者	奉仕内容
8:50-10:00	教会入口/駐車場	来訪者及び車の誘導		今村(慎)、木村(恵)、玉林、木下(敬)	来訪者の誘導、車の駐車場への誘導
	チマッティホール	受付		木下(久)、木村(恵)、池塚、泰山、矢崎正、矢崎(甘)、天村	名簿・名札作成、名札渡し
10:00-10:30	神学院聖堂	十字架上のイエス様との出会い	山野内神父	藤代(真)、後藤、藤原、小林、加藤、佐藤	場所への誘導/案内・祈りへの導入説明
10:40-11:10	①チマッティ神父様のお墓	チマッティ神父様との出会い	山野内神父	高島、朝日、寺戸、西、小笠原(マ)、滝口(一)	場所への誘導/案内・祈りへの導入説明
	②チマッティ資料館 (キアツ神父様の聖蹟)	サレジオ来日100周年への観想	マルシオ神父	千葉、林智、林(厚)、木村(哲)、市位、藤代(純)、玉林	場所への誘導/案内・祈りへの導入説明
	③神学院1F(聖骸布)	聖骸布/受難のイエス様との出会い	コンブリ神父	木下(敬)、片瓜(和)、釜田、下田、平林、山城、井上	場所への誘導/案内・祈りへの導入説明
11:20-11:50	①チマッティ資料館 (キアツ神父様の聖蹟)	サレジオ来日100周年への観想	マルシオ神父	千葉、林智、林(厚)、木村(哲)、市位、藤代(純)、玉林	場所への誘導/案内・祈りへの導入説明
	②神学院1F(聖骸布)	聖骸布/受難のイエス様との出会い	コンブリ神父	木下(敬)、片瓜(和)、釜田、下田、平林、山城、井上	場所への誘導/案内・祈りへの導入説明
	③チマッティ神父様のお墓	チマッティ神父様との出会い	山野内神父	高島、朝日、寺戸、西、小笠原(マ)、滝口(一)	場所への誘導/案内・祈りへの導入説明
12:00-12:30	①神学院1F(聖骸布)	聖骸布/受難のイエス様との出会い	コンブリ神父	木下(敬)、片瓜(和)、釜田、下田、平林、山城、井上	場所への誘導/案内・祈りへの導入説明
	②チマッティ神父様のお墓	チマッティ神父様との出会い	山野内神父	高島、朝日、寺戸、西、小笠原(マ)、滝口(一)	場所への誘導/案内・祈りへの導入説明
	③チマッティ資料館 (キアツ神父様の聖蹟)	サレジオ来日100周年への観想	マルシオ神父	千葉、林智、林(厚)、木村(哲)、市位、藤代(純)、玉林	場所への誘導/案内・祈りへの導入説明
12:40-13:30	チマッティホール	昼食・団欒	山野内神父	橋本(和)、橋本(雅)、坂本(重)、山崎、岩崎	案内・誘導・案内・祈り・三ツ路理・片付け
13:40-14:20	チマッティホール等	分かち合い(6グループ)	山野内神父	山野内神父、高島、高橋、下田、山城、吉川、有村、井上	分かち合いのファシリテーター
14:30-15:00	チマッティホール	門をくぐるための準備(祈り、ミサ準備)	山野内神父	坂口、片瓜(か)、今村(知)、藤川、菊田	場所への誘導/案内・祈りへの導入説明
15:00-16:00	教会聖堂	御ミサ(イエス様と参加者との一致)	山野内神父	吉川、石倉、池塚、木下(久)、木村(恵)、木村(哲)、坂本、泰山、上村、林(智)、井上(亮)、天村、天野	先唱、朗読、聖歌、祈祷、オルガン等
全般 9:00-15:00	神父様の部屋	ゆるしの秘跡			場所への案内
	ヨゼフ会室	教壇室		林(厚)	参拝人の一時避難

注) 10:40-12:30の間は、巡礼団を3つのグループに分けて、移動して頂くことを想定しています。

▶ スケジュールと奉仕者の配置は、左記の表のとおり。

▶ 巡礼者が50名を超えたため、3グループに分けて、

- ①チマッティ神父様のお墓
- ②チマッティ資料館
- ③神学院1F(聖骸布)

を順番に巡るスケジュールにして、各場所の収容人数を超えないように配慮した。





3.7 十字架上のイエス様の靈性を体験するミニ巡礼(日本語) (2024.9.21)

- ▶ 全体のスケジュールと“**靈における会話**”との関係は、下表のとおり。巡礼者は、8:50の受付から始まり、御ミサが終わる16:00まで、ミニ巡礼全体が、**イエス様の靈性に触れ、シノドスの目指す靈における会話**を体験できるようにデザインされている。
- ▶ 午前中は、神学院聖堂、チマッティ神父様のお墓、チマッティ資料館、聖骸布との出会いを通して、“**わたし**”の中に沸き起こる神との出会いを体験する。
- ▶ 午後からの分かち合いで、“**あなた**”と神との出会いを“**わたし**”が共有することで、“**わたしたち**”と神との関係を見つける体験を共有する。
- ▶ **門をくぐる準備**で、再び、“**わたしたち**”を意識した神と“**わたし**”の関係を識別し、最後に御ミサで“**神とわたしたち**”を体験することになる。

時間	巡礼場所	内容	靈における会話
8:50-10:00	チマッティホール	受付→神学院聖堂へ移動	神にわたしがピントを合わせる準備
10:00-10:30	神学院聖堂	十字架上のイエス様に自分の心を合わせる	“神とわたし”の会話
10:30-12:30	チマッティ神父様のお墓	チマッティ神父様にイエス様へのとりなしを願う	
	チマッティ資料館 神学院112教室(聖骸布)	チマッティ神父様の生き様を思いめぐらす 聖骸布を通してイエス様の受難と復活を心に刻む	
12:30-13:30	チマッティホール(昼食)	グループ内のコミュニケーションを取る	“あなた”と“わたし”の出会い
13:30-14:30	マリア会室等(分かち合い)	私以外の方が体験した神との関係を傾聴する。	“神とあなた”の会話をわたしは共有し、“神とわたしたち”の関係を見出す
14:30-15:00	チマッティホール(門をくぐる準備)	全免償ための準備をする (感謝・願い・約束)	“わたしたち”を意識した “神とわたし”の関係を識別する
15:00-16:00	教会聖堂(御ミサ)	御ミサを通じて、共同体の一致を体験する	“神とわたしたち”との一致



3.7 十字架上のイエス様の靈性を体験するミニ巡礼(日本語) (2024.9.21)

- ▶ 2024.8.31の研修会で自主的に集まったチーム毎に9/21に向けての準備を進めた。時間が3週間と限られた中、zoom会議等も活用し、神父様やエキスパートの指導も仰ぎながら、実施内容をゼロからのスタートでチームメンバーと協議しながら創り上げていくことができたのは、大きな恵みであったと思う。それは、奉仕者ひとりひとりが自分の中のイエス様を外へ解放し、“種まく人”になるためのプロセスだった。

2024.9.21
カトリック調布教会

十字架上のイエス様の靈性を体験するミニ巡礼 奉仕スタッフ役割分担表(9.21最終版)

役割・担当	氏名	人数	備考
実行委員取り纏め	藤永悦子	1	
実行委員	藤永悦子、吉川真美、石倉由美子、井原さく子、今村知子、高島晶子、中村寛子、山城京子、上村祐子	9	井原さんは教会受付
受付(ミニ巡礼)	9/21 : 木下久美子、木村恵津子、池尾久美、泰山涼子、矢崎正、矢崎せい子、天村朋子 9/28 : ガビ、マルティーナ、シード、中村寛子、今村知子、高島晶子	13	チマッティホール
神学院聖堂	藤代真知子、後藤さゆり、藤原康子、小林恵美子、加藤幸子、佐藤雅代	6	
チマッティ神父様のお墓	高島晶子、朝日双葉、寺戸まこ、西一恵、滝口一雄、小笠原マリレーネ	6	
チマッティ資料館	千葉比呂志、林智、林厚子、木村哲、市位匠、藤代純一、玉林美男	8	
聖骸布	木下敏孝、片瓜和夫、釜田喜一郎、下田尊子、平林靖子、山城京子、井上学	7	神学院112教室
分かち合い(ファシリテータ)	山野内神父、高島晶子、高橋章子、下田尊子、山城京子、井上学、有村久美子、吉川真美	8	チマッティホール(2グループ)、教理室、高校生会室、青年会室、マリア会室
門をくぐる準備	坂口泰子、片瓜かなえ、今村知子、猿川禮子、菊田律子	5	
食事	橋本知子、橋本信、坂本薫、山崎祐子、岩崎	5	チマッティホール
聖歌隊	吉川真美、石倉由美子、池尾久美、木下久美子、木村恵津子、木村哲、坂本薫、泰山涼子、林智、上村祐子、井上充代、天村朋子、天野久美子	13	御ミサ
記録・広報	井上学	1	
駐車場誘導	9/21(今村信之、木村哲、玉林美男、木下敏孝) 9/28(モリ/Cesar(スペイン語)、福山まさし(ポルトガル語)、木村哲、木下敏孝、玉林美男)	6	神学院への駐車場利用許可願いの申請
救護室	林厚子	1	ヨゼフ会室



3.7 十字架上のイエス様の靈性を体験するミニ巡礼(日本語) (2024.9.21)

前日準備

- ▶ 9/20(金)に実行委員を中心に奉仕者が集まり、名札作り、巡礼時の案内旗作り、食堂(チマッティホール)のテーブルセット、分かち合いの場所の整備等を行った。皆さんの笑顔が印象的です！



分かち合い・門をくぐるための準備チーム



門をくぐるための準備チームの皆さん



左から、吉川さん、めぐみさん、山野内神父様のお母様



3.7 十字架上のイエス様の靈性を体験するミニ巡礼(日本語) (2024.9.21)

受付当日

- ▶ 聖霊との体験を求めて、受付が9時から始まった！





3.7 十字架上のイエス様の靈性を体験するミニ巡礼(日本語) (2024.9.21)

神学院聖堂

- ▶ ミニ巡礼を始めるのにあたって、わたしたちの信仰生活の原点であるイエス様にピントを合わせる為に、弟子たちが最初にイエス様に出会ったガリラヤに思いを馳せ、“ガリラヤの風かおる丘で”が唄われた。山野内神父様から『わたしたちの出発点は、神に愛されていること、そのことを再認識して、霊との会話をしましょう』との促しがあり、主の祈りを全員で唱えた。
- ▶ その後、十字架上のイエス様を見つめながら、パウロの言葉を聴く。



▶ コリントの信徒への手紙 “1:18-25” 十字架上のイエス

十字架の言葉は、滅んでいく者にとっては愚かなものですが、わたしたちは救われる者には神の力です。それは、こう書いてあるからです。「わたしは知恵ある者の知恵を滅ぼし、賢い者の賢さを意味のないものにする。」

知恵のある人はどこにいる。学者はどこにいる。この世の論客はどこにいる。神は世の知恵を愚かなものにされたではないか。世は自分の知恵で神を知ることができませんでした。それは神の知恵にかなっていません。そこで神は、宣教という愚かな手段によって信じる者を救おうと、お考えになったのです。ユダヤ人はしるしを求め、ギリシア人は知恵を探しますが、わたしたちは、

十字架につけられたキリストを**宣べ伝えています**。すなわち、ユダヤ人にはつまづかせるもの、異邦人には愚かなものですが、ユダヤ人であろうがギリシア人であろうが、**召された者には、神の力、神の知恵であるキリストを宣べ伝えているのです**。神の愚かさは人よりも賢く、神の弱さは人よりも強いからです。

- ▶ パウロには素晴らしいと思っていたキリストは、ギリシャ人やユダヤ人には受け入れられなかった。キリスト教の本質は、**十字架に対する信仰**。





3.7 十字架上のイエス様の靈性を体験するミニ巡礼(日本語) (2024.9.21)

神学院聖堂

イエス様は、いつも最高のものを私たちに差し出している

- ▶ **イエス様が十字架から“必死になって生きている人”に与え続けているもの(5つ)**
- ▶ 1) ご自分の母(マリア様)「婦人よ、ご覧なさい。あなたの子です」「見なさい。あなたの母です」
 - ・ご自分の母を私たちの母、教会の母としてくださいました。
 - ・マリア様は、私たちを子として受け入れてくださいます。
- ▶ 2) 渇く：人類の渇きがイエス様の渇き
 - ・自分の中に渇きを感じていますか？
 - ・自分の中にどのような渇きの叫びがありますか？
 - ・私たちの共同体、人類の渇きとは？
- ▶ 3) 酸いぶどう酒になったものを取り除いてくださる：本質でないものを取り除いてくださる
 - ・カナの婚礼で、水が良いぶどう酒に変わった。
 - ・良いぶどう酒の味を保っていますか？
 - ・自分の中で酸いぶどう酒(本質でないもの)になったものをイエス様にとりのぞいて頂く。
- ▶ 4) イエス様の息を受け取る：「息を引き取られた」
 - ・息、霊は、心を通ずる賜物である。
 - ・兄弟姉妹、自然の命の息を引き取る。
- ▶ 5) イエス様の脇腹から流れ出る血と水を受け取る。
 - ：血と水→聖霊とわたしの一致、愛のダイナミズムに入ること。
 - ・脇腹を刺しぬかれる。
 - ・神性と人性の命が湧き出るように。
 - ・聖体が湧き出るように：多様性の一致
 - ・洗礼が湧き出るように：子であること、兄弟愛



本質：十字架に対する信仰



カトリック調布教会



3.7 十字架上のイエス様の靈性を体験するミニ巡礼(日本語) (2024.9.21)

神学院聖堂

シスター・クレアが朗読され、黙想した

- ▶ **クレア・クロケット(Clare Crockett)** 1982.11.14-2016(33歳) 北アイルランドのデリーで生まれた
- ▶ 彼女が17歳の時、聖金曜日に体験した出来事です。
十字架に釘付けられたイエスの足に、接吻をする長老にクレアも近づき見ていました。
長老がその行為を終えたのを見た姉妹が、泣いているのを見ました。
「彼は私のために死んだ、彼は私を愛している。なぜ今まで誰も私にそれを言っていなかったのですか？」
クレアは主がどれほど自分を愛し、どれほどのことをしてくださったか理解しました。
そして彼女は「愛は愛によってのみ報われる」こと、
そして主が彼女に求められた愛とは、全てを与えることを意味することを理解しました。
- ▶ 2002年2月11日、シスターとして誓願を立て、33歳の時、エクアドルで地震に会い、帰天されました。



カトリック調布教会



3.7 十字架上のイエス様の靈性を体験するミニ巡礼(日本語) (2024.9.21)

神学院聖堂

- ▶ シスター・クレアの言葉の黙想後、“新しい器(4カ国語)”を皆さんで唱和。
- ▶ 最後に、山野内神父様から、次の問いかけがあった。
 - 1) 何か感じることはありますか？
 - 2) 理解できないこともあるかもしれません。
 - 3) 今から旅が始まりますが、それは、内的な旅です。
 - 4) 心の中から湧き上がる“私は神から愛されている”ということを感じる旅です。





3.7 十字架上のイエス様の靈性を体験するミニ巡礼(日本語) (2024.9.21)

チマツティ神父様のお墓

- ▶ ここは、チマツティ神父様が私たちのために祈ってくださっているところであり、私たちが、私たちの人生のいろいろな喜び、苦しみなどをチマツティ神父様に、祈りとしてお捧げするところです。ここでの祈りで、特別なお恵みを頂いた方は、調布教会に届けてください。との説明が奉仕スタッフからあり、次の言葉が朗読され、静けさの中での黙想が始まった。



チマツティ神父様のお墓チームによる説明

- ▶ 『ほほえみ、慈愛と祈りの人 チマツチ神父』 A.クレバコーレ著
……不思議な出来事……
- ▶ 昭和52年(1977年) 11月18日 — 略 — サレジオ神学院地下聖堂において、非常に変わった出来事があった。
- ▶ それは没後 12年 なんの特別な手入れもせず土葬された人の遺体検案が行われた時のことである。
- ▶ 柩(ひつぎ)の蓋は悪い条件のため 腐れかかっていた。その蓋が取り外されたとき、職務上立ち会っていた医師や、十数名の調査団と多くの人たちを驚かせたのは、
- ▶ 長い白いひげを蓄え、微笑みを含んだ目、手は胸の上に組んで黄土色をした一人の老人の遺体であった。
- ▶ 特殊な臭いはあったが、それは死臭でも腐敗臭でも無く、薄いまぶたや耳から唇にかけての状態は生前のままであった。まぶたはあけると容易にめくれ、離せば元に戻り、皮膚には弾力があり。指で押すとへこみ、指を離すと元に戻った。脱衣の際には、顎の関節も良く開閉し、肘の関節から指の先に至るまで、すべて正常に屈伸することが出来た。
- ▶ 遺体を持ち上げた医師は「今亡くなったばかりの人を抱きかかえたようだ」と語った。
- ▶ ただ、ロザリオは組んだ指をほぐすとき、金属の鎖の部分でバラバラとなり、スータンスータンの金属ボタンは腐食して脱落してしまった。
- ▶ この不思議な出来事に対し医師団は、医学的常識によっては、とても説明出来ない事だと断定した。
- ▶ これは、大正15年(1926年) 2月 イタリアから宣教師として来日し、日本を愛し、音楽で多くの人々を楽しませ、科学の分野にも貢献し、何よりも太陽が空にあるような明るく温かいその生活態度は、接する人々を魅了せずにはおかなかった **ヴィンチェンツォ・チマツティその人の遺体**であった。



3.7 十字架上のイエス様の靈性を体験するミニ巡礼(日本語) (2024.9.21)

チマッティ神父様のお墓

- ▶ チマッティ神父様を通して、イエス様の靈性とふれあう巡礼者の方々。
- ▶ 地下聖堂は、調布教会の信者にとって、チマッティ神父様の現存を感じられる特別な恵みの場所となっている。

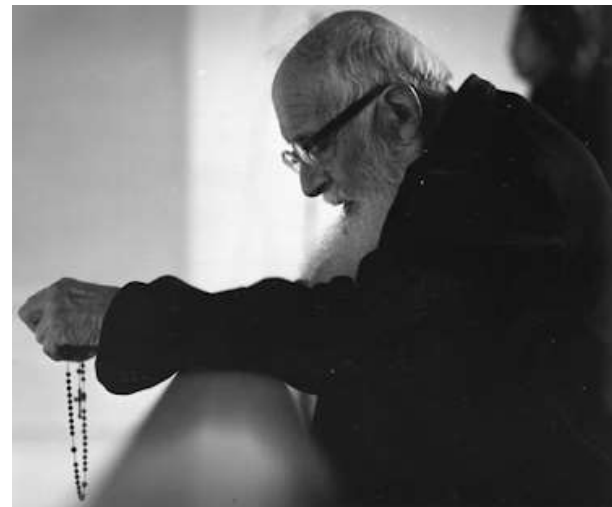




3.7 十字架上のイエス様の靈性を体験するミニ巡礼(日本語) (2024.9.21)

チマッティ神父様のお墓

- ▶ 黙想は、チマッティ神父様の柩、生前のロザリオの祈りをしているチマッティ神父様の写真を見ながら行なわれました。
- ▶ その後、「チマッティ神父様の取次ぎを願う祈り、感謝の祈り」のプリントを各自記入し、墓前にお捧げしました。





3.7 十字架上のイエス様の靈性を体験するミニ巡礼(日本語) (2024.9.21)

チマッティ神父様のお墓

- ▶ 黙想の締めくくりとして、「チマッティ神父様の祝福、列福を求める祈り」を巡礼者の皆さんで唱え、チマッティ神父様も弾いておられたオルガンの伴奏で、聖歌隊の方々と共に、アヴェマリア(チマッティ神父様作曲)を唱和し、祈りを深めました。
(聖歌隊の方々の協力に感謝致します！)
- ▶ 歌声が地下聖堂に響き、「歌うことは祈りです」というチマッティ神父様の声が聴こえるようでした。



チマッティ神父様の祝福 列福を求める祈り

心の柔和、謙遜なイエスよ、
あなたは忠実に神に仕えたチマッティ神父を通して
御父の私たちに対する愛を示して下さいました。
私たちも師の模範にならい、聖なる喜びに生き、
日々の務めを誠実に果たし、
祈りと愛による相互の一致、
また、あなたとの一致に励むことができますように。

(沈黙のうちに必要な恵みを願う)

あなたの母であり、私たちの助け、
導き手である聖母マリアの取り次ぎによって、
チマッティ神父の列福を早めてください。
アーメン。





3.7 十字架上のイエス様の靈性を体験するミニ巡礼(日本語) (2024.9.21)

チマッティ神父様のお墓

“チマッティ神父様の取次ぎを願う祈り”のプリント

『アヴェ・マリア』 by V.Cimatti

チマッティ神父様の取次ぎを願う祈り

皆さまのお祈りをこの用紙にお書きください。神父様の墓前にお納めください。
ご遠慮なくお書きください。

お願い

感謝の祈り

アヴェ マリア (I)

作曲 V.Cimatti
編曲 田中 進

Andante *p*

ア ヴェ マ リ ア め ぐ み み ち て
ア ヴェ マ リ ア き よ き お と め
A - ve Ma - ri - a gra - ti - a ple - na

mp *mf*

え ら ば れ し か み の は は
し ゅ く さ れ し イ エ ズ ス の は は
al - ba se - re - na Ma - ter Je - su

mf

い ま も い つ も と り な し た ま え か
あ わ れ み も て み ち び た ま え か
Tu nos re - spi - ce san - cta Ma - ri - a O,

f *p* 1. *mf* 2. *p* Fine

ん び な る は は ア ヴェ マ リ ー ア か ア
ア ヴェ マ
no - stra ma - ter pi - a vir - go Ma - ri - a O, a

Ave Maria megumi michite
erabareshi Kami no Haha
ima mo itsumo torinashitamae
kanbinaru Haha Ave Maria



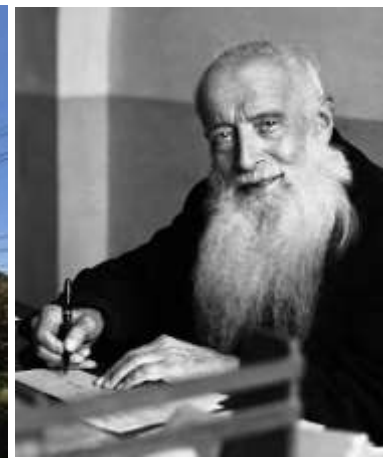
Ave Maria kiyoki otome
shukusareshi Iesu no Haha
awarenimote mitibikitamae
kanbinaru Haha Ave Maria



3.7 十字架上のイエス様の靈性を体験するミニ巡礼(日本語) (2024.9.21)

チマッティ資料館

- ▶ チマッティ資料館は、チマッティ神父様の遺徳を記念するために、1983年、日本のサレジオ修道会によって建てられました。チマッティ神父様は、1926年(大正15年)に9人のサレジオ会員と共に来日し、聖ヨハネ・ボスコによって創立された、貧しく恵まれない青少年の教育を使命とするサレジオ修道会の靈性を伝えるために活動を始めました。このため、来年(2025年)は、サレジオ来日100周年の節目にあたります。
- ▶ チマッティ神父様は、来日以来、戦前から、戦中、戦後40年にわたり、宣教師、音楽家、著作家、自然科学者、教育者として、日本では大変貧しい生活を強いられ、また、キリスト教への逆境にさらされる中、イエス様への強い信仰を糧に、サレジオ会の日本での礎を築きました。
- ▶ 資料館では、チマッティ神父様が残した遺産—楽曲や著作、手紙、化石、標本など、膨大な資料が収められています。





3.7 十字架上のイエス様の靈性を体験するミニ巡礼(日本語) (2024.9.21)

チマッティ資料館

2F

▶ ここでの、チマッティ神父様を通してイエス様の靈性に触れるポイントは4つ。

1) ドン・ボスコで一杯の心

- ・チマッティ神父様が3歳の時、ドン・ボスコを見る(一生の記憶となる)
- ・サレジオのカリスマに満たされた心

2) 召命の心

- ・日本で育てた司祭を戦争に取られ、戦死したことを悼み、作った曲が『刈り入れ』

3) ラウダート・シの心 (自然を愛し大切にする心)

- ・自然科学者、教育者として、化石や石を集め、自然の中にある神性を教え、伝えた。

4) 宣教の心

- ・宣教的な歌だけではなく、日本人の文化や感性を大切にして庶民が親しめる歌(『でんでんむし』など)を多数作り、日本人と共に歩む“真の宣教”を実践した。



聖歌隊有志による合唱



カトリック調布教会



3.7 十字架上のイエス様の靈性を体験するミニ巡礼(日本語) (2024.9.21)

チマッティ資料館

刈り入れ

でんでんむし

▶ 聖歌隊有志によって歌われたチマッティ神父様の楽曲を下記に示す。

La lumaca 726

Den den muskimuski
Cimatti
デンデンムシムシ (s. 1929)

Allegretto Canto

テムシム シカツム リカツム リ アタマ ガアルカ
メガアルカ ツリダセ ヤリダセ メダマダセ

63 かりいれは

V. Cimatti

かりいれは おおけれど
も はたらくものはすくな
し ゆえに はたらくものをそのかりいれ
に つかわさん ことを かりいれのぬ
1. しーにーね が え つかわ え
2.





3.7 十字架上のイエス様の靈性を体験するミニ巡礼(日本語) (2024.9.21)

チマッティ資料館

1F

- ▶ 資料館の入口横にキアラ神父様(遠藤周作の“沈黙”のモデルとなった人物)の墓標があり、1Fには、チマッティ神父様が作曲した1000曲の楽譜を収納している棚がある。



キアラ神父様の墓標：調布市指定有形文化財



チマッティ神父様が作曲した1000曲の楽譜を収納しているファイリング棚





3.7 十字架上のイエス様の靈性を体験するミニ巡礼(日本語) (2024.9.21)

チマッティ資料館

- ▶ 2024.10.06(日)のチマッティ神父様の命日には、夜まで電気がつけられ、ステンドグラスには、チマッティ神父様の生涯が照らし出された。





3.7 十字架上のイエス様の靈性を体験するミニ巡礼(日本語) (2024.9.21)

聖骸布

事前準備

- ▶ 2024.8.31のミニ巡礼の研修会で集まった奉仕メンバーは、9/21まで3週間しかないので、研修会終了当日(8/31)と翌日の9/1(日)の両日に、合わせて5時間程度の集中講義をコンプリ神父様から受け、聖骸布の理解を深めた。しかし、理解が深まると同時に、聖骸布の持つ受難と復活の情報量の多さに圧倒され、果たして、30分という限られた時間で、巡礼者の方々に事実を理解してもらい、聖骸布を通して、如何にイエス様の靈性に触れる体験してもらえるかが課題となった。
- ▶ この課題に対して、コンプリ神父様を含めて、メンバー全員でZoom会議を2回開催して、聖骸布の説明を最小限に留め、聖骸布の写真を近くで見ってもらうことで、十字架刑でのイエス様の心と体の痛みを感じてもらい、そして、その後に起きた復活に思いをめぐらしてもらうことに時間を割けるようにスケジューリングした。具体的には、説明を5分以内にして、最低限の情報提供に留め、見る時間と黙想の時間を十分に取り、巡礼者の頭に知識を詰め込むのではなく、聖霊が巡礼者の心に働きかける時間を多く取れるように配慮した。(次ページ参照)。
- ▶ これは、集まった奉仕メンバー全員が聖骸布を通してイエス様に触れた体験を持っていたからこそ計画できたことで、聖骸布そのものが持つパワーが巡礼者全員に与える影響を確信していたからではないかと思う。後日、巡礼者の方々の中から、いくつかの感想を聴くことができたが、それは、聖骸布を通して、イエス様の受難と復活のメッセージが巡礼者の方々の中にも確実に届いていることを知る機会と、今でもなっている。



3.7 十字架上のイエス様の靈性を体験するミニ巡礼(日本語) (2024.9.21)

聖骸布

事前準備

▶ 奉仕メンバーで協議した結果、聖霊のはたらきを信じて、以下のタイムラインとした。

時間	説明のポイント	備考
1. 説明 5分間	<ul style="list-style-type: none"> 聖骸布(亜麻布)がどのようにイエス様を包んでいたかの説明 (小さい聖骸布を2つに折って、実際の包み方を実演) 1898年に聖骸布(セピア色)を写真に撮ったら、そこに姿が出てきた(前方に展示している写真を指す) それは、鞭打たれ、拷問を受け、十字架刑に処され、殺された人の正面と背面の姿であった。 イエス様と聖骸布の一致点(聖書の記載との一致点) <ul style="list-style-type: none"> →鞭打たれた →茨の冠を被せられた →自分で十字架を担いだ →釘で十字架に付けられた →足を折られず、槍で胸を刺された(死後の血餅(血)と血清(水)が出た/死後に槍で刺された) 聖骸布の血は、布の裏面まで染みこんでいるが、姿(ネガ写真)は写っていない。 <ul style="list-style-type: none"> →先に聖骸布の血が布に染みこんだ。 →姿は、その後でできた。 →すなわち、復活の時に、ご遺体から何らかのエネルギーが出て、布の表面に遺体の影のような姿が焼き付けられた。 ヨハネ福音書： <ul style="list-style-type: none"> →“パトロとヨハネが墓に行った時、体がなく亜麻布が平らになっているのを見た” →これで、復活を信じたと言う。 これでわかるように、聖骸布には、イエス様の受難と復活についてのメッセージが詰まっている。 最後に教会聖堂に入って右側の壁に掲げている聖骸布は日本に一つしかないレプリカであることを伝える。 	<p>詳細の説明資料は最後に渡す (まずは、正面に掲示してある聖骸布に集中してもらおうため)</p>
2. 見る 12分間	<ul style="list-style-type: none"> 巡礼者全員に順番に聖骸布を近くで見せて頂きながら、釘、鞭の跡の話を適時話す。 巡礼者からの質問を適時受け、応える(コンプリ神父様に助けてもらう) 	BGMを流す
3. 黙想 13分間	<ul style="list-style-type: none"> “黙想”の準備として、姿勢と呼吸を整えて頂き、マルコ福音書(8・27-32)を静かに朗読する。 当日巡礼者に配布される“霊における会話メモ”に、感じたこと、味わったこと、気づかされたことを記載頂く 	



3.7 十字架上のイエス様の靈性を体験するミニ巡礼(日本語) (2024.9.21)

聖骸布

事前準備(パンフレット作り)

- ▶ 巡礼者の方々には、セッション後にも振り返りができるように、聖骸布HP (<https://sindon-jp.com/>) をベースにして、メンバーの木下さんのご尽力により、4ページ構成のパンフレットのドラフトを創って頂き、Zoom会議を開き、コンプリ神父様の指導を受けながら、校正を重ねて、まずは、日本語版を完成させた。

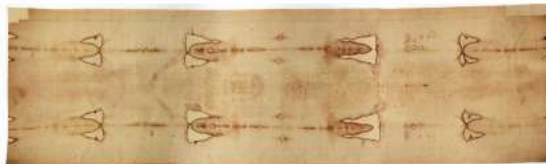


LA SANTA SINDONE

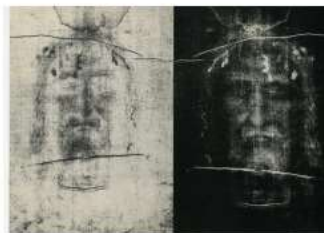
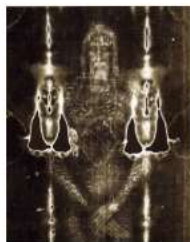
これこそ聖骸布

■聖骸布とは

「聖骸布」(イタリア語 Sindone、英語 Holy Shroud) とは、イタリアのトリノの聖ヨハネ大聖堂に保管されている長さ 4.41m 幅 1.13m の布。それは十字架から降ろされて墓でイエスの遺体が包まれた亜麻布だと言われている。それには鞭打たれ、拷問を受け、十字架刑に処せられた人の正面と背面の姿が見られる。処刑は福音書が語るイエスの刑と一致しているので、世界で最も研究された歴史的な遺品であるといえる。



聖骸布の上に二つの事実がある。一つは処刑された人物の血痕。もう一つは、ぼやけていて、輪郭がなく、掴みどころのない影のような正面と背面の実物大の人の姿である。もしそれを白黒写真に写せば、写真の「ネガ」のようであることが分かる。しかし、それが分かるために写真機の発明を待たなければならなかった。



この写真には立体感があり、直接に遺体から発せられた光によって布に焼き付いたように感じる。その顔は、私たちがよく知っているイエスの顔によく似ている。昔そのモデルになったと言われる。



カトリック調布教会

日本語



3.7 十字架上のイエス様の靈性を体験するミニ巡礼(日本語) (2024.9.21)

聖骸布

事前準備(パンフレット作り)

4カ国語の内、日本語版を下記に示す。ご参照方。

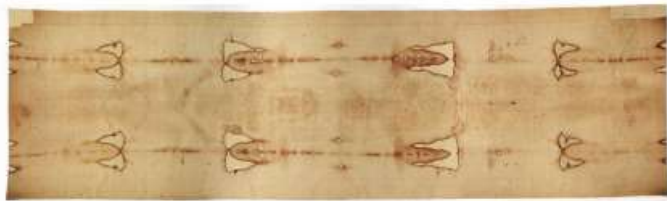


LA SANTA SINDONE

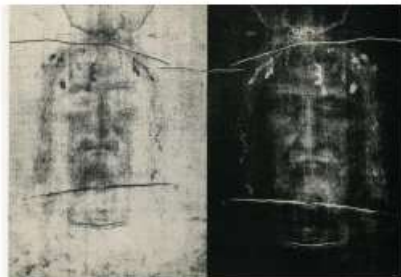
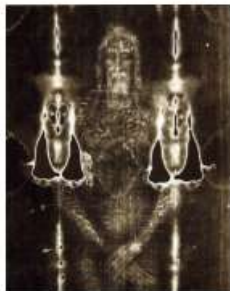
これこそ聖骸布

■聖骸布とは

「聖骸布」(イタリア語 Sindone、英語 Holy Shroud)とは、イタリアのトリノの聖ヨハネ大聖堂に保管されている長さ 4.41m 幅 1.13m の布。それは十字架から降ろされて墓でイエスの遺体が包まれた亜麻布とも言われている。それには鞭打たれ、拷問を受け、十字架刑に処され殺された人の正面と背面の姿が見られる。処刑は福音書が語るイエスの刑と一致しているので、世界で最も研究された歴史的な遺品であるといえる。



聖骸布の上に二つの事実がある。一つは処刑された人物の血痕。もう一つは、ぼやけていて、輪郭がなく、顔みどころのない影のような正面と背面の人物大の人の姿である。もしそれを白黒写真に写せば、写真の「ネガ」のようであることが分かる。しかし、それが分かるために写真機の発明を待たなければならなかった。



この写真には立体感があり、直接に遺体から発せられた光によって布に焼き付いたように感じる。その顔は、私たちがよく知っているイエスの顔によく似ている。昔そのモデルになったと言われる、

■聖骸布とイエス

今まで私たちは、聖骸布の「人」について語ったが、問題は、その人はナザレのイエスであろうかということである。これに答えるために、イエスの受難を語る四福音書を参考にしない。イエスの死後数十年後に書かれたこの四つの記録は、ちょっとした違いで基本的に同じようにイエスの受難を伝えている。

聖骸布の人の大事な一致点は次のとおりである。

イエスは同じように

- ・鞭打たれた。
- ・茨の冠を被せられた
- ・自分で十字架を担いだ
- ・釘で十字架に付けられた(ヨハネ 20.25 参照)
- ・足を折られず、槍で胸を刺された
- ・墓に葬られた
- ・上等な杉綾織りの亜麻布に包まれた
- ・処刑はローマ兵のやり方に従って行われた
- ・墓の中に腐敗するまで残らなかった



では、当時、十字架刑を受けた人の中にどのぐらいの人が以上の特徴を全部同時に揃えていたのであろうか。例えば、茨の冠を被せられたと書かれている人はイエス以外にはいない。十字架刑の犯罪人が墓に葬られることは稀だった。上等な亜麻布に包まれる人はほとんどいなかった。足を折らずに胸を刺された人も少なかった。腐敗しないで墓を離れた人はいなかったであろう。たとえいたにしても、その遺体が包まれた血だらけの布が保存されたとは考えられない。聖骸布の人の布が現代まで保存されたということには、何かの重大に意味があったはずであるが、イエスだとしたらその理由が分かる。しかし保存したとすれば秘かにしたはずである。

墓の中に残った亜麻布の発見を詳しく述べているのはヨハネだけ。彼は、イエスの弟子の中で、ただひとり十字架の元に立ち、葬りに立ち会った。そしてペトロと一緒に墓を訪れた直接の目撃者である。

ヨハネによる福音書 20.3-10 には「ペトロともう一人の弟子は、出かけて墓に向かった。そして、身をかがめてのぞき込むと、平らになっている亜麻布が見えた。続いてシモン・ペトロも来て墓の中に入ってよく見ると、亜麻布が平らになっておりイエスの頭の上にあった手拭いが、亜麻布と一緒に平らになっておらず元の所に丸めてあった。次いでもう一人の弟子も中に入り、見て信じた。」同じ福音書には、「イエスの頭の上にあったスタリオ(手拭い)」についても記載がある。それは、スペインのオヴィエドに保存されていて、84cm×53cm だけの布である。十字架から下ろされてご遺体を横にした時、肺に溜まった肺水が口と鼻から逆流し、それを吸収するために手拭いが何重に折って口と鼻に当てた。後頭部にも回された。そのため、布にその傷跡も残った(左の傷)。それは、聖骸布の傷と一致している。



福音書が言うには、イエスは腐敗していない。葬られたのは金曜日の夕方。日曜日の朝早く数名の婦人が墓を訪れたら遺体はなかった。聖骸布の上に腐敗の跡がない。では、聖骸布の人に何が起こったのであろうか。もし、弟子たちが盗んだとしたら、布に密着していた固まった傷跡が剥がされたとき、その輪郭が崩れたはずである。しかし、聖骸布の傷跡は完全であるだけでなく、体全体の姿も写っている。イエスの遺体に何が起こったのであろうか。何のエネルギーで姿が布に映ったのであろうか。現代の科学にとってこれは一番の謎である。



3.7 十字架上のイエス様の靈性を体験するミニ巡礼(日本語) (2024.9.21)

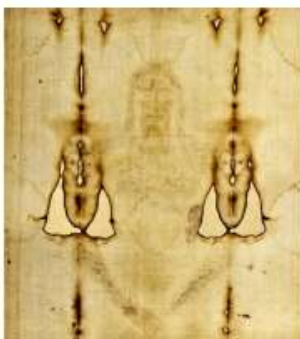
聖骸布

事前準備(パンフレット作り)

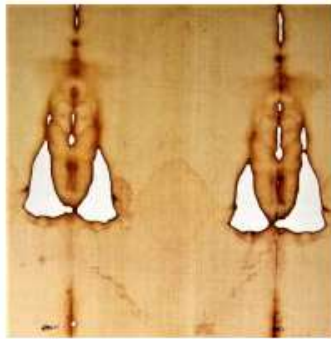
4カ国語の内、日本語版を下記に示す。ご参照方。

■聖骸布の科学的研究

2002年の修復まで、聖骸布に裏打ち布が付いていて、誰も裏面を見えなかった。1978年の科学調査の時、アメリカチームは調べようとしたが、糸で細かく止めてあったので、足の部分だけ血の跡があっても姿はないことに気が付いた。2002年、ついに裏面全体に姿がないことを確認できた。つまり、血はしみ込んでいるが、姿は液体によってできたのではないことは明らかになった。姿は表面的であって、0.2から0.3ミクロン程度しか布に入っていないことが証明された。しかも、血の膜が付いている糸の場合、それを外せばその下は真っ白である。先に血が付いて、次に姿ができたのである。二つの布の血液型はAB型である。塗った跡はないのである。学者が言うには、なにかのエネルギーによって聖骸布の亜麻布が脱水状態になり、変色したのである。さらに科学調査により、聖骸布の上にヨーロッパにない聖地の13種類の促物の花粉も確認された。



聖骸布の表に人の姿が見える



聖骸布の裏面に血痕が見えるが、姿は存在しない



■聖骸布の歴史の要点

- 1453年サヴォイア家の所有。Charny家の最後の子孫 Marguerite が1453年に聖骸布をサヴォイア家のルドヴィコ2世に寄贈したことにより、530年間、聖骸布はその家宝となった。
- 1506年シャンベリーへ。教皇ユリウス2世は聖骸布の典礼を許可しミサを承認する。この年に、聖骸布はサヴォイア家の首都シャンベリーのチャペルに安置され、毎年5月4日に「公開されるようになった。
- 1532年12月4日火災。そのチャペルで大火災が発生し、聖骸布の入った金属の箱のふたの一部が溶け、その数滴が48枚に畳んだ布を貫通した。
- 1534年5月2日～15日修復。クララ会のシスターが布を修繕し、継ぎ当てで穴をふさぎ、布全体を強めるために一枚の裏打ち布を縫いつけた。
- 1578年トリノへ。Emanuele Filiberto は首都をトリノに移した。ミラノがベストから解放された感謝としてその司教聖カルロ・ポロメオが聖骸布まで巡礼すると誓願を立てたので、その旅を短くするために聖骸布がトリノに移され、そこに残るようになった。
- 1694年新しいチャペルへ。宮殿の新しいチャペルに聖骸布が安置され、原則として年一回一般公開があり、プライベートの公開と合わせて150回ほど公開された。
- 1898年5月25日～28日最初の写真が撮影され、姿がネガであることが発見され、学的研究が始まった。
- 1931年5月4日～24日新しい写真。20世紀最初の一般公開があり、Enrie氏より鮮明な写真が撮られ、7月に日本で初めてチャマツチ神父から紹介された。
- 1978年8月26日～10月8日科学調査。トリノへ移された400周年を記念に公開され、教皇ヨハネ・パウロ2世が巡礼し、終了後44名の研究者は125時間にわたって科学調査を行うことを許された。
- 1983年パチカンに寄贈。サヴォイア家最後の王ウンベルト2世は、教皇庁に聖骸布を寄贈した。
- 1988年炭素14年代測定。布から標本を切り取って炭素14による年代測定が実施され、1260年～1390年のものだと発表されたが、その後の再点検によりその結果が疑問視された。
- 1997年4月11日聖骸布のチャペルの大火災。聖骸布は無事だった。
- 1998年4月18日～6月14日一般公開。最初の写真撮影100周年記念に一般公開された。
- 2000年8月12日～10月22日一般公開。「教いの大聖年」に際しての一般公開後、カテドラルで新しい容器の中に保管されるようになった。
- 2002年6月～7月修復。布の修復により継ぎ当てを外し、聖骸布を1532年の火災後の状態に戻して姿が表面的であることを確認し、布の表と裏の精密な写真を写した。
- 2010年4月12日～5月23日一般公開。一般公開が行われ、教皇ベネディクト16世が巡礼した。
- 2015年4月19日～6月24日一般公開。ドン・ボスコ生誕200周年に67日間ほど公開され、教皇フランシスコが巡礼した。



■カトリック調布教会の聖骸布

調布教会聖堂には、実物大のレプリカが展示されている。ガエタノ・コンプリ神父(イタリア・ヴェローナ出身)の手に聖骸布実物大のレプリカと豊富な資料がある。日本で聖骸布が見られる場所はここだけである。詳しくは、聖骸布HP (<https://sindon-jp.com/>) または、YouTubeの聖骸布講座を参照してください。



聖骸布 HP



YouTube 聖骸布講座



3.7 十字架上のイエス様の靈性を体験するミニ巡礼(日本語) (2024.9.21)

聖骸布

事前準備(パンフレット作り)

- ▶ 巡礼者の方々には、セッション後にも振り返りができるように、前述のパンフレットとは別に、左下図の詳細本も販売した処、買い求める方が7名もおられた。



聖骸布HP



You Tube聖骸布講座





3.7 十字架上のイエス様の靈性を体験するミニ巡礼(日本語) (2024.9.21)

聖骸布

当日準備

- ▶ 当日8時に奉仕メンバーが集合し、神学院112教室に下図のように、実物大の聖骸布の写真を設置した。
- ▶ 左から、スタジオ、背中側からの3次元写真、白黒写真、聖骸布の写真、中心を挟んで、対称形になるように、各写真を設置した。
- ▶ 右の扉には、聖骸布の全体像の1/2縮尺版を貼り付けて、巡礼者側から全てを見渡せるように配置した。





3.7 十字架上のイエス様の靈性を体験するミニ巡礼(日本語) (2024.9.21)

聖骸布

当日準備

- ▶ セッティング後、8時30分頃から、各奉仕メンバーがコンプリ神父様の指導を受けながら、プレゼンの練習を行った。説明時間が5分と制限がある中、聖骸布が持つ受難と復活の記録を、どのように巡礼者の方々に伝えるかは、難しい課題であった。しかし、メンバーひとりひとりがイエス様と向き合った8/31からの3週間という限られた時間の中で、聖霊によって、ひとりひとりが“種まく人”に変えられていく様子をお互いに感じた貴重な体験となった。



聖骸布奉仕チームの皆さん、左から
釜田さん、片瓜さん、平林さん、山城さん、コンプリ神父様、下田さん、木下さん



本番前に、
コンプリ神父
様の指導を
受けながら、
プレゼンの
練習を行った





3.7 十字架上のイエス様の靈性を体験するミニ巡礼(日本語) (2024.9.21)

聖骸布

説明シーン

- ▶ 奉仕メンバー(左から、釜田さん、平林さん、片瓜さん)は、説明することを通して、聖霊によって“種まく人”に変容！



カトリック調布教会



3.7 十字架上のイエス様の靈性を体験するミニ巡礼(日本語) (2024.9.21)

聖骸布

説明シーン

- ▶ 参加者の方々は、初めて実物大の聖骸布の写真を見る方が多く、真剣に聴いて、感動して頂きました。





3.7 十字架上のイエス様の靈性を体験するミニ巡礼(日本語) (2024.9.21)

聖骸布

“見る”シーン

- ▶ 参加者の方々に、“見て”頂き、湧き上がる質問に、奉仕メンバーとコンプリ神父様が“応え”ました！





3.7 十字架上のイエス様の靈性を体験するミニ巡礼(日本語) (2024.9.21)

聖骸布

“黙想”シーン

- ▶ 参加者の方々には、黙想し、心で感じた事を言語化してメモしてもらいました。“イエス様”と“わたし”との霊おける会話の記録です。





3.7 十字架上のイエス様の靈性を体験するミニ巡礼(日本語) (2024.9.21)

食事

事前準備 (前日・当日)

- ▶ 午後からの分かち合いチーム毎に食事できるように、18人×6テーブルが下図のように計画(by 坂本さん)され、前日にセッティングされた。
- ▶ 当日は、橋本夫妻、山崎さん、岩崎さんの4人で、仕出し屋からの到着が渋滞のため11時過ぎになり、食事までの時間が1時間半しかなく、慌ただしい時間となった。前後の準備・片付けに関して、橋本夫妻の2人だけの対応になってしまったのは、反省点の一つ。
- ▶ また、コーヒー等の飲んだ後の参加者のマナーが悪く、紙コップ等が散乱し、それを橋本夫妻のみで片付けることになってしまったことは、残念な結果となったため、今後の対策を検討することにした。→次回以降の食事時にゴミ処理チームに入って貰い、マナー改善に努めることにした。



橋本教会委員長からの歓迎挨拶



山野内神父様による食前の祈り



食事チームの皆さん



ランチ



テーブル配置





3.7 十字架上のイエス様の靈性を体験するミニ巡礼(日本語) (2024.9.21)

食事

サプライズ (み言葉カード)

- ▶ 食事中に春日部教会の藤田和京さんからみ言葉カードのサプライズのプレゼントがあった。
- ▶ こういう時にいただく“み言葉”は、神様からの大切なメッセージであることが多いものです！





3.7 十字架上のイエス様の靈性を体験するミニ巡礼(日本語) (2024.9.21)

分かち合い

事前準備

- ▶ 9/11(水)、分かち合いのファシリテータ候補者 & 未経験者(高島さん、高橋さん、吉川さん、藤永さん、井上)が調布教会に集まり、経験者の下田さんを講師に招いて、指導を受けた。
- ▶ 下田さんから、今回の分かち合いの一通りの流れとシノドスハンドブックに記載されている霊における会話との関係(神と私→神とあなた→神と私たち)が説明された。分かち合いのリーダーは、聖霊であること、ファシリテータは、聖霊に委ねながらも、タイムキープには厳しく務めること等のアドバイスがあった。
- ▶ 本番まで時間が無いので、まずは、指導頂いたことをガイドライン案に纏め、下田さんと有村さんにレビュー頂いて、次ページのような分かち合いのガイドラインを作成し、9/21のミニ巡礼に備えた。
- ▶ 最終的には、9/21のファシリテータは、山野内神父様(サポート吉川さん)、下田さん(サポート山城さん)、高島さん、高橋さん、井上という組み合わせで、6チームを担当することになった。
- ▶ 後日談ではあるが、下田さんの言われたとおり、9/21当日、各ファシリテータは、分かち合いのメンバーひとりひとりに働く聖霊の声を聴くことになったと思う。自分が聖霊に委ねたというより、聖霊に委ねさせられたという体験である。



3.7 十字架上のイエス様の靈性を体験するミニ巡礼(日本語) (2024.9.21)

分かち合い

事前準備(ファシリテータガイドライン)

▶ イエズス会の靈性センターせせらぎ行われている分かち合いのガイドラインとシノドスハンドブックの靈おける会話のガイドラインを組み合わせて作成

2024.9.14
カトリック調布教会

調布教会ミニ巡礼 分かち合い(靈における会話) ファシリテータガイドライン

1. 祈りの分かち合い(靈における会話)とは

祈り、神との交わり、神との対話、を振り返って、メンバーの前で、心のありさまを包み隠さずに、神の前で謙虚に、喜びも悲しみも、あらゆる感覚が、神が関わってくださったしるしであることを確認し、そのことを紹介し合う場。

2. 分かち合うときの留意点

- ・分かち合う手順について、考えたことや、知っている知識の紹介は極力抑えて、感じたこと、心の動き、気づかされたことを、丁寧に語る。
- ・分かち合いの時間が全体で何分か、グループの人数は何人かによって、自ずと自分に調節される時間が定まるので、できる限り、その時間内に納めるように心がける。
- ・その場にいるメンバーに向かって分かち合うと同時に、共にいてくださる神も聴いてくださっていることを意識する。
- ・心のありさまを、限られた時間の中で、仲間と神に向かって、語る。

3. 聴くときの留意点

- ・自分の心を、分かち合う人の心に重ねて、味わう。
- ・感じたことを分かち合っているので、聴いていることに対して、評価したり、判断したり、ましてや、意見を述べたり、批判しない。神の働かれる場で、神の業をどのように受け止めたかについては、立ち入ることができない。
- ・守秘義務がある。心のひだの奥底まで、包み隠さず信頼して話したことなので、その場を離れてから、だれにもその内容を話してはいけません。司祭が「ゆるしの秘跡」で聴いたことと同じように、守秘義務がある。
- ・分かち合いの場にいる人、その後何かの機会があって、言葉を交わすことがあった場合でも、その人が分かち合ったことについて、自分から話題として切り出さない。限り、たとえ噂はないことがあったとしても、あるいは支えてあげたいと思っても、分かち合った内容について、こちらから触れることはしない。
- ・互いに守秘義務を順守することは、信頼関係を築くうえで、とても大切である。

4. 第2ステップの留意点

・分かち合ったことについて、確認したいことや言葉遣いが分からなかったことなど、質問することも許される。

5. 豊かな分かち合いのための工夫

- ・一人の分かち合いが終わった後、30秒でもよいので、沈黙のうちにその人が分かち合ったことを、ゆっくりと自分の心で味わう時間をとる。その人の祈りと共にいることができる。
- ・分かち合いの順番が回る時に、神が共にいてくださることを表すシンボル、例えば、十字架(手のひらにシタタヒおさまる、握る十字架もある)やロウソクなどを回して、それを持ちながら分かち合う。



6. ミニ巡礼時の分かち合いのガイドライン

- 1) 時間: 40分
- 2) 人数: 15名
- 3) 流れ

① 準備 (5分)

- ・分かち合う場所は、頭で考えたことを極力抑えて、感じたこと、心の動き、気づかされたことを話してください。ファシリテータが白らの体験を話して、分かち合いの具体例を参加者に差し出します。(例えば… 聖書の釘や棘の冠は、私の心を癒さず、今でもイエス様がこまごまで、私の罪を負ってくださることを感じます等)
- ・守秘義務があります。ここで分かち合いは、終わった後、だれにもその内容を話してはいけません。
- ・まず、目を閉じて、精神を立てて、頭上を天に向けて、両手を伸ばして下さい。足はしっかりと床につけて、天からのエネルギーが自分を貫いて、足裏から地球の中心へ届いていることを感じてください。そして、この分かち合いの輪の中心にイエス様を、イエス様にも話していることを意識してください。
- ・次に呼吸に意識を向けてください(深呼吸する必要はない)。鼻から吸って、鼻から出す。(吸って…吐いて…) 生まれた時からしてきたこの呼吸が命の源であり、命そのものが自分の根源であることを感じてみてください。

② 始りの祈り (一問)

- ・+ 聖霊来てください!
- この分かち合いが聖霊の働きに促され、靈における会話も深めるものになりますように! +

③ 分かち合い (35分)

注記: この中の第1ステップ、第2ステップ、第3ステップは、シノドスハンドブックの靈おける会話のステップを参照します

・第一ラウンド「発言し、聴く(約20分): 第1ステップ+第2ステップ

- 1人1分間の分かち合い+15秒の沈黙で回していきます。
- 一部は祈りの中で味わったこと、書き留めたことを分かち合い。その発言を一人ひとりが注意深く聴きます。コメントなどのやりとりはしない。一人ひとりが語る言葉を受け止め、黙ってそのままを聴く。
- ここでは、自分の感じたことを話すと第1ステップで、話していることを聴いている中で、話し手(あなた)が話していることを聴いている(第2ステップ)の両方を参加者に体験して頂く。

・第二ラウンド「グループによる識別(約15分): 第3ステップ

- 心に湧き上がること、響くこと、聖霊の働きを感じることを、イエス様の意思を感じること、イエス様に感謝して、一人一言(1人約30秒)
- ここでは、今までの分かち合いを聴いて、感じたことを、挙手(専任者)にて分かち合ってください。もし、専任者がいなかった場合は、順番に話しをしてもらって、時間が来たら、全員に話さなくても構いません。ここで(わたしたちの)分かち合いを締めると、靈における会話の第3ステップの完了になるが、時間的に難しいので、(わたしたちの)分かち合いを体験するまでを目標とする。
- ・ファシリテータは、タイムキーパーとして、時間厳守で分かち合いを進行するように心がける。

④ 終わりの祈り (一問)

- ・+ 聖霊ありがとうございました。ここで分かち合いをひとりのりがお恵みとして心に留め、今後、靈における会話も深めていけるように願っています。+



3.7 十字架上のイエス様の靈性を体験するミニ巡礼(日本語) (2024.9.21)

分かち合い

- ▶ 計画では、昼食後、各テーブルで、各チームの自己紹介を行い、その後、各チームの分かち合いの部屋へ移動し、分かち合いを始める予定だったが、人数が多すぎて、自己紹介者の声が聴き難いとの判断から、ファシリテータの下田さんと有村さんの提案で、時間を20分程早めて、13時15分頃から、各チームは移動を開始した。13時20分には、各部屋での自己紹介が始まり、その後の分かち合いをスタートすることができた。このスケジュール変更は、各ファシリテータに時間的余裕を与え、かつ、巡礼者の方々の分かち合いの時間も増やし、良い結果をもたらした。このスケジュール変更は、今後のミニ巡礼にも、反映されるものと考えられる。
- ▶ 実際、分かち合いでは、1人1分程度の分かち合いを計画していたが、午前中の巡礼で受けた恵みを1分で伝えるのは難しく、1人あたり2～3分は必要であることがわかった。
- ▶ 分かち合い後、再度、チマッティホールに集まり、各チームで分かち合ったことをファシリテータがまとめとして、巡礼者全員へ分かち合った。
- ▶ 普段、教会では、心で感じたこと等、分かち合う機会が殆ど無い中、また、いろいろな教会から集まって、初めて会う方も多い中、各チームの中で、いろいろな分かち合いが行われたのは恵みだったと思う。このような霊における会話を教会共同体で重ねることで、“共に歩む”というシノダリティが靈的に繋がり、常に聖霊の導きを意識した教会共同体が生まれるものと思う。





3.7 十字架上のイエス様の靈性を体験するミニ巡礼(日本語) (2024.9.21)

分かち合い

- ▶ 最後に山野内神父様から、巡礼者や奉仕スタッフに向けて、次の話があった。
- ▶ 1) 神様は生きている
- ▶ 2) ドン・ボスコもドン・チマッティも神様を通して生きている
- ▶ 3) 私たちは、神様から生かされている。
- ▶ 私たちは、何のために生かされているのですか？ 神の愛を生きるためです。
- ▶ 今日の体験は、自分のためだけでは無いです。多くの人が恵みを受け取るためです。
- ▶ 神様がいつも働いていることを感じてください。





3.7 十字架上のイエス様の靈性を体験するミニ巡礼(日本語) (2024.9.21)

門をくぐるための準備

事前準備(ファシリテータガイドライン)

- ▶ 当日は、まだ、聖年(2025年)になっていないので、聖年の前年の準備ということで、全免償を受けるための“門をくぐるための準備”が説明された(次ページ以降参照)。



山野内神父様と門をくぐるための準備チームの皆さん





3.7 十字架上のイエス様の靈性を体験するミニ巡礼(日本語) (2024.9.21)

門をくぐるための準備

- ▶ 皆様、調布教会の宝物である神学院聖堂、チマッティ神父さまのお墓と資料館、聖骸布を巡る旅はいかがだったでしょうか？ 分かち合いを終え、皆様の心に何か生まれたでしょうか？
- ▶ これから聖なる門をくぐります。その準備はできていますか？
- ▶ 調布教会の聖堂は幕屋の形をしており、イスラエルの民の「幕屋」というコンセプトで作られました。「出エジプト記33-7」によれば、モーセとイスラエルの民がエジプトを出て移動中、宿営の外に天幕を張り、「臨在の幕屋」を作りました。ここがモーセが主と「顔と顔」を合わせて会話する神聖な出会いの場所となりました。
- ▶ この聖なる場所、幕屋で主は「私はあなたの前にすべてのわたしの善い賜物を通らせ、恵もうとするものを恵み、憐れもうとする者を憐れむ」と言われました。(出エジプト記「33-19」)
- ▶ モーセが雲に包まれた幕屋から外に出ると、「彼の顔の肌は光を放っていた」と記されています。(「出エジプト記34-35」)
- ▶ 私たちもこの聖なる幕屋で神様と出会い、神様と私たちがひとつにさせていただく体験を願いましょう。
- ▶ 聖書には「私は門である」というイエス様の言葉があります。
- ▶ 聖なる門をくぐることで全免償がいただけます。
- ▶ 赦しの秘跡により罪を許された私たちですが、その後も罪の傷跡は残ります。
- ▶ この傷跡をなくすには「免償」が必要で、いくつかの条件をととのえた後に、巡礼教会で全免償をえることができます。
- ▶ わかりやすく言えば、たとえば、釘が刺さっているのが罪です。赦しの秘跡で釘は抜かれますが、傷跡の穴は残ります。この穴を埋めるのが免償で、元のきれいな状態に戻ります。
- ▶ また、夫婦げんかをして、お皿を投げて割ってしまう。この場合、仲直りが赦しの秘跡で、散らばったお皿の残骸を拾うことが免償です。



3.7 十字架上のイエス様の靈性を体験するミニ巡礼(日本語) (2024.9.21)

門をくぐるための準備

2024.9.21バージョン (聖年の前年)

- ▶ 赦しの秘跡を受けること、ミサにあずかりご聖体を拝領すること、教皇の意向のために祈ること、これが全免償の条件です。
- ▶ 最後のページに、感謝、願い、約束とあります。
- ▶ 赦しの秘跡、巡礼、分かち合いを経て、私たちは神様に立ち戻ったでしょうか？
- ▶ 受けた喜びへの感謝、これからも神様の恵みを願う願い、そのための神様との約束、
- ▶ 一人一人が「心に書き、心に刻む」つもりで、それぞれの思いを捧げましょう。
- ▶ ミサの後、聖堂を出る時にスタンプが押されます。神様の愛のスタンプが押されて、巡礼が終了となりますが、今回はスタンプはありません。
- ▶ では、順番に門をくぐっていただきます。
- ▶ イエス様は「私は門である」とおっしゃいました。このみ言葉の門をくぐり、イエス様の中に入ります。へりくだる心をもって、身をかがめて入りましょう。
- ▶ そして、モーセのように神と出会った喜びで、私たちの顔も光り輝くことを感じて、この門を出ることができますように、神に委ね、そのお恵みを願いましょう。



全免償

免償とは、「ゆるしの秘跡」を受けて、すでに赦された罪に伴う、有限の罰の免除をいう。

免償を得るために

1. ゆるしの秘跡を受ける
2. ミサにあずかり聖体を拝領する
3. 教皇の意向のために祈る

主の祈り

アベ・マリア

栄昌

信仰宣言

真の回心のしるしとして「聖年の扉」をくぐる

感謝

願い

約束

調布教会
巡礼教会スタンプ



3.7 十字架上のイエス様の靈性を体験するミニ巡礼(日本語) (2024.9.21)

門をくぐるための準備

巡礼者への歓迎賛歌

- * 聖歌隊が巡礼者を迎えて唄う典礼聖歌の候補
 - 158~159 「門よとびらを」
 - 29 「エルサレムよほめたたえよ」
 - 106 「シオンよ喜べ」
 - 163 「喜びに」
 - 164~166 「喜びに心はずませ」
 - 183 「われらはシオンで神をたたえ」





3.7 十字架上のイエス様の靈性を体験するミニ巡礼(日本語) (2024.9.21)

御ミサ

▶ 聖書朗読

- 1) 第1朗読 : 知恵の書 2・12、17-20
- 2) 第2朗読 : ヤコブの手紙 3・16-4・3
- 3) 福音 : マルコによる福音書 9・30～37

▶ 聖歌 (ミサ曲)

- 1) 門をくぐる歌 : 典158-159 門よ、扉を開け
- 2) 入祭の歌 : 典29 エルサレムよ、ほめたたえよ
- 3) いつくしみの賛歌 : 典615
- 4) 栄光の賛歌 : 典617
- 5) 答唱詩編 : 典8①② 荒地のかわき果てた土のように
- 6) アレルヤ唱 : 典270 25B
- 7) 奉納の歌 : 典134 主をたたえよう
- 8) 感謝の賛歌 : 典618
- 9) 平和の賛歌 : 典619
- 10) 拝領の歌① : 典18 いのちある すべてのものに
- 11) 拝領の歌② : F18 キリストの平和
- 12) 閉祭の歌 : 典408 行け地の果てまで





3.7 十字架上のイエス様の靈性を体験するミニ巡礼(日本語) (2024.9.21)

御ミサ

説教

- ▶ 3つの大切なポイント
 - 1) イエス様と共に歩む
 - 2) 十字架を担う
 - 3) 子どもを抱きしめる、抱き上げる (小さい者に使える)
- ▶ **1) イエスと共に歩む**
 - ・イエス様の鼓動に合わせて生きること
 - ・わたしの脈に、イエス様の脈を合わせる
 - ・その人の中にいるイエス様に合わせて歩むこと
 - ・イエス様の脈(ペースメーカー)によって、正常になったのではないか？
- ▶ **2) 十字架を担う**
 - ・与え尽くす生き方をすること (自分の全てを与える)
 - ・最高の自分を生きること (完全である必要は無い)
 - ・弱さがあっても大丈夫
 - ・欠点があっても大丈夫
- ▶ **3) 子どもを抱きしめる、抱き上げる (小さい者に使える)**
 - ・霊における分かち合い→それが本物かどうかは、これから。
 - ・小さい者に対して、最高の自分で向き合うことで確認できる。
 - ・イエス様が与えたものは、1回限りであるが、永久である。
 - ・今日、私たちに落ちたものが、本物かどうかは、これからである。
 - ・いろいろな奉仕を通して、皆さんを豊かにしてくれます。
 - ・調布教会だけでなく、他の教会からの奉仕も同じ豊かさをもたらします。





3.7 十字架上のイエス様の靈性を体験するミニ巡礼(日本語) (2024.9.21)

御ミサ

- ▶ 最後に、実行委員の取り纏め者の藤永さんから『今日、この日を迎えられたのは、多くの方々の助けがあったからです。これからも、巡礼活動を通して、多くの方々が恵みを頂けるように奉仕していきたいです。』と感謝と決意が述べられた。





3.8 十字架上のイエス様の靈性を体験するミニ巡礼(スペイン語) (2024.9.28)

- ▶ 9/21(土)の日本語バージョンに続けて、9/28(土)に、ラテン系の方々に来訪頂き、スペイン・ポルトガル語バージョンのミニ巡礼が実施され、3教区(東京教区、埼玉教区、横浜教区)のラテン系の方々が123名、日本人50名で、合計173名(奉仕者+巡礼者)が調布教会に集まり、ミニ巡礼を通して、イエス様の靈性を体験し、教会共同体としての絆を深めた。

十字架上のイエス様の靈性を体験するミニ巡礼 聖霊との旅路(9.28最終版)

2024.9.28
カトリック調布教会

時間	場所	内容	指導司祭	奉仕者	奉仕内容
8:50-10:00	教会入口/駐車場	来訪者及び車の誘導		木村匡、玉林、木下(敬)、福山(マ)、モリノ	来訪者の誘導、車の駐車場への誘導
	チマッティホール	受付		ガビ、マルティーナ、シード、申村美子、今村知子、高島薫子	名簿・名札作成、名札渡し
10:00-10:30	神学院聖堂	十字架上のイエス様との出会い	山野内神父	藤代(真)、後藤、藤原、小林、加藤、佐藤	場所への誘導/案内・祈りへの導入説明
10:40-11:10	①チマッティ神父様のお墓	チマッティ神父様との出会い	山野内神父	高島、朝日、寺戸、西、山城	場所への誘導/案内・祈りへの導入説明
	②チマッティ資料館 (キアラ神父様のお墓)	ゲレジオ来日100周年への観想	マルシリオ神父	千葉、林智、林(厚)、木村匡、市位、藤代(純)、玉林、小笠原(マ)	場所への誘導/案内・祈りへの導入説明
	③神学院1F(聖骸布)	聖骸布/受難のイエス様との出会い	コンブリ神父	木下(敬)、片瓜(和)、釜田、下田、平林、井上	場所への誘導/案内・祈りへの導入説明
11:20-11:50	①チマッティ資料館 (キアラ神父様のお墓)	ゲレジオ来日100周年への観想	マルシリオ神父	千葉、林智、林(厚)、木村匡、市位、藤代(純)、玉林、小笠原(マ)	場所への誘導/案内・祈りへの導入説明
	②神学院1F(聖骸布)	聖骸布/受難のイエス様との出会い	コンブリ神父	木下(敬)、片瓜(和)、釜田、下田、平林、井上	場所への誘導/案内・祈りへの導入説明
	③チマッティ神父様のお墓	チマッティ神父様との出会い	山野内神父	高島、朝日、寺戸、西、山城	場所への誘導/案内・祈りへの導入説明
12:00-12:30	①神学院1F(聖骸布)	聖骸布/受難のイエス様との出会い	コンブリ神父	木下(敬)、片瓜(和)、釜田、下田、平林、井上	場所への誘導/案内・祈りへの導入説明
	②チマッティ神父様のお墓	チマッティ神父様との出会い	山野内神父	高島、朝日、寺戸、西、山城	場所への誘導/案内・祈りへの導入説明
	③チマッティ資料館 (キアラ神父様のお墓)	ゲレジオ来日100周年への観想	マルシリオ神父	千葉、林智、林(厚)、木村匡、市位、藤代(純)、玉林、小笠原(マ)	場所への誘導/案内・祈りへの導入説明
12:40-13:30	チマッティホール	昼食・団楽	山野内神父	橋本(和)、藤永、井原(美)、岩下親子、根津、岩崎、土田	場所へ誘導・案内・福祉・ゴミ処理・片付け
13:40-14:20	チマッティホール等	分かち合い(6グループ)	山野内神父	山野内神父、高島、高橋、下田、山城、吉川、有村、井上	分かち合いのファシリテータ
14:30-15:00	チマッティホール	門をくぐるための準備(祈り)、ミサ準備	山野内神父	坂口、片瓜(和)、今村(知)、藤川、菊田	場所への誘導/案内・祈りへの導入説明
15:00-16:00	教会聖堂	御ミサ(イエス様と参加者との一致)	山野内神父	吉川、石崎、池尾、木下(久)、木村(恵)、木村匡、坂本、泰山、上村、林(智)、天村、天野	先唱、朗読、聖歌、待者、オルガン等
全般 9:00-15:00	神父様の部屋	ゆるしの秘跡	山野内司教	滝口(-)	場所への案内
	ヨゼフ会室	救護室		林(厚)	急病人の一時救護

注) 10:40-12:30の間は、巡礼団を3つのグループに分けて、移動して頂くことを想定しています。

- ▶ スケジュールと奉仕者の配置は、左記の表のとおり。
- ▶ 巡礼者が50名を超えたため、3グループに分けて、
 - ①チマッティ神父様のお墓
 - ②チマッティ資料館
 - ③神学院1F(聖骸布)
 を順番に巡るスケジュールにして、各場所の収容人数を超えないように配慮した。



3.8 十字架上のイエス様の靈性を体験するミニ巡礼(スペイン語) (2024.9.28)

- ▶ 全体のスケジュールと“**靈における会話**”との関係は、9/21の日本語バージョンと同じで、下表のとおり。巡礼者は、8:50の受付から始まり、御ミサが終わる16:00まで、ミニ巡礼全体が、**イエス様の靈性に触れ、シドスの目指す靈における会話**を体験できるようにデザインされている。
- ▶ 午前中は、神学院聖堂、チマッティ神父様のお墓、チマッティ資料館、聖骸布との出会いを通して、“**わたし**”の中に沸き起こる神との出会いを体験する。
- ▶ 午後からの分かち合いで、“**あなた**”と神との出会いを“**わたし**”が共有することで、“**わたしたち**”と神との関係を見つける体験を共有する。
- ▶ **門をくぐる準備**で、再び、“**わたしたち**”を意識した神と“**わたし**”の関係を識別し、最後に御ミサで“**神とわたしたち**”を体験することになる。

時間	巡礼場所	内容	靈における会話
8:50-10:00	チマッティホール	受付→神学院聖堂へ移動	神にわたしがピントを合わせる準備
10:00-10:30	神学院聖堂	十字架上のイエス様に自分の心を合わせる	“神とわたし”の会話
10:30-12:30	チマッティ神父様のお墓	チマッティ神父様にイエス様へのとりなしを願う	
	チマッティ資料館 神学院112教室(聖骸布)	チマッティ神父様の生き様を思いめぐらす 聖骸布を通してイエス様の受難と復活を心に刻む	
12:30-13:30	チマッティホール(昼食)	グループ内のコミュニケーションを取る	“あなた”と“わたし”の出会い
13:30-14:30	マリア会室等(分かち合い)	私以外の方が体験した神との関係を傾聴する。	“神とあなた”の会話をわたしは共有し、“神とわたしたち”の関係を見出す
14:30-15:00	チマッティホール(門をくぐる準備)	全免償ための準備をする (感謝・願い・約束)	“わたしたち”を意識した “神とわたし”の関係を識別する
15:00-16:00	教会聖堂(御ミサ)	御ミサを通じて、共同体の一致を体験する	“神とわたしたち”との一致



3.8 十字架上のイエス様の靈性を体験するミニ巡礼(スペイン語) (2024.9.28)

- ▶ 9/21の日本語バージョンの奉仕者に加えて、ラテン系の方々が奉仕者に加わり、言葉を超えての交流が大きな恵みとなった。

2024.9.28
カトリック調布教会

十字架上のイエス様の靈性を体験するミニ巡礼 奉仕スタッフ役割分担表(9.28最終版)

役割・担当	氏名	人数	備考
実行委員取り纏め	藤永悦子	1	
実行委員	藤永悦子、吉川真美、石倉由美子、井原さく子、今村知子、高島晶子、中村寛子、山城京子、上村祐子	9	井原さんは教会受付
受付(ミニ巡礼)	9/21 :木下久美子、木村恵津子、池尾久美、泰山涼子、矢崎正、矢崎せい子、天村朋子 9/28 : ガビ、マルティーナ、シード、中村寛子、今村知子、高島晶子	13	チマッティホール
神学院聖堂	藤代真知子、後藤さゆり、藤原康子、小林恵美子、加藤幸子、佐藤雅代	6	
チマッティ神父様のお墓	高島晶子、朝日双葉、寺戸まこ、西一恵、山城京子	5	
チマッティ資料館	林智、林厚子、木村哲、市位匠、藤代純一、玉林美男、小笠原マリレーネ	7	
聖骸布	木下敏孝、片瓜和夫、釜田喜一郎、下田尊子、平林靖子、井上学	6	神学院112教室
分かち合い (ファシリテータ)	山野内神父、下田尊子、山城京子、ホセ、	8	チマッティホール(2グループ)、教理室、高校生会室、青年会室、マリア会室、ヨゼフ会室、小聖堂
門をくぐる準備	坂口泰子、片瓜かなえ、今村知子、猿川福子、菊田律子	5	
食事	橋本知子、藤永悦子、井原美波、土田晶子、根津佳子、岩下美和、岩崎	5	チマッティホール
聖歌隊	吉川真美、石倉由美子、池尾久美、木下久美子、木村恵津子、木村哲、坂本薫、泰山涼子、林智、上村祐子、井上充代、天村朋子、天野久美子	13	御ミサ
記録・広報	井上学	1	
駐車場誘導	9/21(今村儒之、木村哲、玉林美男、木下敏孝) 9/28(モリノCesar(スペイン語)、福山まさし(ポルトガル語)、木村哲、木下敏孝、玉林美男)	6	神学院への駐車場利用許可願いの申請
救護室	林厚子	1	ヨゼフ会室



3.8 十字架上のイエス様の靈性を体験するミニ巡礼(スペイン語) (2024.9.28)

前日準備

- ▶ 駐車場誘導チームの今村さんに、前日準備として駐車場誘導のための誘導服、誘導灯、立て札の準備、白線引きを実施して頂きました。



スペイン語と日本語併記の立て札を作成

初めて教会に来られる方には、矢印があるだけで助かる！



3.8 十字架上のイエス様の靈性を体験するミニ巡礼(スペイン語) (2024.9.28)

受付当日 (駐車場誘導)

- ▶ 駐車場誘導チームは、多言語対応に備えて、ブラジル人、ペルー人と日本人がタッグを組んで、誘導にあたった。左側の写真は、左から、福山さん(ポルトガル語)、木下さん、玉林さん。右側の写真は、左から、木下さん、モリノさん(スペイン語)。皆さんの笑顔が印象的！



駐車場誘導チームの皆さん



駐車場誘導チームの皆さん



3.8 十字架上のイエス様の靈性を体験するミニ巡礼(スペイン語) (2024.9.28)

受付当日 (レセプションデスク)

- ▶ 受付チームは、多言語対応に備えて、ブラジル人、ペルー人、日本人が対応。
- ▶ 和気あいあいと、笑顔で巡礼者を歓迎！



受付チームの皆さん



3.8 十字架上のイエス様の靈性を体験するミニ巡礼(スペイン語) (2024.9.28)

神学院聖堂

- ▶ 沈黙の中で、イエス様の靈性にチャンネルに合わせ始める巡礼者の方々。
- ▶ 巡礼者を迎えるイエス様の現存が漂う聖堂！





3.8 十字架上のイエス様の靈性を体験するミニ巡礼(スペイン語) (2024.9.28)

神学院聖堂 | イエス様は、いつも最高のものを私たちに差し出している

- ▶ 山野内神父様から、巡礼導入部として、“**イエス様が十字架上から “必死になって生きている人” に与え続けているもの(5つ) “と”クリア・クロケットの靈性”**の話があった。



聖歌隊の皆さんによる合唱



3.8 十字架上のイエス様の靈性を体験するミニ巡礼(スペイン語) (2024.9.28)

チマッティ神父様のお墓

- ▶ 黙想が、チマッティ神父様の柩、生前のロザリオの祈りをしているチマッティ神父様の写真を見ながら行なわれました。
- ▶ その後、「チマッティ神父様の取次ぎを願う祈り、感謝の祈り」のプリントを各自記入し、墓前にお捧げました。





3.8 十字架上のイエス様の靈性を体験するミニ巡礼(スペイン語) (2024.9.28)

チマッティ神父様のお墓

- ▶ 奉仕スタッフから、チマッティ神父様の生涯と1977年に行われた遺体検案の話があり、腐らないチマッティ神父様のご遺体が石棺の中に収められているとの話が紹介された。
- ▶ 黙想の締めくくりとして、「チマッティ神父様の祝福、列福を求める祈り」を巡礼者の皆さんで唱え、チマッティ神父様も弾いておられたオルガンの伴奏で、聖歌隊の方々と共に、アヴェマリア(チマッティ神父様作曲)を唱和し、祈りを深めました。





3.8 十字架上のイエス様の靈性を体験するミニ巡礼(スペイン語) (2024.9.28)

チマッティ資料館

2F

▶ ここでの、チマッティ神父様を通してイエス様の靈性に触れるポイントは4つ。

1) ドン・ボスコで一杯の心

- ・チマッティ神父様が3歳の時、ドン・ボスコを見る(一生の記憶となる)
- ・サレジオのカリスマに満たされた心

2) 召命の心

- ・日本で育てた司祭を戦争に取られ、戦死したことを悼み、作った曲が『刈り入れ』

3) ラウダート・シの心 (自然を愛し大切にする心)

- ・自然科学者、教育者として、化石や石を集め、自然の中にある神性を教え、伝えた。

4) 宣教の心

- ・宣教的な歌だけではなく、日本人の文化や感性を大切にして庶民が親しめる歌(『でんでんむし』など)を多数作り、日本人と共に歩む“真の宣教”を実践した。



カトリック調布教会



3.8 十字架上のイエス様の靈性を体験するミニ巡礼(スペイン語) (2024.9.28)

チマッティ資料館



ドン・ボスコで一杯の心
・チマッティ神父様が3歳の時、
ドン・ボスコを見る
(一生の記憶となる)





3.8 十字架上のイエス様の靈性を体験するミニ巡礼(スペイン語) (2024.9.28)

チマッティ資料館



ラウダート・シの心 (自然を愛し大切に作る心)

自然科学者、教育者として、化石や石を集め、自然の中にある神性を教え、伝えた。



宣教の心

宣教的な歌だけではなく、日本人の文化や感性を大切に
して庶民が親しめる歌(『でんでんむし』など)を多数作り、
日本人と共に歩む“真の宣教”を実践した



3.8 十字架上のイエス様の霊性を体験するミニ巡礼(スペイン語) (2024.9.28)

聖骸布

事前準備(パンフレット作り)

- ▶ この日に合わせて、木下さんには、日本語版パンフレットを英語、スペイン語、ポルトガル語への機械翻訳をかけて頂き、その後、下田さん(スペイン語)、竹内さん(ポルトガル語)にもレビュー頂き、合計4カ国語のパンフレットを完成させて、当日配布した。
- ▶ 巡礼者の多くが、スペイン語、ポルトガル語系の方々だったので、スペイン語、ポルトガル語で準備していたパンフレットは大変好評で全て無くなった。

LA SANTA SINDONE
これこそ聖骸布

「聖骸布とは」
聖骸布とは、1270年、フランスの都府トリニティの修道院で発見された、イエスの遺体と一致する、長さ4.5m、幅2.1mの布で、その両面にイエスの顔の痕跡が写っています。これは、聖骸布と呼ばれる、十字架に吊られたイエスの遺体と一致する、長さ4.5m、幅2.1mの布で、その両面にイエスの顔の痕跡が写っています。



聖骸布は、1270年にフランスの都府トリニティの修道院で発見された、イエスの遺体と一致する、長さ4.5m、幅2.1mの布で、その両面にイエスの顔の痕跡が写っています。これは、聖骸布と呼ばれる、十字架に吊られたイエスの遺体と一致する、長さ4.5m、幅2.1mの布で、その両面にイエスの顔の痕跡が写っています。



この写真は、聖骸布の両面に写った顔の痕跡を、デジタル技術によって鮮明にしたものです。このように、聖骸布の両面に写った顔の痕跡は、デジタル技術によって鮮明にすることができます。

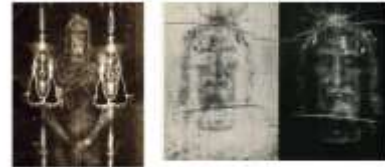
日本語

LA SANTA SINDONE
これこそ聖骸布

Why Shroud? (Latin/Spanish)
This is the Shroud of the crucified person. The other is a full color image of a person's front and back. Miraculous, supernatural, divine abilities. It was photographed in black and white, not color. It is the 'negative' of the photograph. But we had to wait for the invention of the computer to find out.



This was not taken up the Shroud. This is the Shroud of the crucified person. The other is a full color image of a person's front and back. Miraculous, supernatural, divine abilities. It was photographed in black and white, not color. It is the 'negative' of the photograph. But we had to wait for the invention of the computer to find out.

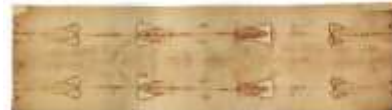


This photograph has a blue color effect, and it is the same as the one taken by the Shroud of Turin. It is the same as the one taken by the Shroud of Turin. It is the same as the one taken by the Shroud of Turin.

英語

LA SÁBANA SANTA
これこそ聖骸布

「何ぞこの布か」
「聖骸布とは」
聖骸布とは、1270年、フランスの都府トリニティの修道院で発見された、イエスの遺体と一致する、長さ4.5m、幅2.1mの布で、その両面にイエスの顔の痕跡が写っています。これは、聖骸布と呼ばれる、十字架に吊られたイエスの遺体と一致する、長さ4.5m、幅2.1mの布で、その両面にイエスの顔の痕跡が写っています。



This was not taken up the Shroud. This is the Shroud of the crucified person. The other is a full color image of a person's front and back. Miraculous, supernatural, divine abilities. It was photographed in black and white, not color. It is the 'negative' of the photograph. But we had to wait for the invention of the computer to find out.



This photograph has a blue color effect, and it is the same as the one taken by the Shroud of Turin. It is the same as the one taken by the Shroud of Turin. It is the same as the one taken by the Shroud of Turin.

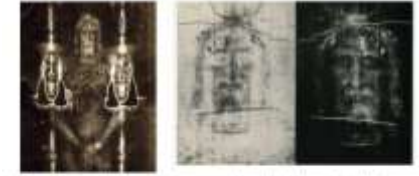
スペイン語

LA SANTA SINDONE
これこそ聖骸布

「何ぞこの布か」
「聖骸布とは」
聖骸布とは、1270年、フランスの都府トリニティの修道院で発見された、イエスの遺体と一致する、長さ4.5m、幅2.1mの布で、その両面にイエスの顔の痕跡が写っています。これは、聖骸布と呼ばれる、十字架に吊られたイエスの遺体と一致する、長さ4.5m、幅2.1mの布で、その両面にイエスの顔の痕跡が写っています。



This was not taken up the Shroud. This is the Shroud of the crucified person. The other is a full color image of a person's front and back. Miraculous, supernatural, divine abilities. It was photographed in black and white, not color. It is the 'negative' of the photograph. But we had to wait for the invention of the computer to find out.



This photograph has a blue color effect, and it is the same as the one taken by the Shroud of Turin. It is the same as the one taken by the Shroud of Turin. It is the same as the one taken by the Shroud of Turin.

ポルトガル語



3.8 十字架上のイエス様の靈性を体験するミニ巡礼(スペイン語) (2024.9.28)

聖骸布

事前準備

▶ 当日のタイムラインは、9/21の日本語版と同じとした。

時間	説明のポイント	備考
1. 説明 5分間	<ul style="list-style-type: none"> ・聖骸布(亜麻布)がどのようにイエス様を包んでいたかの説明 (小さい聖骸布を2つに折って、実際の包み方を実演) ・1898年に聖骸布(セピア色)を写真に撮ったら、そこに姿が出てきた(前方に展示している写真を指す) ・それは、鞭打たれ、拷問を受け、十字架刑に処され、殺された人の正面と背面の姿であった。 ・イエス様と聖骸布の一致点(聖書の記載との一致点) <ul style="list-style-type: none"> →鞭打たれた →茨の冠を被せられた →自分で十字架を担いだ →釘で十字架に付けられた →足を折られず、槍で胸を刺された(死後の血餅(血)と血清(水)が出た/死後に槍で刺された) ・聖骸布の血は、布の裏面まで染みこんでいるが、姿(ネガ写真)は写っていない。 <ul style="list-style-type: none"> →先に聖骸布の血が布に染みこんだ。 →姿は、その後でできた。 →すなわち、復活の時に、ご遺体から何らかのエネルギーが出て、布の表面に遺体の影のような姿が焼き付けられた。 ・ヨハネ福音書： <ul style="list-style-type: none"> →“パトロとヨハネが墓に行った時、体がなく亜麻布が平らになっているのを見た” →これで、復活を信じたと言う。 ・これでわかるように、聖骸布には、イエス様の受難と復活についてのメッセージが詰まっている。 ・最後に教会聖堂に入って右側の壁に掲げている聖骸布は日本に一つしかないレプリカであることを伝える。 	<p>詳細の説明資料は最後に渡す (まずは、正面に掲示してある聖骸布に集中してもらおうため)</p>
2. 見る 12分間	<ul style="list-style-type: none"> ・巡礼者全員に順番に聖骸布を近くで見せて頂きながら、釘、鞭の跡の話を適時話す。 ・巡礼者からの質問を適時受け、応える(コンプリ神父様に助けてもらう) 	BGMを流す
3. 黙想 13分間	<ul style="list-style-type: none"> ・“黙想”の準備として、姿勢と呼吸を整えて頂き、マルコ福音書(8・27-32)を静かに朗読する。 ・当日巡礼者に配布される“霊における会話メモ”に、感じたこと、味わったこと、気づかされたことを記載頂く 	



3.8 十字架上のイエス様の靈性を体験するミニ巡礼(スペイン語版) (2024.9.28)

聖骸布

当日準備

- ▶ 当日8時に奉仕メンバーが集合し、神学院112教室に下図のように、実物大の聖骸布の写真を9/21と同様に設置した。
- ▶ 但し、右の扉には、聖骸布の全体像の1/2縮尺版を貼り付けず、説明時に奉仕メンバーが広げて、巡礼者に説明するようにした。
- ▶ また、人数が1グループが50名と想定されたので机をおかず、椅子だけの設置とした。





3.8 十字架上のイエス様の靈性を体験するミニ巡礼(スペイン語) (2024.9.28)

聖骸布

説明シーン

- ▶ スペイン語で説明する下田さんと聖骸布の1/2縮尺版を拡げてサポートする釜田さんと平林さん。
- ▶ 熱心に聴き入る巡礼者の方々。





3.8 十字架上のイエス様の靈性を体験するミニ巡礼(スペイン語) (2024.9.28)

聖骸布

説明シーン

- ▶ イエス様のお顔を包んでいたスタリオの説明に熱弁(イタリア語)を振るい、実演するコンプリ神父様。
(スペイン語系とポルトガル系の方々は、イタリア語の説明が半分程度わかるとのこと)
- ▶ 巡礼者の方々は、イエス様の受難後の様子を良く理解できたように思う。





3.8 十字架上のイエス様の靈性を体験するミニ巡礼(スペイン語) (2024.9.28)

聖骸布

“見る”シーン

- ▶ 参加者の方々に、“見て”頂き、湧き上がる質問に、奉仕メンバーとコンプリ神父様が“応え”ました！





3.8 十字架上のイエス様の靈性を体験するミニ巡礼(スペイン語) (2024.9.28)

聖骸布

“見る”シーン

- ▶ 参加者の方々に、“見て”頂き、湧き上がる質問に、奉仕メンバーとコンプリ神父様が“応え”ました！





3.8 十字架上のイエス様の靈性を体験するミニ巡礼(スペイン語) (2024.9.28)

聖骸布

“黙想”シーン

- ▶ 聖骸布見学後、奉仕スタッフの促しで、静かに黙想し、イエス様の受難と復活を味わう巡礼者の方々。





3.8 十字架上のイエス様の靈性を体験するミニ巡礼(スペイン語) (2024.9.28)

聖骸布

“セッション終了後”

- ▶ セッション終了後、巡礼者の求めに応じて写真撮影！ 子供達は、素直に聖骸布を理解します。





3.8 十字架上のイエス様の靈性を体験するミニ巡礼(スペイン語) (2024.9.28)

食事

楽しいひととき!





3.8 十字架上のイエス様の靈性を体験するミニ巡礼(スペイン語) (2024.9.28)

食事

楽しいひととき!

- ▶ 食事後、来年(2025年)の10/4(土)に調布教会で再び集まり、**ミラグロス祭**を行おうということになった。





3.8 十字架上のイエス様の靈性を体験するミニ巡礼(スペイン語) (2024.9.28)

食事

食事奉仕チームの皆さん 楽しそう！





3.8 十字架上のイエス様の靈性を体験するミニ巡礼(スペイン語) (2024.9.28)

食事

食事奉仕チームの皆さん 楽しそう！





3.8 十字架上のイエス様の靈性を体験するミニ巡礼(スペイン語) (2024.9.28)

食事

食事奉仕チームの皆さん 楽しそう！





3.8 十字架上のイエス様の靈性を体験するミニ巡礼(スペイン語) (2024.9.28)

食事

調布教会の誇る環境整備チーム



4カ国語表示で、
ゴミの分別処理を巡礼者に
促し、巡礼者の方々には、
積極的に協力して頂きまし
た！ 神に感謝！



3.8 十字架上のイエス様の靈性を体験するミニ巡礼(スペイン語) (2024.9.28)

ゆるしの秘跡

山野内司教様によるゆるしの秘跡

- ▶ 山野内司教様のゆるしの秘跡が午前中を通して、ミニ巡礼と併行して行われました。奉仕スタッフが巡礼者のための案内の奉仕に当たりました。ゆるしの秘跡を待つ巡礼者が途切れることはありませんでした。





3.8 十字架上のイエス様の靈性を体験するミニ巡礼(スペイン語) (2024.9.28)

分かち合い

グループでの分かち合い

- ▶ 午前中のミニ巡礼を通して、心で感じたことを分かち合った。





3.8 十字架上のイエス様の靈性を体験するミニ巡礼(スペイン語) (2024.9.28)

分かち合い

グループでの分かち合い

- ▶ 午前中のミニ巡礼を通して、心で感じたことを分かち合った。





3.8 十字架上のイエス様の靈性を体験するミニ巡礼(スペイン語) (2024.9.28)

分かち合い

全体会での分かち合い

- ▶ グループでの分かち合いを全体会で分かち合った。





3.8 十字架上のイエス様の靈性を体験するミニ巡礼(スペイン語) (2024.9.28)

分かち合い

全体会での分かち合い

- ▶ グループでの分かち合いを全体会で分かち合った。





3.8 十字架上のイエス様の靈性を体験するミニ巡礼(スペイン語) (2024.9.28)

分かち合い

全体会での分かち合い

- ▶ グループでの分かち合いを全体会で分かち合った。(以下、分かちあった内容の一部を記載します)
- ▶ 自分達は、キリスト教の国で育って、キリスト教の環境の中で、信仰を育てることができたが、ここ日本で、キリスト教の環境が無い中で、自分たちの子供達の信仰をどうやって育てらよいかを悩んでいる。
- ▶ この巡礼を通して、平和と温かい気持ちを感じた。
- ▶ チマッティ神父様のお墓、チマッティ資料館の巡礼の中で、カトリック信者として、いろいろな体験をして大変嬉しかった。
- ▶ 今日の巡礼は、楽しく、イエス様は、私たちに、大切な遺産を残してくれたと感じた。
- ▶ 私たちは、チマッティ神父様に感謝したいと思います。
- ▶ グアテマラから初めてミニ巡礼を体験した。日本人に温かく迎えてもらった。各々の場所で恵みを頂いた。





3.8 十字架上のイエス様の靈性を体験するミニ巡礼(スペイン語) (2024.9.28)

門をくぐるための準備

- ▶ 山野内神父様から、全免償の条件について、以下の説明があったが、正式には来年からなので、今回は儀式としては省略された。
- ▶ 赦しの秘跡を受けること、ミサにあずかりご聖体を拝領すること、教皇の意向のために祈ること、これが全免償の条件です。
- ▶ 最後のページに、感謝、願い、約束とあります。
- ▶ 赦しの秘跡、巡礼、分かち合いを経て、私たちは神様に立ち戻ったでしょうか？
- ▶ 受けた喜びへの感謝、これからも神様の恵みを願う願い、そのための神様との約束
- ▶ 一人一人が「心に書き、心に刻む」つもりで、それぞれの思いを捧げましょう。
- ▶ ミサの後、聖堂を出る時にスタンプが押されます。神様の愛のスタンプが押されて、巡礼が終了となりますが、今回はスタンプはありません。

全免償

免償とは、「ゆるしの秘跡」を受けて、すでに赦された罪に伴う、有限の罰の免除をいう。

免償を得るために

1. ゆるしの秘跡を受ける
2. ミサにあずかり聖体を拝領する
3. 教皇の意向のために祈る

主の祈り

アベ・マリア

栄昌

信仰宣言

真の回心のしるしとして「聖年の扉」をくぐる

感謝

願い

約束

調布教会
巡礼教会スタンプ



3.8 十字架上のイエス様の靈性を体験するミニ巡礼(スペイン語) (2024.9.28)

聖歌隊

巡礼者への歓迎賛歌+ミサ曲

- ▶ 聖歌隊としては、初めてのスペイン語の聖歌への挑戦で、曲集めから始めました。楽譜が無かったり、整っていないものは、聖歌隊で歌えるように、吉川さんが楽譜を作成・整備し、スペイン語の歌詞については、山城さんがスペイン語グループとの橋渡しになり翻訳し、楽譜にカナを振って、聖歌隊全員が練習できるように工夫されたようです(次ページ以降の楽譜をご参照下さい。繊細な努力の跡を見ることができます！)。
- ▶ 特に、深谷教会のマルティーナさん(御ミサでは、答唱など太鼓を叩きながら歌ってくれました！)がアンヘル神父様と相談しながら浜松教会で使っていた楽譜や、楽譜がないものはYouTubeで送ってくれました。楽譜が整うと調布教会まで来てくれ、歌いながらテンポや言葉を調整してくれたそうです(感謝！)
- ▶ 練習は、吉川さん、石倉さん、木村(恵)さん、木下(久)さんが中心となって、聖歌隊全員で行われ、皆新鮮でその魅力に取りつかれ、楽しく練習できたとのこと。また、マルティーナさんは、前日より泊まり込み、リハーサルから一緒に練習してくれたそうです。当日は、マルティーナさんは、太鼓と共にタンブリンも積極的に引き受けてくれ、聖歌隊+マルティーナさんの歌に花を添えてくれました。





3.8 十字架上のイエス様の靈性を体験するミニ巡礼(スペイン語) (2024.9.28)

聖歌隊

巡礼者への歓迎賛歌+ミサ曲

- ▶ 前日のリハーサル中のハプニングとして、ディスプレイも先唱もないことに気づき、突如、石倉さんがスペイン語で番号、立つ、座るなどを話すことになったそうです。しかし、スペイン語がわからないため先唱をするのは、緊張だったと思います。心の中で、日本語で祈りながらやったそうです。
- ▶ また、当日のミサが始まる直前に、マリオ司教様からスペイン語で2箇所応唱をやるように言われ慌てましたが、皆さんと協力して、上手に応唱できたと思います。今回の巡礼ミサで、スペイン語のミサの様子もわかってきましたので、次回以降は、皆さんで「参加型盛り上がりミサ」となること間違い無いと思います。
- ▶ 当日の御ミサでは、上述のマルティーナさんのペルーの太鼓やタンバリンも加わり、ラテンの巡礼者の方々が喜んでくださったと同時に、聖歌隊も心踊りながら歌い、共に分かち合い、ミサを捧げることができ、聖堂内の躍り上がるような響きに感激し、そこに聖霊の現存を感じることができました。
- ▶ 聖歌を唄うことは、祈ることであると言われてますが、聖歌隊がラテンの方々と一致したいという思いが、練習の中で、聖霊に促され、唄えば唄うほど、祈りとして深められたことで、当日の御ミサでは、ラテンの方々と的一致が、聖堂の中で聖霊降臨の喜びとして与えられたのだと思います。





3.8 十字架上のイエス様の靈性を体験するミニ巡礼(スペイン語) (2024.9.28)

御ミサ

- ▶ 聖書朗読
 - 1) 第1朗読 : 民数記 11・25-29
 - 2) 第2朗読 : ヤコブの手紙 5・1-6
 - 3) 福音 : マルコによる福音書 9・38-43, 45, 47-48
- ▶ 聖歌 (門ぐりの歌 + ミサ曲) : 次ページ以降に楽譜を添付
 - 1) 門ぐりの歌 「VIENEN CON ALEGRIA」
 - 2) 入祭 「JUNTOS, COMO HER MANOS」
 - 3) いつくしみの賛歌 「SEÑOR, TEN PIEDAD」
 - 4) 栄光の賛歌 「GLORIA A DIOS DEL CIELO」
 - 5) 答唱詩編 「LOS PRECEPTOS DEL SEÑOR」
 - 6) アレルヤ唱 「ALELUYA DE TAIZE」
 - 7) 奉納 「TE OFREZCO EL BLANCO PAN」
 - 8) 感謝の賛歌 「SANTO SANTO SANTO」
 - 9) 平和の賛歌 「OH CORDERO DE DIOS」
 - 10) 拝領① 「A BARCA (主は水辺に立った)」
 - 11) 拝領② 「SI YO NO TENGO AMOR」
 - 12) 閉祭① 「HIMNO AL SENOR DE LOS MILAGROS」
 - 13) 閉祭② 「SANTA MARIA DEL CAMINO」
 - 14) 閉祭③ 「MARIA DE NAZARE」





3.8 十字架上のイエス様の靈性を体験するミニ巡礼(スペイン語) (2024.9.28)

聖歌の楽譜

「VIENEN CON ALEGRIA」

(13)

Fa Do⁷ Fa

Vien-en con a-le-gría, Se-ñor, can-tan-do vien-en con
 ビエネン コンアレ グリア セニョールカントド ビエネンコン

Fa Do⁷ Fa Sib Fa

a-le-gría, Se-ñor, los que cam-i-nan por la vida, Se-ñor, sem-
 アレ グリア セニョールロス ケガ ミ アンダムラ ビダ セニョール セン

Sol Rem Sol Do Sol Do Fa

brando tu paz ya-mor...-brando tu paz ya-mor...
 アラント トゥ パス イア モル アラント トゥ パス イア モル

Fa Do⁷

1. Vie-nen tra-yen-do la es-pe-ran-za a un mun-do car-
 2. Vie-nen tra-yen-do en-tre sus ma-nos es fuer-zos de her-
 3. Cuan-do el o-dio-y la vio-len-cia a-ni-den en

1. ビエネン トライエン ド ラ エスペラン サ アウンムント カル
 2. ビエネン トライエン ド レス マ ノス エス フェルソス デ エル
 3. クアンド エル オ ディオ ラ ビオレン シア ア ニ デン エン

Do⁷ Fa

ga-do de an-sie-dad; a un mun-do que bus-ca y que no al-
 ma-nos por la paz; de-se-os de un mun-do más hu-
 nuestro co-ra-zón; el mun-do sa-brá que por he-

1. カド アンシエ タッ アウンムント ケ ブスカイ ケ ノ アル
 2. マ ノス ボル ラ パス. テ セオス デ アウンムント マス ヲ
 3. スエストロ コ ラ ソン エル ムント サ フラ ケ オル エ

Fa Do⁷ Fa

can-za ca-mi-nos de a-mor y de a-mis-tad...
 ma-no que na-cen del bien y la ver-dad...
 ren-cia le a-guar-dan tris-te-zas y do-lor...

1. カン サ カ ミ ノス テ アモリ テ アミス タッ
 2. マ ノ ケ ナ セン テル ビエン ラ ベレ タッ
 3. レン シア レア グアル ダン トリス テ サ ス イド ローレ

「JUNTOS, COMO HER MANOS」

入声 (1)

Andante Estribillo

Juntos, como her-manos

F C Dim F

Jun-tos, co-mo her-manos miem-bros de unal-
 フントス コモエル マノス ミエン ブロス デ ウナル

C F C7 Dim Bb

-gle-sia; Va-mos ca-mi-nan-do al en-
 イグレシア バモスカミナンド アルエン

C/F C7 F Es Defas C7

cuen-tro del Se-ñor. Un lan-go ca-mi-
 クエントロ デル セニョール. ウン ランゴ カミ

Dim Bb C

nar; por el de-ñer-to ba-jo el sol,
 アル; ポル エル デニエルト バホエル ソル

F C7 Dim 3 Bb C/F C7

no po-de-mos a-van-zar sin la-a-yu-da del Se-
 ノ ポデモス アヴァンザル シン ラアユダ デル セ

F 1 2

nel D. C.

2. Unidos al rezar, / unidos en una canción, / viviremos nuestra fe /
 con la ayuda del Señor.
 3. La Iglesia en marcha está, / A un mundo nuevo vamos ya, / don-
 de reinará el amor, / donde reinará la paz.



3.8 十字架上のイエス様の靈性を体験するミニ巡礼(スペイン語) (2024.9.28)

聖歌の楽譜

「SEÑOR, TEN PIEDAD」

② いくしみの賛歌

先唱 Dm Gm A/Dm A Dm 六唱

ヒ ニョ ルテンピエ ター テリ ヴ - トロス

Dm Gm A/Dm A Dm 七

ニョ - ルテンピエ ター テリ ヴ - トロス Fineクリ

Dm Gm A/Dm A Dm 八

スト - テンピエ ター テリ ヴ - トロス クリ

Dm Gm A/Dm A9 Dm

ト テンピエ ター テリ ヴ - トロス a.c.a.f.f.

「GLORIA A DIOS DEL CIELO」

③ 栄光の賛歌
Gloria Plazon

♩ = 80 前奏7小節

グロリア イテリス エンセル ス エ ロ イエンテス

パ ス ア ロス オン プルク テ マエルセ ニョル

1. ホルタク イメン サ グロリア テ ア ラ イ. モス
2. セニョル テオス レイ セス テス アル テオス ノストロ ア クリ スト
3. トク テオス エルバト テルム オクラン ビエタ テ / ヲ トロス
4. ノロク ヲ トク エリス ノスト / ヲ トク エ コル

1. テ ベンテシモス テ ア ド ラ モス
2. セニョル テオス コルゴロ テオス イ ス クリ スト
3. トク テオス エルバト テルム オクラン ビエタ テ / ヲ トロス
4. コン エレ エス セル トン ノスト エンテ グロリア テ テオス イ. トレ

フ - - - - -



3.8 十字架上のイエス様の靈性を体験するミニ巡礼(スペイン語) (2024.9.28)

聖歌の楽譜

「LOS PRECEPTOS DEL SEÑOR」

④ 答唱詩編
SALMO 18, 8, 10, 12-14

Los pre-cep-tos del Se-ñor, a - le - gran el co-ra-zón.
02 アレ セプトステルセ ニホルア レ グランエルコ ラ ソン

「ALELUYA DE TAIZE」

No. 202 Aleluya de Taize [浜松: 21]

⑤
アレルヤ組

A - le - lu - ya, A - le - lu, A - le - lu - ya, A - le - lu - ya, A - le - lu - ya,
アレルヤアレルヤアレルヤ アレルヤアレルヤ

A - le - lu - ya, A - le - lu, A - le - lu - ya, A - le - lu - ya, A - le - lu - ya. *Fin*
アレルヤアレルヤアレルヤ アレルヤアレルヤ

1 Bus-ca pri-me-ro el Rei - no de Dios, y su jus-ti-cia di - vi - na,
ブス カプリメロ エルレイ ノ デイオス イス ヲス チンア イヒナ

2 Cuan-do los hom-bres pre-gun-tan el por-qué de es - te mun-do de gue-r-ras,
クワン ドロス ホムブレス プレ グンタン エル ポル ケ デ エス テ ムン ド デ グエ ラス

y lo de más a - ña - di - do se - ra, A - le - lu - ya, A - le - lu - ya. *B.G.*
イ ロ デ マス ア ニ ア デイ ド セラ アレルヤ アレルヤ

bus-co un a - mor que pue - da con-ven-cer, Cri-sto*en el mun-do fue* a - mi - go.
ブス コン ア エル ケ プス デ コン ベン セール クリス ト エン エル ムン ド フエ ア ミ ゴ

(Ref.) Aleluya, Alelu, Aleluya, /
Aleluya, Aleluya. / (2x)

1. Busca primero el Reino de Dios, /
y su justicia Divina. /
Y lo de más añadido será, /
Aleluya, Aleluya. / (Ref.)

2. Cuando los hombres preguntan el porqué /
de este mundo de guerras, /
busco un amor que pueda convencer, /
Cristo el mundo fue amigo. / (Ref.)



3.8 十字架上のイエス様の靈性を体験するミニ巡礼(スペイン語) (2024.9.28)

聖歌の楽譜

「OH CORDERO DE DIOS」

⑧ 平和の賛歌
OH CORDERO DE DIOS

C Dm E/C C7 F

オ コルデロ デ ディオス トゥケ キタセル ペカド デル
Oh cordero de Dios tu que quitas el pecado del

Em F Em Am

アン ド トゥケ キタセル ペカド デル ム ン ド
mu ndo tu que quitas el pecado del mu n do

1. 2

テン ヒエダテ デノ ソトрос - トрос オセ ニョル
ten piedad de nos otros oh se nor

Dm G7

1. 3

ダ ノス ラ パズ
do nos la paz

3回

★ 変更
1. 2 と 3 は
たがひ

⑨ 「A BARCA (主は水辺に立った)」

<聖体拝領の間>

A Barca

(Cesáreo Gabarín)

E♭ B♭ Cmin A♭

1. Tu te*a - bei - ras - te da pra - ia, não bus - ca - ste
トク タベ イラス テ ダ プライア, ナオン ブスカステ

2. Tu has ve - ni - do a la o - ri - lla, no has bus - ca - do
トウ アスベ ニド ア ラオリジャ, ノアス ブスカド

B♭7 E♭ B♭7 E♭

nem sa - bios nem ri - cos so - men - te que - res que eu te si - ga.
ケンサ ビオス ケン ヒコス ソメンテ ケレス ケエウ テシガ

nia sa - bios nia ricos, tan so - lo que - res que yo te si - ga,
ニア サビオス ニア リコス タン ソロ ケエレス ケジョ テシガ

E♭7 E♭7 A♭ B♭7 E♭ Cmin Fmin

(Ref.) Se - ñor, tu me*o - lhas - te nos o - lhos a sor - rir
セニョール, トク メオリハステ ノス オリョス アソリール

Se - ñor, me has mi - ra - do a los o - jos, son - ri - en - do,
セニョール, メアスマイラド アロス オホス ソンリエンド

B♭7 E♭ E♭7 A♭ B♭7

pro - nun - cia - ste meu no - me. Lá na pra - ia eu lar - guei o meu
プロヌンシアステ メウ ノメ, ラナ プライア エウラルグエイ オメウ

has di - cho mi nom - bre, en la a - re - na he de - ja - do mi
アスディチョ ミ ノンブレ, エンラレナ エデハドミ

E♭ Cmin Fmin B♭7 E♭

bar - co jun - to*a Ti bus - ca - rei ou - tro mar.
バルコ ジュントア テ ブスカレイ オウトロ マール

bar - ca, jun - to a ti bus - ca - ré o - tro mar
バルカ フントア テイ, ブスカレ オトロ マール

1. は ポルトガル語の歌詞で
2. は スペイン語の歌詞で
3. 以下は
ファイル聖歌集の 725
「主は水辺に立った」の
日本語の歌詞で 1番から
歌ってください。





3.8 十字架上のイエス様の靈性を体験するミニ巡礼(スペイン語) (2024.9.28)

聖歌の楽譜

「SI YO NO TENGO AMOR」

149 - SI YO NO TENGO AMOR
(愛がなかったら) Anónimo

El amor nunca se acaba, el amor no se desahoga, el amor no se agota, el amor nunca es dolor.

El amor disculpa todo, el amor es caridad, no se alegra en la injusticia, sólo goza en la verdad.

El amor soporta todo, el amor todo lo cree, el amor todo lo espera, el amor es siempre fiel.

Nuestra fe y nuestra esperanza junto a Dios terminarán, el amor es algo eterno, nunca, nunca pasará.

- | | | | |
|---|--|--|--|
| 2) エルアモル ヌンカ
セ イリク
エルアモル / エス
デス コルテス
エルアモル / エス
エエイスタ
エルアモル ヌンカ
エス ドアレス | 3) エルアモル
ヂェスクリバト
エルアモル エス
カリダ
/ エ アレグラ エンテ
インアスチシア
ソロ ゴサエンテ
ベルダ | 4) エルアモル
ソアソラト
エルアモル ト
クレー
エルアモル ト
ロ エスベラ
エルアモル エス
シエン フレアイェル | 5) ヌエストラ フェイ
ヌエストラ エスベラ
アソチアトス
テルミタラン
エルアモル エス
アルゴ エテルノ
ヌンカ ヌンカ イバ |
|---|--|--|--|

「HIMNO AL SEÑOR DE LOS MILAGROS」

HIMNO AL SEÑOR DE LOS MILAGROS

Letra y Música
de Isabel Rodríguez Jaramín

Andante
Coro

Señor de los Milagros a Ti venimos en procesion
セニョル デロスミラグロス アティベニモス エンプロセシオン

ius fieles de vos a implorar bendicion. Se
トウス フェイステボトス アインプロラル トクベンティシオン

Señor de los Milagros a Ti venimos en procesion
ニョル デロスミラグロス アティベニモス エンプロセシオン

ius fieles de vos a implorar bendicion. Confesion. Confesion.
トウス フェイステボトス アインプロラル トクベンティシオン フロゲシオン コンフисиオン



3.8 十字架上のイエス様の靈性を体験するミニ巡礼(スペイン語) (2024.9.28)

聖歌の楽譜

[HIMNO AL SEÑOR DE LOS MILAGROS]

1^o Estrofo

gui. e. de. nos. tros. al. mas. la. fe. es. pe. ren. so. la. ca. ri. dad. de. tu. Se. ñor. de. los. mi. lagros.

2^o Estrofo

fir. me. de. buen. cris. tis. te. no. ha. ga. mos. gran. de. nros. te. ri. y. u. ni. o. de. los. mi. lagros.

3^o Estrofo

to. dos. co. mo. u. na. fier. za. ie. su. pli. ca. mos. nos. des. tu. lux. Se. ñor. de. los. mi. lagros.

Coro

to. dos. co. mo. u. na. fier. za. ie. su. pli. ca. mos. nos. des. tu. lux. Se. ñor. de. los. mi. lagros.

[SANTA MARIA DEL CAMINO]

① 肉祭 *Santa Maria del Camino*

1. ミエトラスレコレラ ビ ダ トマソカソロイ
2. アンケテテガンアル グ イス ケアダテカン
3. シオクレムドロス オン グレス シンコノエルセ

Coro

タス コンテゴボルエルカ ミ
ビアル ルケボルウムド ヌホ
バン / ニエダスカタ マ

サンタマリア バン ベンコン / ヴトリスル
ルケボラベル ダ
アルケコンテゴエタ

カミトル サンタマリアバン

ベンコン / ヴトリスルカミトル サンタマリア

4- Aunque parezcan tus pasos, inútil caminar, tu vas haciendo caminos, otros los seguirán.

バン



3.8 十字架上のイエス様の靈性を体験するミニ巡礼(スペイン語) (2024.9.28)

聖歌の楽譜

12 「MARIA DE NAZARE」 4-2 (41)

明係 No. 62 Maria de Nazaré [L.S. 177] (Pe. Zezinho)

ナザレのマリア (新築) マリア賛歌

1. Ma - ri - a de Na - za - ré, Ma -
 リ ア マ リ ア デ ナ ザ レ マ

2. Ma - ri - a que en que - ro bem. Ma -
 マ リ ア ケ フェス ジェ ス カ ヨ ニヤル マ

ri - a me ca - ti - vou. Fez mais for - te* a mi - nha fé
 リ ア メ カ チ ヴェウ フェス マイス フェル デ ア ミ ニア フェ

ri - a do pu - ro* a - mor. I - gual a vo - cê nin - guém, Mãe
 リ ア ド プ ロ ア モル イ グアル ア ヴェ セ ニン グェム マンイ

por fi - lho me* a - do - tou. As ve - zes eu pa - ro* a fi - co* a pen - sar e
 ポル フィ ヴェ ア ド トウ アス ヴェ ゼス ヌウ イ コ ア フィ コ ア ペン サール エ

pu - ra do meu Se - nhor. Em ca - da mu - lher que a ter - ra cri - ou um
 プ ラ ド ヌウ セ ニヤル エン カ ダ ヴェ ル クェ ア テ ラ クリ ヴェウ ヌム

sem per - ce - ber ma - ve - jo* a re - zar, e* o meu co - ra - ção se põe a can - tar pra
 セン ペル セ ベル マ ヴェ ジョ ア レ ザル エ オ ヌウ コ ラ シオン セ ポン ア カン タール プラ

tra - ço de Deus Ma - ri - a dei - xou. Um so - nho de mãe Ma - ri - a plan - tou pro
 トラ ショ デ デウス マ リ ア デイ ショウ ウン ソ ニョ デ マンイ マ リ ア プラントウ プロ

vir - gem de Na - za - ré. Me - ni - na que Deus a - mou e* es - co - lheu, pra
 ヴィル ジェム デ ナ ザ レ メ ニ ナ ケ デウス ア モウ エ ス コ ルヘウ プラ

mun - do* en - con - trar a paz. Ma - ri - a que fez o Cri - sto fa - lar. Ma -
 ムン ド エン コントラル ア パス マ リ ア ケ フェス オ クリ スト ファ ラル マ

Mãe de Je - sus, o Fi - lho de Deus, Mãe
 マンイ デ ジェ スス オ フィ ルハ デ デウス マ

ri - a que fez Je - sus ca - mi - nhar. Mãe
 リ ア ケ フェス ジェ スス カ ヨ ニヤル マ

ri - a que* o po - vo* in - tei - ro* e - le - gen, Se - nho - ra e Mãe do céu.
 リ ア クェ オ ポ ヴォ イン テイ ロ エ レ ジェウ セ ニヤ ラ エ マンイ ド セウ

ri - a que só vi - veu pra seu Deus, Ma - ri - a do po - vo meu.
 リ ア ク ソ ヴィ ヴェウ プラ セウ デウス マ リ ア ド ポ ヴォ ム

(Ref.) A - ve Ma - ri - a, A - ve Ma - ri - a, A - ve Ma - ri - a, Mãe de Je - sus.
 ア ヴェ マ リ ア ア ヴェ マ リ ア ア ヴェ マ リ ア マンイ デ ジェ スス

1. Maria de Nazaré, / Maria me cativou. /
 Fez mais forte a minha fé. / É por filho me adotou. /
 Às vezes eu paro e fico a pensar / e sem perceber me vejo a rezar /
 e meu coração se põe a cantar / pra virgem de Nazaré. /
 Menina que Deus amou e escolheu, /
 pra Mãe de Jesus, o Filho de Deus, /
 Maria que o povo inteiro elegeu, / Senhora e Mãe do céu. /
 (Ref.) Ave Maria, Ave Maria, / Ave Maria, Mãe de Jesus. /
 2. Maria que eu quero bem, / Maria do puro amor, /
 igual a você ninguém / Mãe pura do meu Senhor. /
 Em cada mulher que a terra criou, /
 um traço de Deus Maria deixou. /
 Um sonho de mãe Maria plantou / pro mundo encontrar a paz. /
 Maria que fez o Cristo falar. / Maria que fez Jesus caminhar. /
 Maria que só viveu pra seu Deus, / Maria do povo meu. / (Ref.)





3.8 十字架上のイエス様の靈性を体験するミニ巡礼(スペイン語) (2024.9.28)

御ミサ

聖書朗読・共同祈願



第1朗読(民数記 11・25-29)



福音朗読(マルコによる福音書 9・38-43, 45, 47-48)



第2朗読(ヤコブの手紙 5・1-6)



共同祈願





3.8 十字架上のイエス様の靈性を体験するミニ巡礼(スペイン語) (2024.9.28)

御ミサ

説教 (山野内司教様)

- ▶ 多文化による共同体・ミサ、多くの教区が、ここ30年間準備してきた。これからは、次のステップに進む新しい時になっている。
- ▶ その時に、子供や若者が教会に来なければ、未来が無い。ここに、大きな課題がある。
- ▶ ひとつの解決策が、“音楽”です。
(オカルト映画を見ても音楽が無いと怖くない(‘艸`))
- ▶ 今日、聖歌隊の歌がミサを一つにした。
聖歌隊の方々、ありがとう！





3.8 十字架上のイエス様の靈性を体験するミニ巡礼(スペイン語) (2024.9.28)

御ミサ

聖体拝領～閉祭

- ▶ 聖体拝領後、山野内神父様から、神様が35年かけて神父様を通して、この日を準備してきたことが語られ、この日のために、準備をしてきた聖歌隊と奉仕スタッフにも感謝の言葉があった。新たなスタートが始まりである。
- ▶ また、来年(2025年)の10/4(土)に調布教会に再び集まり、ミラグロス祭(奇跡のキリスト)を行うことが山野内神父様から発表があり、調布教会の窓口として、山城京子さんに奉仕頂くことが紹介された。



聖体拝領



奇跡のキリスト



山城京子さんを紹介する山野内神父様



カトリック調布教会



3.8 十字架上のイエス様の靈性を体験するミニ巡礼(スペイン語) (2024.9.28)

御ミサ

ミサ後、全員での記念撮影





3.8 十字架上のイエス様の靈性を体験するミニ巡礼(スペイン語) (2024.9.28)

御ミサ

ミサ後、所属教会毎に記念撮影(東京教区、埼玉教区、横浜教区の3教区からの集まり)



所沢教会



成田教会



太田教会



常総教会



カトリック調布教会



3.8 十字架上のイエス様の靈性を体験するミニ巡礼(スペイン語) (2024.9.28)

御ミサ

ミサ後、所属教会毎に記念撮影(東京教区、埼玉教区、横浜教区の3教区からの集まり)



甲府教会



平塚教会



伊勢崎教会



本庄教会



カトリック調布教会



3.8 十字架上のイエス様の靈性を体験するミニ巡礼(スペイン語) (2024.9.28)

御ミサ

ミサ後、所属教会毎に記念撮影(東京教区、埼玉教区、横浜教区の3教区からの集まり)



深谷教会



調布教会



足利教会



都築教会





3.8 十字架上のイエス様の靈性を体験するミニ巡礼(スペイン語) (2024.9.28)

片付け

最後まで、ありがとうございました。





3.9 チャリティバザー in 調布サレジオ (2024.10.27)

- ▶ 10月27日(日)に、お天気にも恵まれ、調布教会のグラウンドを使って、チャリティバザーが開かれました。昨年よりも、新しく奉仕に加わった方が多く、共に歩み、交わることができたバザーになりました。
- ▶ その結果、
 - 1) 当日11時からの「みんなのミサ」に与った方の人数 (約370人)
 - 2) 不安定な天候が続いた中での前日・当日のお天気 (晴れ間もありました！)
 - 3) 来場者、特に子供達とご家族の人数とその笑顔、綱引き・玉入れの参加の子供人数77人以上
 - 4) 多くの献金と共に、大変多くの恵みを頂いた。



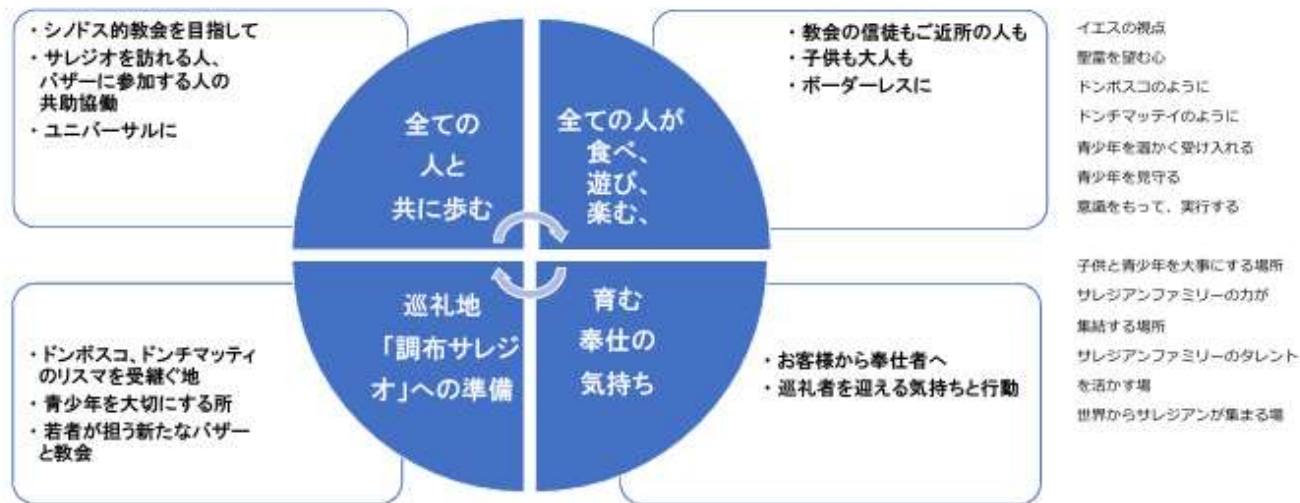


3.9 チャリティバザー in 調布サレジオ (2024.10.27) 計画段階

- ▶ 今年のバザーは、来年の聖年やサレジオ来日100周年への飛躍に向かって、「参加する人々がお互いに交わり、一緒に歩んでゆくことが誰かを助ける、寄り添うチカラになっていく」その輪が社会や地域に広がっていくことを目指して、バザーを開催することになった。

「支えあう社会に向けて 一緒に歩もう！チャリティバザーin調布サレジオ」 (仮題/昨年同)

・・・タイトルも中身も次世代メンバーに任せる (青年・40代・50代が考えるバザーとは?)



バザーの目的と意味 (2025年に向けた準備)

☆次世代への橋渡しの機会として、40代・50代と青少年が中核となって計画・実行するようになる

(1)地域に開かれた教会として、支援を必要とする人々への協力と交流 ⇨ (1)多くの人に巡礼地を訪れて、体験してもらう機会

「何だか分からないけど居心地よい、嬉しい、癒される・・・」

(2)国や年齢を超えて共に集い、食べ、歌い、遊び、学ぶ、楽しい機会 ⇨ (2)訪れた人がサレジオのカリスマ (青少年への温かい思い) を、

自然に体験する

(3)調布教会信徒やサレジオファミリー等出席・運営者が、他者のために奉仕の心で取り組む ⇨ (3)イエスの視点とドンボスコの精神を導きとする場



3.9 チャリティバザー in 調布サレジオ (2024.10.27) [当日スケジュール](#)

- ▶ バザーの前日は曇り、当日は、小雨が降る時もあったが、概ね晴れて、全てグラウンドで行うことができた。

当日のごミサのスケジュール

- 1) 8:00-9:00 , 9:30-10:30 通常ミサ @教会聖堂 (日本語)
- 2) 11:00-12:00 **みんなのミサ @教会聖堂 (ベトナム語、英語、日本語)**

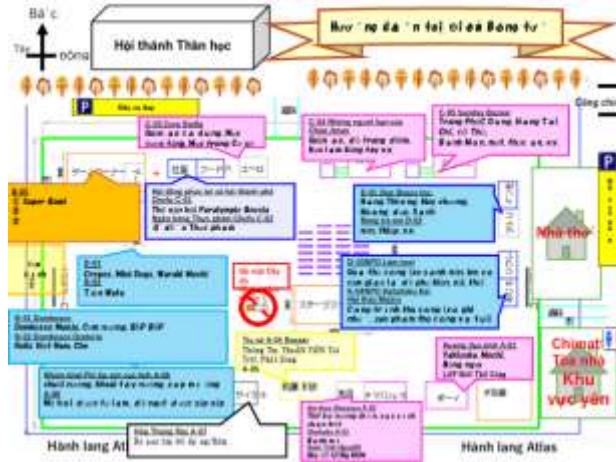
当日のバザーのスケジュール

- 1) 12:00 ミサ閉祭後、サレジアン国際学園世田谷高等学校合唱部 聖歌合唱@教会聖堂
- 2) 12:15 聖歌合唱終了後、正門マリア像前で開会宣言(テープカット)
- 3) 12:15-13:00 サレジアン国際学園世田谷高等学校合唱部 チャリティソング @サレジオグラウンド/雨天中止
- 4) 13:00-14:15 子供綱引き/子供玉入れ @サレジオグラウンド/雨天中止
- 5) 14:15- サレジオゲームコーナー OPEN @サレジオグラウンド/雨天時 ドン・ボスコホール
- 6) 14:30-15:15 和太鼓グループ「童」「響」演奏 @サレジオグラウンド/雨天中止
- 7) 15:15-15:45 ベトナムチャリティダンス @サレジオグラウンド/雨天中止
- 8) 15:50 バザーでの販売終了
- 9) 16:30 撤収開始
- 10) 18:00 撤収終了

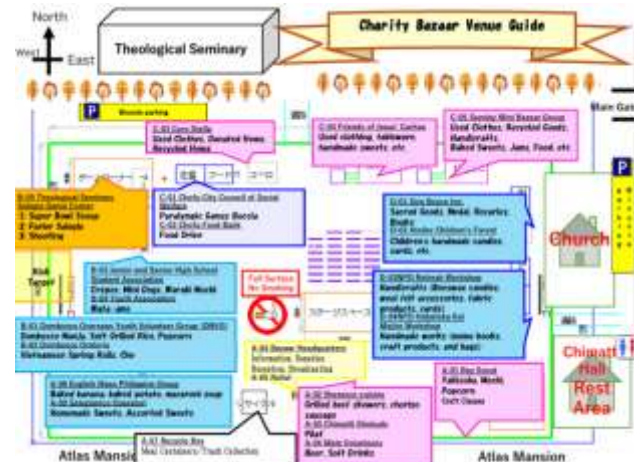


3.9 チャリティバザー in 調布サレジオ (2024.10.27) バザー案内図

▶ バザー案内図は、日本語以外に、ベトナム語、英語、スペイン語、ポルトガル語を準備した。



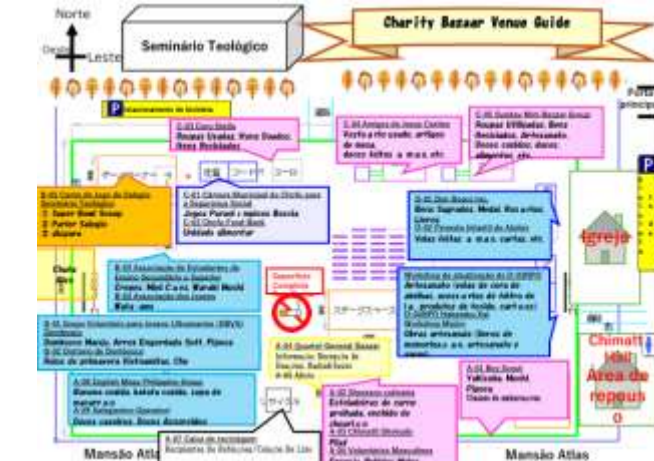
ベトナム語



英語



スペイン語

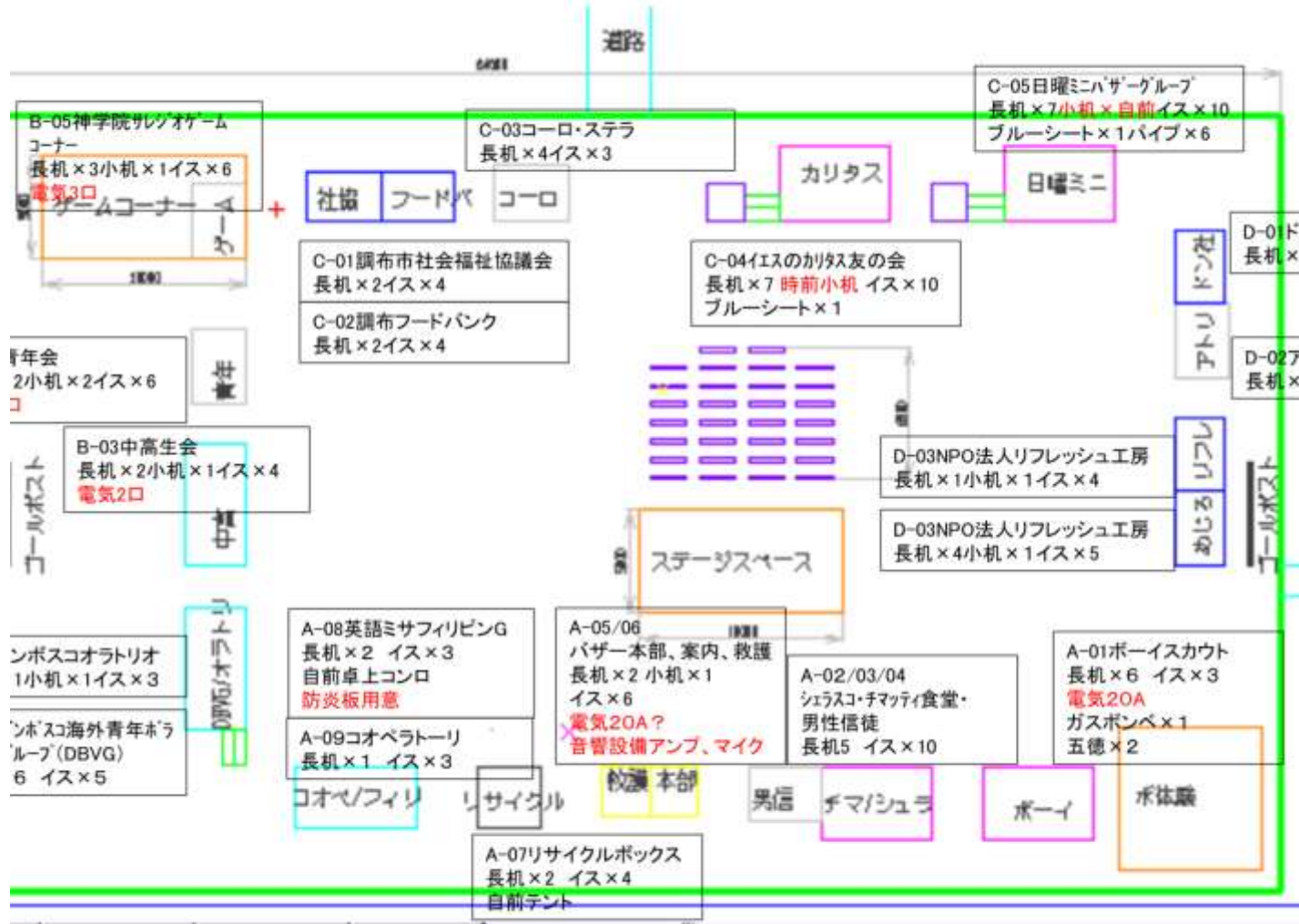


ポルトガル語



3.9 チャリティバザー in 調布サレジオ (2024.10.27) 前日準備

▶ 前日までに、以下の作業図を釜田さんが作成し、作業図に従って、皆さんで協力してテントなどの会場設営にあたった。





3.9 チャリティバザー in 調布サレジオ (2024.10.27) 前日準備

▶ 前日作業のスケジュールは、以下の通り。

会場設営準備スケジュール						
準備日10月28日(土) 内容						
時間	内容					担当者
9:00~10:30	金山油化からガスボンベ2セット受け取り					滝口
11:00~	星美幼稚園で紅白玉入れ受け取り					千葉 木下
11:00~	「たづくり」コミュニティ財団倉庫で受け取り ~ サレジオへ移送 テントウエイト10kg × 30 テント(小) × 1 テントウエイト角型 × 4 長机 × 10					中井 今村 滝口
12:30~	備蓄・昼食					
13:00~	テントを倉庫から出し、部材を位置に配置(置くだけ、組み立ては後で)					中井 今村 滝口
	教会大テント	4幕	聖堂裏2幕(B-1、B-2)	アトラス側2幕(B-3、B-4)	赤青テープ 赤青テープ 赤黄テープ 新品	
	教会小テント	4幕	聖堂裏1幕(C-2)、アトラス側1幕(B-5)、オラトリオ側2幕(B-7、B-8)	オレンジテープ	緑テープ 黒テープ 青緑テープ	
	教会簡易テント	2幕	東西横断道路側2幕(A-0) ※本部用テントとして2幕使用	紺色袋		柏木さん
	財団借用小テント	1幕	東西横断道路側1幕(D-3、D-4) ※2作業所用テントとして使用			木村彰さん 千葉
14:00~	一部軽トラを使用し、ベンチ・長机・イスを各テント付近に配置(テント組立てに邪魔にならないよう)					藤代さん 宮崎香久さん オラトリオさん 井上
	コンテナ倉庫(オラトリオ)からベンチ×28本を、グラウンド中央の観客席に配置					
	※ブルー網掛けは倉庫に近いので手運び可					
	コンテナ倉庫(オラトリオ)	39台	B-1×8台 B-2×8台 C-2×4台 B-3×6台 B-4×2台 B-6×3台 B-5×4台 B-7×2台 B-8×2台			
	教会コンテナ倉庫	7台	C-1×3台 C-2×1台 C-3×1台 C-4×1台 C-5×1台			
	コミュニティ財団借用	10台	D-3×2台 D-4×1台 D-1×2台 D-2×2台 A-0×2台 サレジオゲームコーナー×1台			
	ドンボスコホール(体育館)	(10台)	予備机			
		合計	56台			
14:30~	教会倉庫からイス出し(予定数110脚) 各テント付近に配置 → ※各テントに設置の椅子の数はb.出店者リストの必要備品数「イス」の欄を参照					市位さん 今村知さん 木村哲さん 小林真さん 毛原さん
	机・椅子の雑巾がけ 紅白玉の汚れ落とし					
15:30~	標識付け	・白線引き ・トイレ	・パイロン×ゼブラポール ・駐輪場&駐輪禁止	・一方通行 ・徐行、駐車禁止		
	のぼりの設置					
18:40~16:00	休憩					
16:00~	テント立て					
	作業継続					
	A1会場案内図の設置					
	A4案内の設置 案内図前に小机上置き、聖堂後ろの机上					
	ストラックアウト、紅白玉入れの道具準備					
17:00~	状況確認と、当日早朝作業の確認					
17:15~	解散					
19:00~	ミサ					





3.9 チャリティバザー in 調布サレジオ (2024.10.27) 前日準備

- ▶ 前日は、曇りだったが、雨は降らず、予定どおり、テント貼り等の準備を進めることができた。





3.9 チャリティバザー in 調布サレジオ (2024.10.27) 当日準備

▶ 当日午前中は、前日に設置したテントに出店者の方々が来訪者のために準備した。



スタッフとボランティアの朝礼



男性信徒有志(生ビール、ソフトドリンク)



男性信徒有志(生ビール、ソフトドリンク)



▶ 132 チマッティ食堂・シュラスコ料理



バザー本部と救護所



バザー本部





3.9 チャリティバザー in 調布サレジオ (2024.10.27) 当日準備

▶ 本庄教会のマサシさん、都筑教会の竹内夫妻(ひさ子さん、シドさん)が本場のシラスコ料理を振る舞ってくれた！



シラスコ料理(ブラジルチーム)



マサシさん(本庄教会)



竹内夫妻(都筑教会)



シラスコ料理(ブラジルチーム)





3.9 チャリティバザー in 調布サレジオ (2024.10.27) 当日準備

▶ 当日午前中は、前日に設置したテントに出店者の方々が来訪者のために準備した。



サレジオニコオペラトリー(手作りお菓子、お菓子詰合)



英語ミサ・フィリピングループ(焼バナナ、焼き芋、マカロニスープ)



英語ミサ・フィリピングループ



DBVG(ドンボスコ饅頭、やわらか焼き、ポップコーン)





3.9 チャリティバザー in 調布サレジオ (2024.10.27) 当日準備

▶ 当日午前中は、前日に設置したテントに出店者の方々が来訪者のために準備した。



中高生会(クレープ、ミニドック、わらび餅)&青年会(わた飴)



神学院サレジオゲームコーナー
①スーパーボールすくい
②パーラーサレジオ
③射的



キックターゲット





3.9 チャリティバザー in 調布サレジオ (2024.10.27) 当日準備

- ▶ 当日午前中は、前日に設置したテントに出店者の方々が来訪者のために準備した。



調布市社会福祉協議会(ポツチャ)&調布フードバンク



コーロ・ステラ(古着、寄贈品、リサイクル品等)



イエスのカリタス友の会(古着、食器、手作り菓子、他)



カトリック調布教会





3.9 チャリティバザー in 調布サレジオ (2024.10.27) 当日準備

▶ 当日午前中は、前日に設置したテントに出店者の方々が来訪者のために準備した。



日曜ミニバザーグループ (古着、リサイクル品、手芸品、焼き菓子、ジャム、食品等)



アトリエ子供の森

▶ 137

ドン・ボスコ社(聖品・書籍等)

アトリエ子供の森
(子供達の手作りキャンドル等)



カトリック調布教会



3.9 チャリティバザー in 調布サレジオ (2024.10.27) みんなのミサ

- 聖歌隊の木村さんが、バザー委員として、ベトナム人のコミュニティの方々と英語ミサのコミュニティの方々と協議を重ねて、典礼委員の今田さんと連携し、下記の企画書(みんなのミサ(international mass))を纏められました。3つのコミュニティが集まったの合同ミサは、調布教会では初めてで、神様の豊かな恵みが、聖霊と共にあったことを参列者も感じたのではないかと思います。

みんなのミサ企画書(2024年10月27日 11:00)			20241019
聖歌番号等	言語	備考	
ミサの式文	日本語・ベトナム語	司式：山野内神父、ラップ春山神父	
入祭の歌	典172「わたしたちは神の民」	日本語	聖歌隊と合唱部、(指揮木村・伴奏竹下) (英語グループ担当以外は伴奏すべて竹下)
いつくしみの賛歌	英語F P61「キリエ」	ラテン語	英語グループと聖歌隊と合唱部(歌える人) (指揮・伴奏英語G)
栄光の賛歌	Kinh vinh danh	ベトナム語	ベトナム語グループ (指揮Srアンナ・伴奏竹下)
第1朗読	エレミヤ31・7-9	英語	応唱「神のみことば」⇒「Thanks be to God」
答唱詩編	典154①②③「涙のうちに種まく人は」	日本語	聖歌隊と合唱部 (指揮木村・伴奏竹下)
第2朗読	ヘブライ5・1-6	ベトナム語	応唱「神に感謝」⇒「Tạ ơn Chúa」「タ ウン チュア」
アレリヤ唱	典273 (30B)	日本語	聖歌隊と合唱部、アレリヤだけは全員で歌う。(指揮木村・伴奏竹下)
福音朗読	マルコ10・46-52	日本語・ベトナム語	日本語の後ベトナム語で。当日の聖書と典礼(日本語)とベトナム語と英語を別途配布。朗読後の応唱は一齐に各国言語で唱える。
説教		日本語・ベトナム語	アンヘル神父様日本語の後、ラップ神父様がベトナム語で
信仰宣言	使徒信条	日本語	他の言語は心の中で(一緒に)
共同祈願	①	日本語	各国の言語で唱え、応唱もその言語で唱える。意向は連絡。
	②	ベトナム語	各国の言語で唱え、応唱もその言語で唱える。意向は連絡。
	③	英語	各国の言語で唱え、応唱もその言語で唱える。意向は連絡。
	④	?	各国の言語で唱え、応唱もその言語で唱える。
	⑤	?	各国の言語で唱え、応唱もその言語で唱える。
	⑥	?	各国の言語で唱え、応唱もその言語で唱える。
奉納の歌	英語F P47「One Bread, One Body」	英語	英語Gと聖歌隊と合唱部 (指揮・伴奏英語G)
奉納者		日本の方	
奉納者		ベトナムの方	
奉納者		英語Gの方	
感謝の賛歌	典618	日本語	聖歌隊と合唱部 (指揮木村・伴奏竹下)
主の祈り		日本語・ベトナム語	日本語で唱えた後、ベトナム語で唱える。
平和の賛歌	典619	日本語	聖歌隊と合唱部 (指揮木村・伴奏竹下)
拝領の歌①曲	Tinh You Chua	ベトナム語	ベトナム語G。歌を聖体拝領より先に歌う。歌い終わってからラップ神父様から聖体拝領。(指揮Srアンナ・伴奏竹下)
拝領の歌②曲	典156「めぐみのパン」	日本語	聖体拝領の後、ベトナム語Gの後に歌う。終わりまで。(指揮木村・伴奏竹下)
閉祭の歌	カ 621 「あめのきさき」	日本語	1番(聖歌隊と合唱部) (指揮: 1番~3番まで指揮木村・伴奏竹下)
	英語F P39 IMMACULATE MARY (メロディは「あめのきさき」と同じ)	英語	2番(英語G、聖歌隊、合唱部) 歌は、IMMACULATE MARYの一番目の歌詞
	ベトナム語の「あめのきさき」	ベトナム語	3番(ベトナム語G) (ルルドの聖母の歌詞)

(配置コメント): 座席は、祭壇を前にして、一番左のブロックは進行係と聖歌隊、左から2番目のブロックの前列から1列~3列が英語グループ、4列~7列が合唱部、8列目~後ろ全部ベトナム語グループ。左から3番目のブロックの前半は子供グループ。一番右のブロック前半は敬老グループ。一般席のイスが50脚追加。英語グループが伴奏するときは、一番左のブロックの座席の前のスペースで、ギター、フルート、キーボードで伴奏。





3.9 チャリティバザー in 調布サレジオ (2024.10.27) みんなのミサ

- ▶ 3つのコミュニティ(日本人、ベトナム人、英語圏の方々(フィリピン人,イギリス人等)が一同に介してのミサが、ラップ神父様と山野内神父様との共同司式で行われた。



第1朗読(英語)
エレミヤ 31・7-9



答唱詩編(日本語)



第2朗読(ベトナム語)



3.9 チャリティバザー in 調布サレジオ (2024.10.27) みんなのミサ

- ▶ 3つのコミュニティ(日本人、ベトナム人、英語圏の方々(フィリピン人、イギリス人等)が一同に介してのミサが、ラップ神父様と山野内神父様との共同司式で行われた。



福音朗読(日本語/ベトナム語)
マルコ 10・46-52



説教(日本語/ベトナム語)



奉納



奉献



聖体拝領



聖体拝領



3.9 チャリティバザー in 調布サレジオ（2024.10.27） みんなのミサ

▶ 【山野内神父様のお話】

- ・イエス様がバルティマイを癒し、イエス様の弟子に繋がったように、イエス様はいろいろなものを繋げている。
- ・繋がっていると、ものの見方が変わってくる。
- ・神様は、この恵みを創ってくれている。居場所を与えている→“ここに居てもいいんだよ！”
- ・私たちは、何で繋がっているのか？（どのように内面で繋がっているのか？）
 - ・言葉だけで繋がっているのか？ →心で繋がっている。
 - ・心に本質があり、心が本物であれば、心の中で喜び、繋がることができる。
 - ・バザーでのダンス、食べ物、集まり→ひとつひとつが神様の与えた恵みです。
- ・今日、バザーを通して、心の中に落ちたイエス様を10,20,30年後に思い出すことでしょう。これが神様の恵みです。



聖体拝領



聖体拝領



みんなのミサ聖歌集



3.9 チャリティバザー in 調布サレジオ (2024.10.27) みんなのミサ

- ▶ 木村夫妻の取り纏めにより、各コミュニティ(日本、ベトナム、英語)が協力し、みんなのミサの聖歌集を作り上げた！

みんなのミサ聖歌集

Hymnal for International Mass

Thánh lễ đa ngôn ngữ cho mọi người

Cantos para la Misa Internacional



2024年10月27日(日)午前11:00

Sunday, October 27, 2024 at 11:00 am

カトリック調布教会
Catholic Chofu Church

みんなのミサ聖歌目次 Hymn List for International Mass (Sunday, October 27, 2024 at 11:00 am)

聖歌 Hymn	ページ Page	聖歌番号 Hymn Number	言語 language
入祭の歌 Entrance Hymn		典172「わたしたちは神の民」 Hymn book 172 「Watashitachiwa kaminotami」	日本語 Japanese
いつくしみの賛歌 Kyrie	1	English Hymn File P61「Kyrie」	ラテン語 Latin
栄光の賛歌 Gloria	2-3	「Kinh vinh danh」	ベトナム語 Vietnamese tiếng việt
答唱詩編 Responsory Psalm		典154①②③「涙のうちに種まく人は」 Hymn book 154①②③「Namidanouchini tanemakuhito wa」	日本語 Japanese
アレルヤ唱 Alleluia		典273 (30B) Hymn book 273 (30B)	日本語 Japanese
奉納の歌 Offertory Hymn	4	English Hymn file P47 「One Bread, One Body」	英語 English
感謝の賛歌 Sanctus		典618 Hymn book 618	日本語 Japanese
平和の賛歌 Agnus Dei		典619 Hymn book 619	日本語 Japanese
拝領の歌①曲 Communion Hymn ①	5-6	「Tinh Yeu Chua」	ベトナム語 Vietnamese tiếng việt
拝領の歌②曲 Communion Hymn ②		典156「めぐみのパン」 Hymn book 156 「Megumi no pan」	日本語 Japanese
閉祭の歌 Concluding Hymn	7	カ 621 「あめのきさき」 Catholic Hymn book 621 「Ame no kisaki」	日本語 Japanese
	7	English Hymn file P39 「IMMACULATE MARY」	英語 English
	7	「AVE MARIA CỦA LỘ ĐỨC」	ベトナム語 Vietnamese tiếng việt
	7	「LOS CIELOS, LA TIERRA」	スペイン語 Spanish español





3.9 チャリティバザー in 調布サレジオ (2024.10.27) みんなのミサ

- ▶ 木村夫妻の取り纏めにより、各コミュニティ(日本、ベトナム、英語)が協力し、みんなのミサの聖歌集を作り上げた！

いつくしみの讃歌 (Kyrie)

Taize:Kyrie#10,Jacques Bertier(1923-1994)

Ky - ri - e, Ky - ri - e, e - le - i - son. Ky - ri - e,
 Chri - ste, Chri - ste, e - le - i - son. Chri - ste,
 Ky - ri - e, Ky - ri - e, e - le - i - son. Ky - ri - e,

Ky - ri - e, e - le - i - son. (58)
 Chri - ste, e - le - i - son.
 Ky - ri - e, e - le - i - son.

3回BON 7r



3.9 チャリティバザー in 調布サレジオ (2024.10.27) みんなのミサ

- ▶ 木村夫妻の取り纏めにより、各コミュニティ(日本、ベトナム、英語)が協力し、みんなのミサの聖歌集を作り上げた！

栄光の讃歌(Gloria)

Kinh vinh danh

Chú tể: Vinh danh Thiên Chúa trên các tầng trời. Và bình an dưới thế.

A+B: gian xin thương xót chúng con. Chúa xóa tội trần gian xin nhậm lời chúng

con cầu khẩn Chúa ngự bên hữu Đức Chúa Cha xin thương xót chúng

con. Vì lay Chúa Giê - su Ki - tô chỉ có Chúa là Đấng Thánh

con cảm tạ Chúa vì vinh quang cao cả Chúa. Lay Chúa là Thiên

Chúa là Vua trên trời là Chúa Cha toàn năng. Lay Con

Một Thiên Chúa. Chúa Giê - su Ki - tô. Lay Chúa là Thiên Chúa là

Chiên Thiên Chúa là Con Đức Chúa Cha. Chúa xóa tội trần

gian xin thương xót chúng con. Chúa xóa tội trần gian xin nhậm lời chúng

con cầu khẩn Chúa ngự bên hữu Đức Chúa Cha xin thương xót chúng

con. Vì lay Chúa Giê - su Ki - tô chỉ có Chúa là Đấng Thánh

chỉ có Chúa là Chúa. Chỉ có Chúa là Đấng Tối Cao. Cùng Đức

Chúa Thánh Thần trong vinh quang Đức Chúa Cha. A - men!



3.9 チャリティバザー in 調布サレジオ (2024.10.27) みんなのミサ

▶ 木村夫妻の取り纏めにより、各コミュニティ(日本、ベトナム、英語)が協力し、みんなのミサの聖歌集を作り上げた！

奉納 (Offertory Hymn)

One Bread, One Body

Tranquil and slow

One bread, one body, one Lord of
all, one cup of blessing which we bless. And
we though many, through-out the earth,
we are one body in this one Lord. Lord. Lord.

Slightly faster

1. Gentle or Jew, servant or
2. Many the gifts, many the
free, wo-man or man, no more. One
works, one in the Lord of all. One

3. Grain for the fields,
scattered and grown,
gathered to one, for all.



みんなのミサ聖歌集



3.9 チャリティバザー in 調布サレジオ (2024.10.27) みんなのミサ

▶ 木村夫妻の取り纏めにより、各コミュニティ(日本、ベトナム、英語)が協力し、みんなのミサの聖歌集を作り上げた!

拝領1曲目
(Communion Hymn ①)

Ca Vang

Tình Yêu Chúa

Con anima *And.* *C* *Am⁷*

mp 1. Tình yêu Thiên Chúa như vầng dương soi tỏa khắp
 Chúa như dòng sông êm đềm lướt
 2. Tình yêu Thiên Chúa như mùa xuân tô đẹp ước
 Chúa không nhạt phai dấu đời đời
 3. Bàn tay Thiên Chúa đất đai con qua ngàn nắng
 lý nơi tình yêu trên tháp giá

And. *Dm* *B⁷* *C⁷*

nơi. Tình yêu Thiên Chúa *mf* là vì sao giữa đêm mù
 trời. Chảy xuôi năm tháng để hồn thơ tắm trong tình
 mơ. Tuổi thơ yêu dấu ngày và đêm khát khao tình
 thay. Nào ai có biết tình Ngài luôn sẵn son bền
 mùa. Hồn con vui sướng chìm ngập trong trái tim của
 xưa. Ngàn năm ghi dấu một Giê-su chết treo khổ

F *D⁷* *Gm⁷* *C⁷*

tối. *f* Tình yêu Thiên Chúa đau con vượt qua sóng
 mến. Tình yêu Thiên Chúa nồng say là hương gió
 Chúa. Ngài luôn đời bước đời con đỡ muốn phúc
 vừng. Là Chân, Thiên, Mỹ thăm sâu để con kiếm
 Chúa. Nhìn lên thánh giá đời cao Ngài đã hiến
 giá. Tình trời mở lối ngàn nơi mùa xuân thắm

Fmaj⁷ *D⁷#* | 1. *Gm* *E⁷*

đời nổi trời. Thuyền con giữa dòng đại dương bấp bênh Ngài
 trời dịu êm. Đưa đưa tháng ...
 ân tràn lan. Và luôn đỡ nâng ủi an những khi sầu
 tìm ngày đêm. Hồn con khát ...
 mình vì ai? Bởi yêu thể nhân làm than Chúa xuống trần
 máu, đẹp tươi. Trần gian ngóng ...

5

Am⁷ *A* | 2. *Gm* *A¹*

đi! Tình yêu Thiên ... ngày bình yên với bao êm
 vừng. Tình yêu Thiên ... vọng, cây trồng vừng tin nơi
 gian. Tìm về chân ... chờ ngày sau phúc vinh quê

Dm *D⁷* *C* *C⁷*

đêm. *mf* Ngài. *f* DK: Con ca ngợi ngàn đời tình Ngài kiên
 trời.

Fmaj⁷ *A¹*

vừng. *mp* Suối thiêng đạt dào ngọt ngào tình yêu mến

Dm *E⁷#* *D⁷* *Gm* *C⁷*

thương. *f* Tình Ngài ngàn năm như núi cao, sông dài, biển

F *F⁷maj⁷* *Gm* *A¹* *Dm*

khởi. *mf* Cao vời tình Cha con hát ca muôn đời chẳng ngơi.





3.9 チャリティバザー in 調布サレジオ (2024.10.27) みんなのミサ

- ▶ 木村夫妻の取り纏めにより、各コミュニティ(日本、ベトナム、英語)が協力し、みんなのミサの聖歌集を作り上げた！

閉祭 (Concluding Hymn)

あめのきさき

IMMACULATE MARY
 AVE MARIA CỦA LỘ ĐỨC
 LOS CIELOS, LA TIERRA

ウルド

J = 92

あ め の き さ き て ん の も ん
 Im - mac - u - late Ma - ry, your prais - es we - sing.
 Mẹ ời con kính chào mẹ đóa mai khôi diêm - lộ.
 Los cie - los, la tie - rra, la mis - ma Tri - ni - dad.

み の ほ し と か が や さ ま す
 reign now in heav - en with Je - sus, our - King.
 ời con hát mừng Mẹ khớc ca muôn thế - hệ.
 acla - man, Se - no - ra, tu glo - ria in - mor - tal.

ve, a - ve, a ve Ma ri a,

ve, a - ve, a ve - Ma - ri - a.



3.9 チャリティバザー in 調布サレジオ (2024.10.27) バザー開幕!

- ▶ 山野内神父様の祝福とテープカットにより、バザーが開幕した!





3.9 チャリティバザー in 調布サレジオ (2024.10.27) バザー開催中

▶ グラウンドでは、小雨の中での合唱スタートであったが、その後、晴れ、彼女達の歌声がグラウンドに響いた！



午前中の練習風景



11時のミサ後、開演



グラウンドでの第2部開演



小雨のち、晴れ



綱引き

3.9 チャリティバザー in 調布サレジオ (2024.10.27) バザー開催中

▶ 綱引きは、今年からの新種目。幼稚園生から小学生まで、真剣勝負で想像以上に盛り上がりました！



用意はいいかな？



ソーレ！ソーレ！



勝った！



それでは、位置について！



ソーレ！ソーレ！



2回戦開始！



玉入れ

3.9 チャリティバザー in 調布サレジオ (2024.10.27) バザー開催中

▶ 昨年同様、幼稚園生から小学生まで、真剣勝負で盛り上がりました！



用意はいいかな？



1, 2, 3, …



紅組の勝ち！



紅組は、少年野球の子が多くて有利？



1, 2, 3, …



終わったら景品を持って帰ってね！





3.9 チャリティバザー in 調布サレジオ (2024.10.27) バザー開催中

▶ 今回、初めて参加して頂き、大迫力の演奏に、観衆は魅了されました。



準備の為に下打合



大迫力の太鼓と笛



子ども達も大人達と一緒に凜々しい！



ステージに配置された太鼓達



威風堂々！



カッコいい！



3.9 チャリティバザー in 調布サレジオ (2024.10.27) バザー開催中

▶ 今回、初めて参加して頂き、美しい演技と心のこもった歌と踊りに、観衆の皆さんと一緒に盛り上がりました！



とにかく美しい！



舞う！



歌う！



合わせる！



揃う！



踊る！



3.9 チャリティバザー in 調布サレジオ (2024.10.27) 環境整備

▶ 前日に手洗い場を整備し、当日は、参加者にゴミの分別を促し、環境意識を高める活動を展開した。



手洗い場の設置・整備



消毒液等の設置



ゴミ処理場がひとめで分かる“のぼり”も設置 (リサイクルボックスの設置)



ゴミの分別処理を促すスタッフ





＋皆さんと共に神に感謝！



3.9 チャリティバザー in 調布サレジオ（2024.10.27）アンケートのまとめ

- ▶ 今回のバザー委員、ボランティア、出店者の方々から良かった点・継続したい点、課題点・改善点をアンケート形式で提出して頂き、下表のように纏め、次回以降のバザーの発展に向けて、バザー委員は解散となった。お疲れ様でした！

アンケートまとめ

良かった点・継続したいこと	課題点・改善したいこと
1. 「みんなのミサ」	1. 「みんなのミサ」を同日にするか否か
2. 今までに見たことないお客様、親子連れ 来場者や子供達に楽しんでもらった 売上増から見込める来場者数の増加	2. バザーの開始時間（意見多数） 3. 食券販売方式と行列
3. グランドでのパフォーマンス・アトラクション サレジアン国際学園合唱部 ベトナムオラトリオのパフォーマンスと撤収協力 和太鼓 内外に共通の感動 ミニ運動会 子供達の歓声、笑顔、元気	4. バザー告知のホームページ掲載なし、はなぜ？ 5. 飲食店舗の不足（中高生会メニューの即売切れ） EX：子供達が即食べられるランチ向きメニューの提供？
4. ボランティアの増加（今年も新たなメンバーが・・・）と継続意向 自発的な取り組み（女性陣が自発的に設営準備）	6. 食品販売店舗の配置場所考慮（日差しの影響） 7. 出店・出品ルールの徹底 EX：ハロウィンキャラ、開場前の事前販売
5. 環境ステーションの配置と効果 全出店者がテントでグランド内に十分な広さまで出店 事前準備への評価感謝（テント・机・椅子など）	8. 駐車場・駐輪場誘導係の配置と人数 9. 出店者や協力者が気軽に申し込める方法
	10. ドローンの無許可飛行は危険





3.10 調布教会の子供達のための七五三のお祝い (2024.11.10)

- ▶ 11月10日（日）9時30分のミサの終わりに、七五三を迎えたお子さん達に山野内神父様より祝福が与えられました。
- ▶ 来年、来日100周年を迎えるサレジオ修道会ですが、最初に日本に来られた宣教師、ヴィンチェンツォ・チマッティ神父様が作曲された「うちのこねこ」を皆で歌いました。子猫に扮した竹下修道士の何とも言えない動きと、猫のカチューシャを付けた山野内神父様の姿に、子ども達は大喜びでした。





3.10 調布教会の子供達のための七五三のお祝い (2024.11.10)

- ▶ おメダイとお菓子もいただき満面の笑顔で記念撮影を行いました。将来の教会を担う子ども達が、ご家族の愛情を受けて健やかに成長されますように祈りましょう。



お菓子と共に配られたカード
(日曜学校リーダ作)



3.11 信徒総会（宣教司牧）（2024.12.01）事前準備

▶ 牛山さんが、下記レジメを山野内神父様と教会委員と協議しながらドラフトアップした。準備よければすべてよし！

2024年12月1日
調布教会 信徒総会

2024年12月1日
調布教会 信徒総会

カトリック調布教会 2024年度秋の信徒総会

2024年12月1日(日) 13時～

於 教会聖堂

【次第】

↑ 始めの祈り

◇ 開会宣言

主任司祭より挨拶

セッション1の説明

セッション1 私たちの教会、信徒の活動について考えよう

① グループに分かれてディスカッション

② 全員で意見交換

③ 主任司祭・教会委員長より総括・今後の対応

セッション2 教会の取り組みについて報告

第二駐車場/共同墓所増設/教会 HP リニューアル/その他

◇ 閉会宣言

↑ 終りの祈り

セッション1: 私たちの教会、そして信徒の活動について考えよう(70分)

1. グループに分かれてディスカッション…(40分)

- どのような教会でありたいのか…
- どのような活動が現実的で、一年間を通して全員が奉仕できるのか…
- 「教会広報」教会から発信するメッセージが、どうすれば皆の耳と心に届くか…

メインテーマ：青少年司牧を中心とした調布教会、オラトリオの霊性をもって共に歩める人を育てる教会として、
どのように考え行動してゆくか？

サブテーマ	内容	場所	ファシリテータ
①(教会行事) 地域との関わり	調布教会の魅力向上施策、福音宣教活動 地域の若者・人々との接点創出、地域イベントへの参加、地域社会への貢献	聖堂	井上宇さん 橋本和子さん
②(青少年司牧) 他の世代との交流	ミサやイベントの企画 若者と他の世代との交流、世代間での学び合い	マリア会室	堤綾作さん 滝口茉莉子さん
③(典札奉仕) 奉仕の精神の育成	魅力あるミサの企画 奉仕の心を育むための活動、多様な価値観を持つ多国籍、若者とのミサ	チマツチホール	千葉比呂志さん 今田潔さん
④(財務、総務、営繕) 教会施設、環境の活用	教会施設の有効的活用 教会活動における施設利用と維持・運営	青年会室	木村 彰男さん 林智さん
⑤巡礼教会 ホスト教会の役割	信仰の進化、サレジオ教理の学び 巡礼教会として調布教会の役割は何か、ボランティアを通して得られるもの、なぜ奉仕参加するのか	聖堂	藤永悦子さん 高島晶子さん 今村知子さん

2. 全員で意見交換(聖堂)…(25分)

- 各グループの代表者が、話し合った内容の発表
- 全員でわかちあい

3. 主任司祭・教会委員長からの総括と今後の対応…(5分)

- 今回の議論のまとめと、今後の教会活動への展望 …… セッション1終了

セッション2: 教会の取り組みについて報告(聖堂)…(10分)

1. 第二駐車場新設について

- 新設の経緯 / 今後の利用方法 / 管理体制 / 献金について

2. 共同墓地の拡張について

- 拡張の目的 / 進捗状況

3. 教会ホームページのリニューアルについて

- リニューアルの目的 / 新しい機能の紹介 / 当面の進め方

4. 全体連絡



3.11 信徒総会（宣教司牧）（2024.12.01）当日本番

- ▶ 12月1日（日）午後1時より2024年度秋の信徒総会が行われ約80名が参加しました。この総会では、セッション1セッション2に分かれ、セッション1では事前にテーマとサブテーマのいくつかを提示して、各自が興味のあるグループに参加していただくよう準備しました。
- ▶ **メインテーマ**： 青少年司牧を中心とした調布教会、オラトリオの霊性をもって、共に歩める人を育てる教会として、どのように考え行動してゆくか？
- ▶ **サブテーマ**：
 - ①教会行事（地域との関わり）
 - ②青少年司牧（他の世代との交流）
 - ③典礼奉仕（奉仕の精神の育成）
 - ④財務・総務・営繕（教会施設環境の活用）
 - ⑤巡礼教会（ホスト教会の役割）
- ▶ **主任司祭より**： 来年の聖年、サレジオ百周年に向けて、この総会は1年の締めくくりとして良いタイミング。
 - ・互いに思いを表現し、意見を出すシノダ的な総会にしたい。
 - ・バチカンも同じように少人数→全体的話し合いを繰り返している（霊における会話の実践）。
 - ・神がなさりたいことに基づいてデザインし、プロジェクトとして実践しましょう。



▶ **アヴェマリアの祈りで開始**



3.11 信徒総会（宣教司牧）（2024.12.01） セッション1のまとめ

1. 行事

- ・外向き、内向き両方の掲示板・伝言板を活用してはどうか？
- ・行事係が食事係化している。コロナ後一気に行事の数を戻しているが、もう少し緩やかに増やしていったほうが良いのではないかな？
- ・食事を出す機会が増えているが衛生面を気をつけなければいけない。
- ・お葬式などを通して、地区のつながりが大事だと思った。
- ・聖劇ができると良い。



2. 青少年司牧

- ・縦横のつながり、つながりを増やすイベントが必要。6 教会スタンプラリーなど。
- ・日学、中高生会、青年会の手伝いは、部分的に奉仕できるようになっていると良い。
- ・オラトリオのことを理解できていない、知りたい、関わりたい。
- ・調布教会はオラトリオの霊性を全面に出せる良さがあるが、反面外からわかりにくい。
- ・調布教会の施設を活用して、子供が子供（友が友）を連れてくるようにできると良い。



3. 典礼

- ・手伝いをしてみたいが、よくわからない。
- ・各ミサでそれぞれに担当が別でも良い
- ・来年以降募集を開始したい
- ・会衆が歌うためにアナウンスを入れる
- ・聖堂掃除は手順が増えているが参加者は減っており協力者が必要。
- ・テーマごとに分かれる今回の総会方式は意見出しやすので、今後もやってほしい。





3.11 信徒総会（宣教司牧）（2024.12.01） セッション1のまとめ

4. 財務・総務・営繕

- ・駐車場が2つになり、管理をどうするか。駐車証発行、看板を立てる必要あり
- ・外の掃除、植栽整備を計画的にやるべき、また実施の際は情報の周知が必要。
- ・防災は地域の人のごことも考え、備蓄が必要。
- ・救護スペースを今後確保し、整備が必要
- ・外国籍、他教会の信徒など、献金ができるような対応が必要



5. 巡礼

- ・調布教会は13のうちの一つの教会として認定、12月21日が開幕
- ・巡礼は何をやっているのか、よくわからない
- ・聖年の事がよくわからない
- ・広報のあり方が問題
- ・免償、巡礼が何かを調布教会信徒がわかるように、また巡礼奉仕で何ができるか感じることができると、復活祭前の1-4月に4回予定を組んでいる。
- ・1月18日(土)が第一回目。
- ・個人・団体の対応、宿泊・食事なども配慮・準備する必要があり、別途連絡したい。





3.11 信徒総会（宣教司牧）（2024.12.01）セッション1のまとめ

主任司祭よりセッション1の総括：

- ・わたし、あなた、わたしたち、で、コミュニケーションができ、シノドス的な教会を感じる事ができたことを感謝する。
- ・広報に関しては一考が必要と思う。
- ・**聖年、全免償、オラトリオ**の説明。
 - ＜聖年＞ 喜び。かつては奴隷解放や借金の帳消しなどだった。50年毎が25年毎になった。
私たちは希望の巡礼者であり旅人。
 - ＜全免償＞ 罪と罰があり、罪は告解で許され、免償されるのは罰。例えば釘は抜くことができるが穴が残る。
これを埋めるのが免償。夫婦喧嘩で仲直りしても、喧嘩の時に投げた皿などを片付けなければいけない。
 - ＜オラトリオ＞ サレジオの霊性。イエスを受け入れ、信仰に基づく弟子として人間が成熟するための学びの場所、
良き関係を作る中庭。

委員長総括：

自分ファーストで考えない。わたし、あなたの違いを話して共有することが大事。





3.11 信徒総会（宣教司牧）（2024.12.01）セッション2のまとめ

セッション2：

1. 第二駐車場
2. 共同墓所
 - ・現墓所367基は完売。第二の区画が見つかり574万円で購入済み。現墓所より手前で道沿い。
 - ・現在は区画購入のみで、詳細はこれから検討。
3. ホームページ
 - ・今月から新ホームページ公開。巡礼の申し込み対応などできるようになる。

主任司祭締めくくり：

- ・病気の人、教会に来なくなった人のため、また葬儀にきちんと時間を設けたい。

お祈りにて終了。





3.12 馬小屋(プレゼビオ)作り (2024.12.01)

▶ 2024.12.1(日)に、山野内神父様の祝福を皮切りに、馬小屋作りが、**ベトナムの青年有志**によってスタートした。



神父様の祝福でスタート!



12/1の昼過ぎからスタートして、その日中にはほぼ完成、すごいパワーです!



12/2(月)の状態



完成状態



3.12 馬小屋(プレゼビオ)作り (2024.12.01)

- ▶ **ベトナムの青年達が、イエス様とマリア様/ヨゼフ様の聖家族を光として観ている**ことがよくわかる。この後、待降節、降誕節を通して、この馬小屋の前で、大勢の方々が温かい気持ちになったことは言うまでもない。ありがとう！






3.13 チャリティ クリスマスミニコンサート (2024.12.15)


- ▶ 12/15(日)の午後、コンチェルト・ディ・チマッティ(チマッティ・オーケストラ)と聖歌隊との合同のチャリティコンサートが教会聖堂で行われ、約100名程が集まり、豊かな時間を持った。

チャリティー♪ クリスマス ミニコンサート
2024年12月15日



★ お話と音楽

- * 「ポインセチアは まほうの花」
～メキシコのクリスマスのおはなし～
ジョアンヌ・オッペンハイム：作
おはなし：村田 真奈美
画像編集：山田 涼子
- * 見上げてごらん夜の星を 　　いずみ たく
- * 聖者の行進 　　　　　　　　アメリカ民謡
- * クリスマス・キャロル・メドレー
　　聖しこの夜～牧人ひつじを
演奏：アンサンブル☆ルーチェ
フルート：長嶋 栄乃
アイリッシュハープ&ヴァイオリン：
　　安倍 由美子
キーボード：三吉 美樹



★ カトリック調布教会 聖歌隊
指揮：徳部 義也

- * Christmas Lullaby 　　John Rutter
- * Adeste fideles 　　　　V. Novallo
- * 神に感謝せよ 　　　　C.F. Handel


★ コンチェルト・ディ・チマッティ

- * あめのみつかいの 　　聖歌
- * G線上のアリア 　　　　J.S.バッハ
- * ごらんよ空の鳥 　　　　新垣 壬敏
- * アヴェ・マリア (一緒に歌いましょう!)
　　　　　　　　　　　　　チマッティ神父

演奏：
オーボエ：福原 英博
フルート：樋口 貞三、長嶋 栄乃
ヴァイオリン：堀口 雅晃、堀口 まり、土田 冬二
　　　　　　　山本 恵子、安倍 由美子
ビオラ：岩崎 龍彦
チェロ：小林 恵美子

★チャリティー献金は、調布教会クリスマス献金に
寄贈させていただきます。

■ Special Thanks
司会：山下 恵
中岡 直美、今田 みゆき
藤代 真知子



チャリティー♪
クリスマス
ミニコンサート

2024年
12月15日(日)

♪ お話と音楽
～メキシコのクリスマスのお話～
「ポインセチアは まほうの花」
おはなし：村田真奈美
演奏：アンサンブル☆ルーチェ

11時のミサ終了後
(12:30頃)開演

会場：カトリック
調布教会聖堂
京王線調布駅北口より小田急バス
三層駅(乗る) 吉野寺駅(降り) 行
富士見町徒歩約 7分

♪ 合唱
クリスマスララバイ
主に感謝せよ 他
演奏：調布教会 聖歌隊

♪ コンチェルト・
ディ・チマッティ
G線上のアリア
あめのみつかいの 他

・チャリティー献金は、調布教会クリスマス献金
に寄贈させていただきます。
・献金スペースが限られておりますので、
先着のご参加はご遠慮ください。






3.13 チャリティ クリスマスミニコンサート (2024.12.15)



司会



お話と音楽



アンサンブル・ルーチェ



聖歌隊



コンチェルト・ディ・チマッティ



3.14 待降節 黙想会 (2024.12.21)

- ▶ クリスマスの準備のために調布教会信徒及び外国籍の信徒の方々を対象に、以下のスケジュールで黙想会が行われた。参加者は、約130名程度で、調布教会からの参加者は、約30名程度。
- ▶ 第2駐車場のオープン記念日ともなり、他教会の方々に、優先的に使って頂いた。
- ▶ **当日のスケジュール (実績)**
 - 1) 9:00-10:00 : 参加者受付@チマッティホール
 - 2) 10:00-10:30 : 霊的講話(山野内神父) + 聖歌
 - 3) 11:00-12:00 : ゆるしの秘跡(山野内神父、ラップ神父、武井神父)&黙想(各自)
告解室：聖堂告解室、聖堂香部屋、聖堂泣き部屋)
黙想場所(沈黙)：聖堂、ルルド、チマッティ神父様地下聖堂、チマッティ資料館等
 - 4) 12:00-12:45 : 昼食 (各自持参または、希望者へのお弁当(有料)の配布)
 - 5) 12:45-14:30 : 分かち合い (小グループ、全体@チマッティホール)
小グループの分かち合いの部屋 (9室)
チマッティホール1,2、小聖堂、ヨゼフ会室、マリア会室、教理室、高校生会室
中学生会室、青年会室
 - 6) 14:30-15:30 : 御ミサ
 - 7) 15:30 : ミサ終了後解散





3.14 待降節 黙想会 (2024.12.21) 靈的講話

- ▶ 山野内神父様から各自の黙想&ゆるしの秘跡に向けて、以下の靈的講話があった。
(黙想における沈黙とは、ただ黙っている状態ではない。沈黙とは、言葉(イエス)で一杯になっている状態 = イエスの現存と一体となっている状態 である)
- ▶ 主の降誕における羊飼い達の歩みに思いを巡らせ、3つのポイントについて黙想してみましょう。

① 光を恐れない

② ベツレヘムに戻る

③ そこにある命(イエス様)に触れる

▶ ① 光を恐れない

人間は、光の無いこと(暗闇)に慣れてしまっている。この光とは、真理の光(いつくしみとも言う)、無償のもの。この光に包まれていると生きていくこと。生きていくことが、恵みであると感じさせてくれる。羊飼い達は、驚いたが、この光を恐れなかった。

② ベツレヘムに戻る

羊飼い達は、宿屋(特別な所)に行かなかった。マリア様は、そういう特別な宿屋をイエス様に提供できなかったが、自分の心をイエス様に提供した。イエス様(神の子)が最初に休んだ飼葉桶は、特別な所では無く、日常生活の中にとり象徴である。

“ベツレヘムに行く = 日常生活に目を向けて、その意義を振り返る” (何のために私たちは生きていくか?)

③ 命(イエス様)に触れる

神に触れるとは、神のコンセプト(教え)に触れる事では無い。命に触れると“ぬくもり”を感じる。神が人となられたのは、苦しみに関して説明しにきたのでは無く、人と一緒に苦しみを共にするために来たのが神である。生きる神秘にあたって、こう生きたら良いとかを説明するために、イエス様は人となっていない。神自身が、人となって冒険をされた。この命に触れるということは、命のぬくもりを実感すること。
この命のぬくもりを実感する時は、“愛される時”“愛した時”である。この実感を体験した人達は、違う人生を歩み始める。

▶ 浜松教会の“そうし君”の話

500グラムの赤ちゃん(手のひらサイズ)が保育器の中に入れられ、管に繋がれていた。その子に洗礼を受けた時、数値が上がったのを母親が見て、母親は、“この子は大丈夫”と確信を持ったとのこと。今は、そうし君は元気な男の子になっている。この時、命(イエス様)に触れたのは、子どもだけで無く、母親も同じように触れ、光に包まれたと思う。命に触れるとは、こういうこと。





3.14 待降節 黙想会 (2024.12.21) 霊的講話

ゆるしの秘跡 (マルティナ枢機卿様のビジョン) について

① 神をたたえる (ありがとう！)

どういう恵みを頂いてきたのか？ 何を感謝すべきか？ を感謝しなければならない。
羊飼い達のように温まる、安心できる状態。

讚美告白 (Confessio Laudis)

頂いている恵みに感謝することです。
どういう恵みを頂いていますか？
神様の恵みより、神様に感謝しましょう

② 十分に応えていない (ごめんなさい…)

しかし、私は、十分に生きていない、応えていないものがある。
しかし、イエス様の光に包まれているなら、言えるようになるのでは無いでしょうか？

生活に至る告白 (Confessio Vitae)

私たちは愛されています。沢山の恵みを頂いています。
しかし、十分に応えていません。悔い改めたいです。
主よ、いつくしみを注いでください。

③ 私は信じます。(約束します)

私が変わることを信じていますか？ そして、周りも変わってくれると信じているのですか？
そういうことに確信を持つのでは無い。ではなくて、私が変わらなくても、神は、傍にいて下さる
ということを知る。これで、また、罪を犯しても良いということでは無い。
こういう確信を持っていれば、新しい課題とか問題とかが訪れても大丈夫だということ。私は、一人では無い。

信仰告白 (Confessio Fidei)

悔い改めて神さまの導きに生きていきたいです。
私は弱い人ですが、神さまの愛の力を信じています。
これからも、いつも共にいて助けてくださることを信じています。





3.14 待降節 黙想会 (2024.12.21) ゆるしの秘跡&分かち合い

- ▶ ゆるしの秘跡は、10時から始まり、スペイン語、ポルトガル語、日本語の3カ国語で、山野内神父様、ラップ神父様、武井神父様の3人で行われたが、全員が終わったのは、14時頃になった。約100人近くの方々が、ゆるしの秘跡に与ったのではないだろうか。
- ▶ ゆるしの秘跡が長引いたため、分かち合いに参加できなかった方もおられたが、各自が各々に必要なお恵みとメッセージを神様から頂いたのではないかと思います。
- ▶ 13時前から始まった小グループの分かち合いでは、初めてこのような分かち合いに参加された方、ゆるしの秘跡を分かち合って頂いた方、生きていくことの苦しさを分かち合って頂いた方、人との繋がりを大切にしたい心を打ち明けてくれた方など、様々なイエス様との出会いを分かち合い、お互いの命(イエス様)に触れ合った時間となった。
- ▶ 全体の分かち合いでは、9グループが全てチマッティホールに集まり、各々のグループの分かち合いのサマリーを聴いて、分かち合いを深めた。



赦しの秘跡を静かに待つ方々



全体の分かち合い



3.14 待降節 黙想会 (2024.12.21) 御ミサ



御ミサ前



第一朗読：雅歌2・8-14



答唱詩編：典4635詩編33・12+13、20+21



福音朗読：ルカ1・39-4





3.14 待降節 黙想会 (2024.12.21) 御ミサ (説教)

- ▶ ぶどうの香りが放たれている。ぶどうがぶどう酒になることは、幸せの象徴である。
- ▶ 第一朗読の雅歌では、恋しい人が愛している人に出会った時の状態が表現されている。これは、神様と私たち共同体のことである。しかし、そこには名前がない。
- ▶ 一方、福音書(ルカ)に目を留めると、そこには、声をかける人、その声で出て来る人がいる。表に出てくる顔は、マリアとエリザベトであるが、その裏に、マリアを動かしているのは、イエスである。イエスが恋しい人である。愛されている人(恋人)は、エリザベトであるが、そこに教会というものがある。すなわち、それは、私たちひとりひとりということ。そうすると、あの場所(山を越えての3日間の旅路)が“アイカレント”になっている。これは、ぶどう園の泉ということ。水が湧き出て、そこにある“ぶどう(命)”が育って、そこが実って、ぶどうになって、そして、ぶどう酒になって、ぶどう酒が幸せをもたらしてくれる。
- ▶ **“アイカレント(エンカレント)”**という言葉。この場所(調布)がアイカレントですか？ それとも、このような状態(水が湧き出るようになった自分)がアイカレントですか？ **アイカレントとは、自分の中にある命(泉)が湧き出て、それが自分を育てて、それが幸せになっていくというプロセス**がアイカレントではないでしょうか？
- ▶ 今日、調布教会の外から来られた方(マリア)は、何を持って来られましたか？ それは、イエス様でしたね。一方、調布教会の方(エリザベト)は、外から来られる方と会って、皆さんの内面は、喜び踊っていますか？ 今日分かち合いで、そのような確認ができたのではないですか？分かち合いのまとめとして、**私→あなた→私たちで、命がどんどん湧き出てくると、私たちになっていく**ということを実感すること。
- ▶ 今日、どういふ喜びを感じたのですか？ 喜び踊るといふことは、軽くなるということ。**私たちが出会い、その内面の命が出会うと、こういう“アイカレント”という状態になる。すなわち、神様が登場する。そして、その恵みが教会共同体に拡がっていくことになる。**
- ▶ 今日、皆さんは、ここに来て、心が神様の心に染まって帰っていくと思いますが、各々の教会共同体に戻った時に、こういう命の喜びを皆さんのところに届けて下さい。そうすれば、今日の喜びが、また、他の人の喜びになって、今年のクリスマスは、違うクリスマスをお祝いすることになると思います。





3.14 待降節 黙想会 (2024.12.21) 御ミサ





3.14 待降節 黙想会 (2024.12.21) 御ミサ後の集合写真





3.15 子どもクリスマス会 (2024.12.22)

- ▶ 教会聖堂で、14時30分から、教会の子ども達をはじめ、星美幼稚園の園児、晃華学園小学校シャミナード会の児童、隣のマンション(アトラス)のお子さんがいらっしゃるご家庭をお招きして行われた。
- ▶ 初めて、教会聖堂へ入られる方も多くおられ、お一人おひとりの心の中で、イエス様の降誕を通して、神様との出会いを感じた喜びに満ちた時間になったのではないかと思います。
- ▶ 堤神学生を中心に企画・立案が行われ、竹下修道士、日曜学校・中高生のリーダーが子ども達をリードして纏め上げた。

2024年度子どもクリスマス会

2024.11.27

堤峻作

日時 : 2024年12月22日(日)14:30-15:30 (14:15 受付開始)

参加対象 : アトラス調布、晃華学園小学校シャミナード会、星美幼稚園、調布教会信徒

※場所の制限などから今回はマルガリタ幼稚園とマリアの園幼稚園の声掛けはしない

※聖堂の座席数の関係で外部だけで220人を越えたら申し込みを締め切る(ポスターで通知)

場所 : 調布教会聖堂

スケジュール :

14:15 受付開始

14:30 歌の練習・クリスマスの劇・お祈り・お楽しみ企画・クリスマスソング

15:30 おわりの話・解散

※大人数の参加があった場合、チマッティホールに入りきれず、DBホールもオラトリオが使うため、パーティー実施の場所を確保できないことからパーティーはなし

内容 :

- ・クリスマスソングの練習 (10分間)
- ・日曜学校・中高生会による聖劇 (20分間)
- ・クリスマスソング、お祈り(10分間)
- ・お楽しみ会(くじ、博士とラクダのプレゼント?) (20分間)
- ・神父様のお話、解散 (10分間)

聖劇 :

- ・絵本『はじめてのクリスマス』をスライドに映して読む
- ・「受胎告知」「馬小屋でお生まれになる場面」などの重要な場面は劇で行う
- ・劇の役者はセリフなし(言えそうな子は一言)、セリフはナレーションで別の人が行う
<配役:マリア様、ヨセフ様、天使、三人の博士など>
- ・役者は日曜学校の希望者を募る(中高生会の子たちもナレーター役に参加)

お楽しみ会 :

- ・参加人数が多く、聖堂で行うことを考慮し、簡単なくじのみを行う
- ・景品は大体参加者全体の2割程度
- ・くじの番号は受付で配布する
- ・くじの後、簡単な演出(らくだ?)で全員にプレゼントを渡す
- ・プレゼントは小さなお菓子セットに中高生会作成のクリスマスカード

その他 :

- 申込み形式: google フォーム (ポスター掲示) 申し込み締切 : 12月10日
- ・クリスマスソング: 1曲か2曲? 子どもたちが知っているクリスマスソングも加える?
伴奏は上村祐子さんに依頼
- ・駐車場・駐輪場の誘導係、受付係、聖堂内の案内係を担当者とは別にお問い合わせが必要がある



3.15 子どもクリスマス会 (2024.12.22)



お楽しみ会 (くじ引きによるプレゼント)



本物のサンタ登場に会場は大盛り上がり(騒然)！

あめのみつかいを最後に合唱



3.15 子どもクリスマス会 (2024.12.22)



本物のサンタが子ども達にプレゼントを配る



サンタとの記念撮影に行列ができた！



サンタとの記念撮影（楽しい思い出作り）馬小屋大活躍！



カトリック調布教会



3.15 子どもクリスマス会 (2024.12.22)



サンタは、実は、山野内神父様の姪っ子(お母様の孫娘)のご主人
お二人は、たまたま、結婚式のため、アルゼンチンから来日していた。



3.16 主の降誕(クリスマス)(2024.12.24) 16時御ミサの聖劇/事前準備(11/13)

- ▶ 11/13(水)に、行事委員と聖歌隊を中心としたスタッフ(橋本夫妻,木村(恵)さん,吉川さん,上村さん,井上,山野内神父様)の第1回目の打合が行われ、以下のコンセプトでクリスマスのための聖劇を行うことになった。
 - 1) 調布教会という器に生まれる命(イエス様)を御ミサの参加者に体験してもらう
(イエス様は通常の宿屋では生まれなかった。違う器(飼い葉桶)で、違う命(神の子)が生まれた)
 - 2) 羊飼い達(世の中では枠外の人達の象徴)は、光に包まれて、主の降誕が告げられ、告げられただけではなく、告げる人になっていった。
 - 3) 主の降誕は、天と地が繋がるイベント(天には栄光、地には平和→シャローム！)
 - 4) 命(イエス様)を実感しやすいイベントにする(御ミサの参加者が温かい気持ちを実感する)
 - 光(聖年の4色の光にする) →幼子と同時に4つの光(羊飼い)が入場し、光を感じてもらう。
 - サレジオ会来日100周年を祝って、チマッティ神父様が登場する→子猫を歌って、踊って、平和を再現
 - 3人の博士が登場して、プレゼントを子ども達に配り、神様からの贈り物を実感してもらう。
- ▶ 役割分担は、以下のとおりとなった。
 - 1) 総監督 : 山野内神父
 - 2) 監督 : 橋本和子
 - 3) 台本・ナレーター : 上村祐子
 - 4) 音楽 : 橋本信、吉川真美、木村恵美子、上村幸一郎
 - 5) 衣装 : 丸山和美、梅村百合子、石垣陽子
 - 6) マリア様 : 原めぐみ
 - 7) ヨゼフ様 : 高橋大樹
 - 8) 羊飼い : 上村希、上村豊、佐々木花乃、木戸遙
 - 9) チマッティ神父様 : 橋本信
 - 10) ラクダ使い : 牛山憲一
 - 11) ラクダ : 上村翼、池田麦人
 - 12) 3人の博士 : 木村哲(日本人)、ニンファ(スリランカ人)、セルビオ(アルゼンチン人)
 - 13) 星 : 高田恵也
 - 14) 子猫 : 竹下修道士
 - 15) 雑用・記録 : 井上学



3.16 主の降誕(クリスマス)(2024.12.24) 16時御ミサの聖劇/事前準備(12/15)



博士への衣装合わせ



博士の笑顔！



凜々しい立ち姿



角笛の練習



羊飼いへの衣装合わせ



3.16 主の降誕(クリスマス)(2024.12.24) 16時御ミサの聖劇/事前準備(12/15)



監督による演技指導！



リハーサル前の打合せ風景



ラクダへの変身前



監督による演技指導！



マリア様とヨゼフ様



ラクダへの変身後



3.16 主の降誕(クリスマス)(2024.12.24) 16時御ミサの聖劇/事前準備(12/15)



ヨゼフ様への衣装合わせ



博士への衣装合わせ



チマツティ神父様のピース



ヨゼフ様への衣装合わせ



羊飼い達



リハーサル中



3.16 主の降誕(クリスマス)(2024.12.24) 16時御ミサの聖劇/事前準備(12/15)



入場のリハーサル

ラクダとヨゼフ様



ナレータの練習

リハーサル中





3.16 主の降誕(クリスマス)(2024.12.24) 16時御ミサの聖劇/事前準備(12/15)



リハーサルが終わって、ほっと一息、お疲れ様でした！





3.15 主の降誕(クリスマス)(2024.12.24) 16時御ミサの聖劇/当日準備(12/24)



ゴージャスな髭の博士



星の衣装合わせ



チマッティ神父様



チマッティ神父様



星



3.15 主の降誕(クリスマス)(2024.12.24) 16時御ミサの聖劇/当日準備(12/24)



博士の衣装合わせ (セルヒオさんが高い!)

ラクダの休憩



ラクダの衣装合わせ



3.16 主の降誕(クリスマス)(2024.12.24) 16時御ミサの聖劇/当日準備(12/24)



羊飼いの衣装合わせ (丸山さんと上村兄・妹)



各パートの入場練習





3.16 主の降誕(クリスマス)(2024.12.24) 16時御ミサの聖劇/当日リハ(12/24)



チマツティ神父様と子猫への演技指導



ラクダの入場練習



オープニング練習



奉納のリハーサル



オープニングの摺り合わせ





3.16 主の降誕(クリスマス)(2024.12.24) 当日ミサ@16時



御ミサ開始前のアナウンス



司祭入場



入祭の歌



マリア様・ヨゼフ様・イエス様・羊飼い入場



3.16 主の降誕(クリスマス)(2024.12.24) 当日ミサ@16時



蠟燭に入灯



第1朗読：イザヤ9/1-3,5-6



答唱詩編：詩編96/1+2,11+12



第2朗読：テトス2・11-14



福音朗読：ルカ2・1-14



説教：次ページによる



3.16 主の降誕(クリスマス)(2024.12.24) 当日ミサ@16時 説教

▶ 下記の絵をスライドに上映しながら、次の語りが朗読され、降誕の意味を会衆伝えた。

なぜ降誕祭があるの？
答えを見つけれたらいいな…
Memento Menapace

神を信じない男がいた。宗教やその祝いについても偏見を持っており、クリスマスについても同じであった。彼の妻は夫の嫌なコメントにも拘わらず、熱心な信者であった。

あるクリスマスの夜、雪が降り続ける中、妻は子どもたちと近くの田舎の教会のミサに出かける準備をしていた。夫と一緒にいこうと誘ったが、彼は断った。

「とんでもないことだ！」「神が人間になって地上にくだるとは…どうしても理解できない」「ばかっている！」



妻は子どもたちと出かけ、彼一人が家に残った。しばらくすると吹雪は強くなり、家を震わせるような音が「ガタガタ」とした。窓から見る外は雪で真っ白であった。暖炉の前に座ると暖かく、彼は気持ちよくくつろいでいた。

すると…「ガタン!」という音が響いた。何か窓にぶつかった。続けざまに音は聞こえたが、外を見ても雪のため何も見えなかった。雪が静まると彼

は外に出て、何が窓にぶつかったのか見に行った。



近くの畑に野生のガチョウの群れがいるのに気づいた。この群れは南の暖かい所で冬を過ごすのに旅立ったが、吹雪のため、しかたなく進路を変え、迷いながらこの畑にたどり着いた。食べる物も避難する場所もなく…バタバタと低く輪になって飛び続けた。農夫はこのガチョウが窓にぶつかったのだと思った。

かわいそうに思った農夫は何かしてガチョウを助けようと考えた。農夫は納屋で寒さをしのげるのではないかと思い、すぐに納屋行き、納屋の戸を開けた。そうしてしばらく待ったが、ガチョウたちは一羽も入ってこなかった。ガチョウたちは飛び続け、納屋があることに気づけなかった。男は手ぶりでガチョウたちを呼び集めようとしたが、驚かすばかりでもっと速くに追い払うことになってしまった。

農夫は家に戻り、パンを見つけて出てきた。パンをちぎって、雪の上に納屋に向かってパンくずをまき始めた。しかし、ガチョウたちはパンくずには

目も向けず、納屋に入る入口があることを理解しなかった。



男はがっかりし気を落としながら、納屋の方へガチョウたちを追い立てようと手を振った。しかし、追い立てれば追い立てるほどガチョウたちは納屋から遠くに逃げていき、一羽も納屋に入れることができなかった。

「どうしてついでこないのだろうか？」「この吹雪を避けるには、この場所しかないことがわからないのだろうか？」

しばらく考えて、農夫はふと気づいた。「鳥は人間には着いて来ない」と。「私がガチョウになれば、彼らを救うことができるのだ」と。

そして、一つのアイデアが浮かんだ。納屋に入り、飼っていたガチョウを捕まえ、野生のガチョウの群れのところに連れて行った。ガチョウの群れの中に放つと、飼っていたガチョウは飛び出し納屋に戻った。すると他のガチョウも一羽、二羽と次々に納屋に入り、ガチョウの群れは助かった。

農夫は無言のまま立ち止まり、少し前に口にした言葉が頭の中で響き続

けるのに気づいた。「もし私が、彼らと同じものであれば救うことができるのに」と。また、妻に言った言葉についても考え直した。「なぜ、神は私たちのように人間になられたのか。とんでもないことだ！」と。

突然、全てに意味があるように思えた。まさしく神様がなさったことだ。私たちはあのガチョウたちのような者だ。目が見えず、迷子になり、死にかかっていた。神様が私たちと同じになり、道を示し、救ってくださったのだ。農夫は、これがクリスマスの意味と理解した。

風も雪も止んだ。彼は心穏やかに素晴らしい気づきを味わっていた。降誕祭の意味を悟り、なぜイエス様がこの世にいられたのか。一時的な嵐と共に何年間の疑問も吹き飛んでいった。農夫は雪の上にひざまずき、初めて心からの祈りを捧げた。「主よ、人間になられ、私たちを嵐から助け出してくださいありがとうございます！」



カトリック調布教会
降誕祭 2024年 12月 25日
絵 井上 元子



カトリック調布教会



3.16 主の降誕(クリスマス)(2024.12.24) 当日ミサ@16時



奉納行列



感謝の典礼



聖体拝領



3.16 主の降誕(クリスマス)(2024.12.24) 当日ミサ@16時



聖体拝領



聖体拝領

閉祭



3.16 主の降誕(クリスマス)(2024.12.24)

当日ミサ@16時 聖劇本番



チマッティ神父様の入場と挨拶(インタビュー)



3人の博士が星の導きで入場

ラクダ使いとラクダが踊って入場





3.16 主の降誕(クリスマス)(2024.12.24) 当日ミサ@16時 聖劇本番



3人の博士が星の導きで入場し、イエス様に黄金・没薬・乳香を献上



3人の博士が星の導きで入場し、イエス様に黄金・没薬・乳香を献上

子猫を呼ぶナレーター



3.16 主の降誕(クリスマス)(2024.12.24) 当日ミサ@16時 聖劇本番



チマッティ神父様が作曲した“こねこ”に合わせて、皆さんでダンス！



3人の博士の自己紹介とインタビュー

3人の博士によるプレゼントの配布





3.16 主の降誕(クリスマス)(2024.12.24) 当日ミサ@16時 聖劇本番



3人の博士によるプレゼントの配布



侍者・羊飼い・ラクダ・ラクダ使い



派遣の祝福!



山野内ファミリー!





3.16 主の降誕(クリスマス)(2024.12.24) 当日ミサ@16時 聖劇本番





3.16 主の降誕(クリスマス)(2024.12.24) 当日ミサ@21時/みんなのミサ

- ▶ 調布教会で初めてベトナム語ベースの英語、日本語の3カ国語の“みんなのミサ”が行われ、温かい雰囲気にも包まれた。





3.16 主の降誕(クリスマス)(2024.12.24) 当日ミサ@21時/みんなのミサ

クリスマスの9時の国際ミサ(案) (2024年12月24日, 9:00PM)

20241217

Hymn Number	Language	Notes	Conductor	Accompanist
入祭	「ĐÊM THÀNH VÔ CÔNG」 「しずけき」 「Silent night」	歌詞1番: ベトナム語 (転調あり) 歌詞2番 (原曲歌詞1番): 日本語, 歌詞3番 (原曲歌詞1番): 英語	ベトナム語 グループ, 英語 グループ, 日本語 グループ	1番: ベトナム語Gオルガニスト 2番3番: 日本語Gオルガニスト
いつくしみ	英語 聖歌集 P61 「Kyrie」	ラテン語	全員で	日本語指揮者
栄光の賛歌	Kính vinh danh	ベトナム語	ベトナム語 グループ	ベトナム語G指揮者
第1朗読	イザヤの預言	ベトナム語		ベトナム語Gオルガニスト
聖唱詩編	TVBB - CON SẼ CA NGÔI	ベトナム語	ベトナム語 グループ	ベトナム語G指揮者
第2朗読	マテオへの手紙	日本語		ベトナム語Gオルガニスト
アレルヤ	ALLELUIA	ベトナム語	ベトナム語 グループ (アレルヤを歌えたら全員で歌う)	ベトナム語G指揮者
福音書	ルカによる福音			
説教				
信仰宣言	使徒信条	ベトナム語	各自の言葉で心で祈る	
共同祈禱	①	ベトナム語	他の言語グループは心で祈る 応唱ベトナム語	
	②	日本語	他の言語グループは心で祈る 応唱日本語 (生半私たちの祈りをききわけてください)	
	③	英語	他の言語グループは心で祈る 応唱英語 (Lord, hear us.)	
	④	ベトナム語	他の言語グループは心で祈る 応唱ベトナム語	
奉納	「まきびと」 「The First Noel」	歌詞1番 (原曲歌詞1番): 日本語, 歌詞2番 (原曲歌詞1番): 英語	英語 グループ, 日本語 グループ	日本語G指揮者
奉納者	奉納者2名	日本語 グループ	献金	
	奉納者1名	ベトナム語 グループ	葡萄酒	
	奉納者1名	ベトナム語 グループ	ホスチア	
感謝	典礼聖歌集 613(B)	日本語	日本語 グループ	日本語G指揮者
主の祈り		ベトナム語その後日本語	各自自分の言葉で祈る	日本語Gオルガニスト, 他
平和の賛歌	Korduro ng Diyos	タガログ語	英語語グループ, 日本語 グループ	日本語G指揮者
拝領 ①	ĐÊM NOEL	ベトナム語	ベトナム語 グループ 拝領の前に歌い、その後拝領	ベトナム語G指揮者
拝領 ②	「きたれ友よ」 「O Come All Ye Faithful」	歌詞1番 (原曲歌詞1番): 日本語, 歌詞2番 (原曲歌詞1番): 英語	日本語 グループ, 英語 グループ, 拝領の後に歌う	日本語G指揮者
閉祭	「諸人こぞりて」 「Joy to the world」 「O mag sa ya」 「At munda gas」	歌詞1番 (原曲歌詞1番): 日本語, 歌詞2番 (原曲歌詞1番): 英語, 歌詞3番 (原曲歌詞1番): タガログ語, 歌詞4番 (原曲歌詞1番): スペイン語	日本語 グループ, 英語 グループ	日本語G指揮者



3.16 主の降誕(クリスマス)(2024.12.24) 当日ミサ@21時/みんなのミサ

▶ ラップ神父様は、説教の中で以下のことを話された。

- 1) 神様は、クリスマスの日に、イエス様という最高のプレゼントを私たちにお与えになった。
- 2) 私たちは、そのイエス様と共に自分のできる最高のプレゼント(7つ)を周りの人たちに与えることができる。それは、次の7つのプレゼントです。どれか一つでも良いです。与えましょう！

①聴くこと ②微笑むこと ③ゆるすこと ④感謝すること ⑤褒めること ⑥祈ること ⑦信頼すること



入祭



第1朗読と答唱詩編



福音朗読と説教



3.16 主の降誕(クリスマス)(2024.12.24) 当日ミサ@21時/みんなのミサ

- ▶ ミサ後、ベトナムの青年達が作った馬小屋(プレゼビオ)の前で、記念撮影。Merry Christmas !





3.16 主の降誕(クリスマス)(2024.12.24) 受付・喫茶での語らい

▶ ミサ後に、チマッティホールで、喫茶室を開き、多くの方々の語らいの場所となった。



初めて教会に来られる方へのおもてなし



喫茶室の準備と奉仕に感謝！



喫茶室でのひとときの語らい



喫茶室でのゴミの分別処理に感謝！



3.17 調布教会が巡礼教会としてスタート(2024.12.31) 聖年開幕ミサ

- ▶ 聖ペテロ大聖堂の「聖なる扉」開門が2024年12月24日に行われ、2025年の聖年が始まった。この開門を受けて、日本の東京教区では、東京カテドラル聖マリア大聖堂(関口教会)で、2024年12月29日に聖年開幕特別ミサが行われ、それを受けて、調布教会では、2024年12月31日に、聖年開幕ミサを開き、聖年の開幕を宣言した。



入祭



聖体拝領



3.17 調布教会が巡礼教会としてスタート(2024.12.31) 聖年開幕ミサ





3.17 調布教会が巡礼教会としてスタート(2024.12.31) 聖なる扉作り

- この日のために、藤代氏が12月初旬からコツコツと聖なる扉を製作し、完成させた。また、聖なる扉の上部に付けてある巡礼のロゴマークの刺繍は、手芸の会の方々が一针一针心を込めて手作りで仕上げられたものである。



扉の枠組製作



藤代夫妻とコンプリ神父様



山野内神父様



希望の巡礼者のロゴマークの刺繍



カトリック調布教会



3.18 サレジオ神学院静修のためのミニ巡礼(2025.1.11) **初めてのグループ巡礼者の受入れ**

- ▶ 1月11日 午後13時15分～ 神学院聖堂前に集合。巡礼者17名 奉仕者6名
- ▶ 山野内神父様から皆さんに東京教区の巡礼手帳、調布教会ジュビリーの栞(しおり)が渡された。
- ▶ 進行役 藤永悦子実行委員長が来られないので、代わりに**高島担当**
- ▶ **巡礼コースの説明**
 - 1) **チマッティ資料館**
 - ① ステンドグラスの説明・・・ドン・ボスコの霊性を受け継ぐ (チマッティ神父様が3歳の時にドン・ボスコと会った時から)
 - ② 日本人の司祭養成への熱意と戦死によって失う失意の歌・・・刈り入れ
 - ③ 音楽による宣教・・・デンデンムシ、子猫
 - 2) **チマッティ地下聖堂**
 - ・9名の奉仕者が、何故この奉仕を希望したかを分かち合ってくれたことを紹介。
 - ・チマッティ神父様の霊性に触れる。
 - ・チマッティ神父に祈る事をポイントに黙想の流れを組み立てたことを説明。
 - ・朗読・・・不思議な出来事・・・尊者チマッティ神父の列福を願う祈りを唱え、アベマリアを歌って終了。
 - 3) **調布教会**
 - ・聖年巡礼の準備の為に実施した9月のミニ巡礼の様子を説明
 - 午後からグループに分かれて霊的分かち合いをしたこと。その分かち合いで印象に残ったことばを紹介。
 - ・栞(しおり)の後ろにある巡礼のまとめ。感謝、願い、約束の説明 (山野内神父様より)
 - ・皆で聖年の賛歌・希望の巡礼者を歌う。
- ▶ 開かれた扉の前で、記念撮影。 2時15分終了。



3.18 サレジオ神学院静修のためのミニ巡礼(2025.1.11) 初めてのグループ巡礼者の受入れ





3.19 成人の祝福 (2025.1.12)

▶ * * *




3.20 第1回 調布教会共同体を主な対象者とするミニ巡礼(2025.1.18)

▶ * * *



4. 巡礼時に参加者へ配布されるパンフレット(1/2)


ヴィンチェンツォ・チマッティ SDB
(1879-1965) Vincenzo Cimatti



イタリアのファエンツァに生まれ、1926年、青少年の養成に力を注ぐサレジオ修道士の宣教師として来日。音楽と折り、教会、学校、孤児院の設立に献身し、日本の福音宣教のために全力を尽くし、1965年帰天。教会は1991年、彼を「尊者」と宣言。これは師が「信仰、希望、慈愛」の美德を英雄的に生きたことを認めるものである。神学院地下聖堂にはチマッティ神父のご遺体が安置されている

尊者チマッティ神父の祝福・列聖を求める祈り

心の柔和、謙遜なイエスよ、
あなたは忠実に神に仕えた
チマッティ神父を通して、
御父の私たちに対する愛を示して下さい。
私たちが師の模範にならぬ、
聖なる喜びに生き、日々の務めを誠実に果たし、
祈りと愛による相互の一致、
また、あなたとの一致に
助むことが出来ますように。
(沈黙のうちに必要な恵みを願う)
あなたの母であり、私たちの助け、
導き手である聖母マリアの取り次ぎによって、
チマッティ神父の列福を
早めてください。
アーメン。



全免償

免償とは、「ゆるしの秘跡」を受けて、すでに赦された罪に伴う、有限の罰の免除をいう。
免償を得るために

1. ゆるしの秘跡を受ける
2. ミサにあずかり聖体を拝領する
3. 教皇の意向のために祈る

主の折り
アベ・マリア
栄品
信仰宣言

真の回心のしるしとして「聖年の扉」をくぐる

感謝

願い

約束

調布教会
巡礼教会スタンプ

聖年（ヨベルの年、ジュビリー、喜び）
"Spes non confundit",
「希望は欺くことはありません」
(ローマ 5:5)



カトリック調布教会 青少年巡礼教会

「ジュビリー」という用語には二つの語源がある。一つは特別な年を告げるために使用される羊の角笛を指す「ヨベル」（ヘブライ語）。もう一つは羊飼いの喜びの叫びである「ジュビルム」（ラテン語）である。

ユダヤ人の聖年、その背景はレビ記 25 章であり、土地の安息・負債の免除・奴隷の解放が 50 年ごとに巡ってくるヘブライ人の安息年を指す。

カトリックのジュビリー、これは 50 年ごとに祝われてきたが、1475 年、教皇パウロ 2 世により、全世代が全免償の恵みを受けられるように 25 年ごとに祝うことを定めた。

フランシスコ教皇は「希望は欺かない」という勅書の中で 2025 年を聖年と定め、「希望の巡礼者」をテーマに祝うよう招かれている。希望は十字架のイエス、刺し貫かれたイエスのみ心から溢れ出る愛により生まれ、それが根源となる。

調布教会は東京教区により、巡礼教会（特に青少年のため）として認定された。



4. 巡礼時に参加者へ配布されるパンフレット(2/2)

サレジオ神学院聖堂

入口に安藤真樹作の「枝部神父と187人の殉教者」の絵画(レプリカ)が飾られている。



聖堂正面には池田宗弘作「ブロンズの十字架のイエス像」がある。朗読台と祭壇にキリスト信者の生き方の基本である「信・望・愛」が珍しい字体で刻まれている。

1コリント 1:18-25

十字架の言葉は、滅んでいく者にとっては愚かなものですが、わたしたち救われる者には神の力です。それは、こう書いてあるからです。「わたしは知恵ある者の知恵を滅ぼし、賢い者の賢さを意味のないものにします。」知恵のある人はどこにいる。学者はどこにいる。この世の論客はどこにいる。神は世の知恵を愚かなものにされたのではないか。世は自分の知恵で神を知ることができませんでした。それは神の知恵にかなっています。そこで神は、宣教という愚かな手段によって信じる者を救おうと、お考えになったのです。ユダヤ人はしるしを求め、ギリシア人は知恵を探しますが、わたしたちは、十字架につけられたキリストを宣べ伝えています。すなわち、ユダヤ人にはつまずかせるもの、異邦人には愚かなものですが、ユダヤ人であろうがギリシア人であろうが、召された者には、神の力、神の知恵であるキリストを宣べ伝えているのです。神の愚かさ人は人よりも賢く、神の弱さは人よりも強いからです。

真の人生とは、死に至るまで兄弟姉妹のために全力を尽くす人生です。

チマッティ資料館

1983年サレジオ神学院の一角に建立。1階にはメディア室があり、録音曲の900以上の楽曲の楽譜を所蔵している。



階段の途中にはイタリア時代の写真、2階には自然科学博士としての研究、採集資料や、日本での宣教生活の紹介などが多数保管、展示されている。

「沈黙」主人公のキアラ神父の墓碑

資料館の前にひっそりと佇む墓碑は、逸話所作「沈黙」の主人公ロドリゴのモデルとなったジュゼッペ・キアラ神父のものである。17世紀、文京区の茗荷谷駅近くに「切支丹屋敷」があり、1643年棄教した10名の伴天連(可憐)がそこに収容された。キアラ神父は1685年に南死し、小石川無量院に埋葬されたが、1943年サレジオ会のタンナリ神父が墓碑を発見し調布神学院に移した。現在、調布市の文化財に指定されている。



聖職布のレプリカ

聖書によるとイエスのご遺体は「亜麻布・シンドン・聖職布」に包まれた。保存されたとされるその布は北イタリア・トリノにあり、そのレプリカが調布の聖堂に展示されている。その布の上にイエスと同じ十字架刑、鞭打ち、茨の冠、釘の跡、胸を刺した傷などの血痕が残っている。A B型の人間の血痕である。



カトリック調布教会

聖ヨハネ・ボスコを保護聖人とし、1967年認可された小教区。現在の聖堂は2008年に建設された。サレジオ神学院の敷地内にあり、音楽会など各種イベントも開催可能なチマッティホール(信使会館)も隣接している。



調布教会の聖堂：幕屋の形

現在の幕屋(出エジプト 33:7-23)

「モーセが幕屋に入ると、雲の柱が降りて来て幕屋の入り口に立ち、主はモーセと語られた。雲の柱が幕屋の入り口に立つのを見ると、民は全員起立し、おのおの自分の天幕の入り口で礼拝した。主は人がその友と語るように、顔と顔を合わせてモーセに語られた。」

「シンドスの教会」

1. ともにある教会：神の民
2. ともに担う教会：信仰の感覚(センス)
3. ともに考え、祈り、識別する教会：洗礼に基づく宣教の使命

「雲における会話」

1. 「わたし」一人ひとりの祈りを大切に
2. 「あなた」一人ひとりの祈りに耳を傾ける
3. 「わたしたち」意見の集約

「バストラル・プラン」

1. 「デザイン」神の望み、夢、なされたいこと
2. 「プラン」人間の知恵と知識によるデザインの具体化
3. 「プロジェクト」具体的な行動の方針



5. 巡礼前に参加者へお願いするノヴェナの祈り(チマッティ神父様)(1/2)

尊者チマッティ神父の祝福・

列聖を求める祈り

この祈りは、チマッティ神父の列福と列聖を願うものです。9日間または3日間祈ってください。それは苦しい時、病気の時、また人生の危機や困難な決断に直面した時に。

必要な恵みを求め、受けた恵みに感謝しましょう。もし信仰と信頼が揺るぎないものであれば、神はチマッティ神父の取り成しを通して恵みを与えてくださるでしょう。この期間中にゆるしの秘蹟と聖体拝領に与ることをお勧めします。



T父と子と聖霊のみ名によって。アーメン。

心の柔和、謙遜なイエスよ、
あなたは忠実に神に仕えたチマッティ神父を通して、
御父の私たちに対する愛を示して下さいました。
私たちが師の模範にならい、聖なる喜びに生き、
日々の務めを誠実に果たし、
祈りと愛による相互の一致、
また、あなたとの一致に助むことが出来ますように。

(沈黙のうちに必要な恵みを願う)

あなたの母であり、私たちの助け、
導き手である聖母マリアの取り次ぎによって、チマッティ神父の列福を
早めてください。アーメン。

主の祈り

天におられるわたしたちの父よ、
み名が聖とされますように。
み国が来ますように。
みこころが天に行われるとおりに
地にも行われますように。
わたしたちの日ごとの糧を今日もお考えください。
わたしたちの罪をおゆるしくください。
わたしたちも人をゆるします。
わたしたちを誘惑におちいらせず、悪からお救いください。
アーメン。



アヴェ・マリアの祈り

アヴェ・マリア、恵みに満ちた方、
主はあなたとともにおられます。
あなたは女のうちに祝福され、
ご胎内の御子イエスも祝福されています。
神の母聖マリア、わたしたち罪びとのために、
今も、死を迎える時も、お祈りください。
アーメン。

栄唱

栄光は父と子と聖霊に。
初めのように今もいつも世々に。アーメン。





5. 巡礼前に参加者へお願いするノヴェナの祈り(チマッティ神父様)(2/2)

元后あわれみの母 (Salve Regina)

元后、あわれみの母、われらのいのち、喜び、希望。
 旅路からあなたに叫ぶエバの子、
 なげきながら、泣きながらも、涙の谷にあなたを慕う。
 われらのためにとりなすかた、
 あわれみの目をわれらに注ぎ、
 尊いあなたの子イエスを旅路の果てに示してください。
 おお、いつくしみ、恵みあふれる、喜びのおとめマリア。

助けの聖母への祈り

キリスト信者の助け聖マリア、
 私たちのためにお祈りください。
 アーメン。



チマッティ神父の言葉

「聖性の道とは神と隣人への愛、自分の務めの実行、今の瞬間を神のために生きることです。 過ちも聖性の前進に役立つものです」。

「勇気をもって、一步一步前進しなさい。
 聖性とは、成長する木のようなもの。その実りは天国にのみあります」。

「祈りとは空気のように必要なものであり、すべてに打ち勝たせるのです」。

「私たちは良い主人のために働いている。
 その方は時が来れば報いてくださる」。



尊者ヴィンチェンツォ・チマッティの年譜

- 1879.7.15 イタリアのファエンツァで誕生
- 1882.5.14 初めてドン・ボスコを見る
- 1896.10.4 サレジオ会に入会
- 1905.3.18 司祭叙階
- 1912-1925 トリノにて教授、校長、院長として働く
- 1925.12.29 宣教師として日本へ派遣される
- 1927 宮崎教会主任司祭
- 1928-1940 宮崎、大分県初代教区長
- 1937-1949 サレジオ会初代管区長
- 1952-1965 調布サレジオ神学院院長
- 1963.5.30 病床につく
- 1965.10.6 帰天
- 1976.11.26 列福、列聖調査開始
- 1977.11.18 遺体検案、損傷は診られず
- 1983.9.2 調布チマッティ資料館落成
- 1991.12.21 教皇ヨハネ・パウロ2世により「尊者」と宣言



ヴィンチェンツォ・チマッティ SDB (1879-1965)

Vincenzo Cimatti, SDB

イタリアのファエンツァに生まれ、1926 年 来日。青少年の養成に力を注ぐ、サレジオ修道会を日本にもたらしました。宣教師として、音楽と祈り、教会、学校、孤児院の設立に献身し、日本の福音宣教のために全力を尽くしました。教会は1991年、彼を「尊者」と宣言。これは師が「信仰、希望、慈愛」の美德を英雄的に生きたことを認めるものです。私たちはチマッティ神父の列福、列聖の日が近いことを祈りましょう。

サレジオ神学院・チマッティ資料館
 〒182-0033 東京都調布市富士見町 3-21-12
 ☎090-9245-3061 (直通) .Fax 042-490-6707
<http://www.v-cimatti.com>



6. チマッティ神父様の生涯・言葉

ヴィンチェンツォ・チマッティ神父

幼い頃

- ・ ヴィンチェンツォ・チマッティは、1879年7月15日に両親のジェームスとローサ・パシのもと、ファエンツァで生まれました。
- ・ ヴィンチェンツォは6人兄弟の末っ子で、3人生き残った兄弟のうちのひとりでした。



聖なる家族

- ・ ヴィンチェンツォの姉は、Hospitalier Sisters of Mercy に所属するシスター マリア・ラファエルで、列福されました。
- ・ ヴィンチェンツォの兄、ルイジはラテンアメリカのサレジオ会の宣教師でペルーのプイラで聖なる生活を送って亡くなりました。
- ・ ヴィンチェンツォ自身は、彼が「信仰、希望、愛」を価値として英雄的に生きたことが認められ、1991年に尊者とされました。

サレジオ会員、司祭、宣教師

- ・ 1896年10月4日、ヴィンチェンツォはサレジオ会に入会しました。
- ・ 1905年3月18日、ヴィンチェンツォはアルゼンチンの宣教師枢機卿から24歳で司祭叙階されました。
- ・ 1926年2月6日、ヴィンチェンツォ・チマッティ神父は、46歳で日本の門司港に他の8人のサレジオ会員と共に上陸しました。

日本での宣教生活

- ・ 宣教師としてチマッティ神父は、自身の音楽の才能を日本での司牧と福音宣教の事業や、教会建設、学校建設、孤児院建設に活かしました。
- ・ チマッティ神父は1965年10月6日に帰天されました。
- ・ チマッティ神父の腐敗していない遺体は調布のサレジオ会修道院の地下聖堂に安置されています。

チマッティ神父が一日でも早く列福、列聖されますように祈りましょう。

聖なる生活を生きる事が出来るよう助けとなるヒント

☆「坊や、ドン・ボスコをごらん」

ヴィンチェンツォの母ローザがドン・ボスコのお説教を聞きながら、息子を抱き上げて言いました。同時にこの子の将来の泉として、彼の心にひとつの宝を置きました。彼はサレジオ会員として、聖性の道を歩みました。私達の子供に何を見せていますか。どういう宝を心に残していますか。



☆「最も貧しくて、困難で、見放されている宣教地を私のために探して下さい。くつろぎの場所はいりません。」

これはチマッティ神父のサレジオ会総長リナルディ神父への要求でした。今、私はどこにいますか。神様は私に対して何を望んでいますか。困難や犠牲が伴っても、神様の御旨を行おうとしていますか。

☆「日本人より日本的」

チマッティ神父は音楽を通して日本の文化とひとつになれました。違う文化に入るの簡単ではありません。私達の共同体も様々な国籍の兄弟姉妹で成り立っています。どのように違いを受け入れますか。

私達はこの違いを妨げとしてか、または豊かさと思っていますか。

☆「ロザリオを手に」

チマッティ神父はいつも困難なとき、ロザリオを手に他人を元気づけ、助けました。私達の人生は神の御手の中にあります。ロザリオが神様と結ばれる手段です。アベ・マリアを唱えられなくても、ロザリオを握る事はできるでしょう。聖母の御手の中にいれば、私達は確かに守られます。



☆「聖性の道とは神と隣人への愛、自分の務めの実行、今の瞬間を神のために生きることです。過ちも聖性の前進に役立つものです。」

私達は、皆すべて聖性に招かれています。神と隣人を結ぶこの道は、心を通し、兄弟姉妹への奉仕として現れます。心が本当の愛に燃えていると限界や弱さは神の恵みを運ぶ道具にもなります。このように一つひとつの今を生きる事ができるのが恵みであります。

☆「私は日本で死にたい。そして、この土地の一部になりたい。」

チマッティ神父は自分のアイデンティティを失わず、サレジオのカリスマに聖化されて日本の地になりました。彼の腐敗していない体は私達に何を示しますか。神によって置かれた土地に私は何を残しますか。愛によって生きたものは、この土地を豊かにし新しい命が芽生えて成長します。